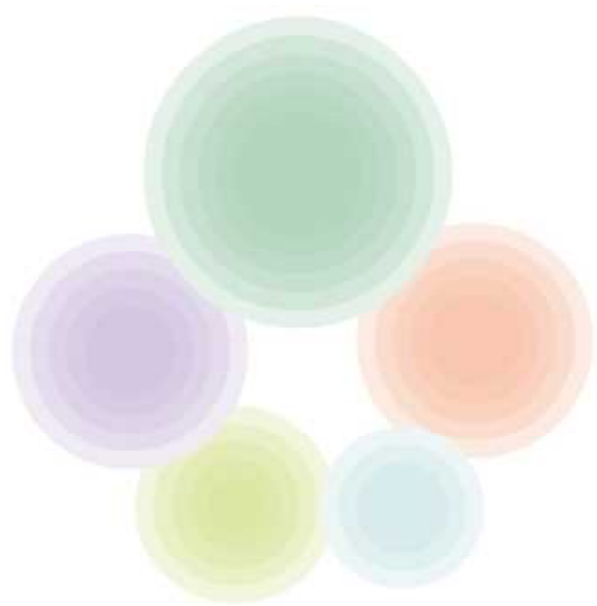


公益財団法人しまね自然と環境財団

— 令和 5 年 度 —
事業報告書



島根県立三瓶自然館サヒメル
三瓶小豆原埋没林公園
北の原キャンプ場
しまねエコライフサポートセンター

は じ め に

新型コロナウイルスは、感染症法上の位置付けが令和5年5月8日から「5類」に変更されました。マスクの着用については、令和6年4月1日からは、窓口業務などでは着用を推奨するものの個人の判断に委ねることとされました。なお、財団では集客施設入り口での自発的な検温や手指消毒は引き続き実施しているところです。

さて、県の審査を受け令和5年度から8カ年間の指定管理者として選定された昨年度は新たな第4期指定管理期間が始まり、三瓶自然館などの管理運営計画に基づく様々な取り組みの初年度となりました。初年度に当たる令和5年度は、投影機器の更新が終了したプラネタリウムや企画展を中心に多くの来館を得ることが出来ました。

春の企画展は、プラネタリウム映像クリエイターでもあるKAGAYA氏の作品展を開催し、リニューアルしたプラネタリウム映像と合わせた企画展となりました。夏期企画展では「ときめく鉱物展～地球のカケラとの出会い～」を開催しました。多様な色や形、大地を作る鉱物、島根を代表する鉱物など様々な鉱物を展示し、子供から大人まで幅広い層に人気があり、期間中46,000人余りの来館がありました。

このように、財団が運営する三瓶自然館を中心とする施設は、国立公園三瓶山の自然に親しむ場として提供することが出来、展示や普及啓発、資料収集、調査研究などを進めることで、引き続き多くの方のご利用がありました。企画展や野外観察、ドーム映像、天体観察会などを通じて当館に足を運ばれた県内外の小中学生を中心とする皆さんには、博物館を楽しみながら自然科学に親しんでいただけたものと思っています。

また、埋没林公園は大田市内の日本遺産の中核施設に位置づけられ、杉巨木の保存のための表面処理が県により引き続き行われており、加えて地下水位の安定化に向けた検討や展示棟外の埋没木の保存対策についても検討がなされているところです。そのような中、自然や歴史などをテーマとする講座型の「月イチガク」を定期開催しました。

さらに、北の原キャンプ場は、「豊かな自然環境を生かし、自然に親しむ場」となるよう管理運営に心がけ、キャンプブームがやや冷める中でも引き続き多くの利用者に来場いただくことが出来ました。

松江事務所(エコサポしまね)では、エコライフの情報の発信や環境保全団体への活動支援を通じて、地域の環境保全活動を担うボランティアが自主的、主体的に活動できるよう引き続き支援を行ってきているところです。加えて、子供向けのワークブック「ゼロカーボンチャレンジブック」の取り組みによる次世代育成や、省エネで快適な家づくりの啓発に取り組みしました。

これからも引き続き、創意工夫しながら運営に取り組み、皆さんから期待され応援いただける施設・団体となるよう職員一同努めて参ります。

令和6年4月

公益財団法人しまね自然と環境財団

理事長 松 浦 芳 彦

目 次

I. 運営方針、管理運営の体制	1
1 財団の目的	1
2 財団の事業	1
3 財団の管理する施設の概要	1
4 運営方針	3
5 管理運営の体制	3
II. 各業務の実施状況	6
1 三瓶自然館	6
2 三瓶小豆原埋没林公園	30
3 施設利用許可業務	33
4 施設の維持管理に関する業務	40
5 物品の管理等	45
III. 地球環境の保全に関する活動支援事業(環境保全活動事業)	46
IV. 北の原キャンプ場管理運営事業	63
V. 利便提供事業	66
VI. その他	67
1 数値目標を掲げた運営	67
2 利用者の推移	71
3 資料	72
4 新型コロナウイルス感染症への対応等	79
5 職員の研修等への参加	80
6 評議員会・理事会等	80
7 沿革	82

I. 運営方針、管理運営の体制

1. 財団の目的

公益財団法人しまね自然と環境財団は、島根県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護及びその他の環境の保全に関する普及啓発事業等を行い、広く県民に対して環境保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域の振興に寄与することを目的とする。

2. 財団の事業

- (1) 自然系博物館施設及び展示施設の管理運営事業
- (2) 自然保護及び自然環境に関する調査研究、並びに普及啓発事業
- (3) 環境教育及び環境学習に関する事業
- (4) 地球環境の保全に関する活動支援事業
- (5) 自然資源の利用促進等を通じた地域振興事業
- (6) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

3. 財団の管理する施設の概要

(1) 島根県立三瓶自然館サヒメル

島根や三瓶の自然、三瓶小豆原埋没林、環日本海地域の自然に関する展示、プラネタリウムや大型ドーム映像を映し出すビジュアルドーム、天体観察施設、博物館資料の収蔵庫、研究室などを備えた自然系博物館であり、三瓶山全体をひとつの野外博物館と考える三瓶フィールドミュージアムの中核としてビジターセンター機能も兼ね備えた施設である。

所在地 島根県大田市三瓶町多根1121番8

開設年月日 平成3年10月19日(平成14年4月18日拡充開館)

面積	敷地面積	14,822m ²
	建築面積総計	4,574m ² (令和元年度整備後)
	建物延べ床面積総計	8,678m ² (〃)

施設内容 本館 常設展示(ふしぎの森であそぼう、三瓶山と大地ほか)、ビジュアルドーム、受付、売店、事務室など

別館 レクチャールーム、企画展示室

新館 常設展示(三瓶埋没林、環日本海の自然、島根の自然と三瓶の自然、フィールド情報コーナー)、天体観察施設、収蔵庫、研究室、文献図書館など

附属施設 三瓶山ヘルシートレイリングコース(北の原～東の原 片道4.5km)
北の原芝生多目的広場

(2) 三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林公園は、約4千年前の三瓶山の噴火で埋もれた埋没林を現地で展示、公開する施設である。

施設は、大小二つの地下展示棟と芝生園地からなる。展示棟では、原位置のままで立ち並ぶ埋没樹を展示している。芝生園地は、発掘調査で確認された埋没林を埋め戻し保存している範囲である。当施設の敷地範囲が天然記念物(国)に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割である。

所在地	島根県大田市三瓶町多根口58番2		
開設年月日	平成15年5月2日		
面積	敷地面積	約10,000㎡	
	延面積		
	・管理棟	142.56㎡	
	・ガイダンス棟	120.00㎡	
	・大展示棟	1,142.59㎡	
	・小展示棟	97.09㎡	
施設内容	(延面積合計)	1,382.24㎡	
	管理棟	事務室、機械室	
	ガイダンス棟	ガイダンス室、受付、物販コーナー	
	大展示棟	展示室、機械室	
	小展示棟	展示室	

(3) 北の原キャンプ場

北の原キャンプ場は、国立公園三瓶山の自然の中にある県立キャンプ場として、昭和44年に開場し(平成22年に大田市に移管)、県民及び県外からの来訪者の憩いの場としての役割を果たしている。

広い敷地内に一般サイト、オートサイト、ケビン、団体向けの集団サイト、キャンプファイヤー場があり、個人客のほか学校団体や企業の職員研修等に利用されている。

また、平成24年度に大田市により、犬と泊まれるバンガローとドッグランが設置されており、愛犬と利用できる環境も整備されている。

所在地	島根県大田市三瓶町多根1121番1		
開設年	昭和44年		
面積	敷地面積	180,891㎡	
	延面積		
施設内容	セントラルロッジ	受付、事務室、多目的ホール、売店など	
	オートキャンプサイト	73区画	
	一般キャンプサイト	フリーサイト(テント200張可)	
	ケビン	大型ケビン3棟 小型ケビン10棟	
	バンガロー	5棟	
	ドッグラン	2区画、休憩所1棟	

その他(シャワー棟、キャンプファイヤー場、炊事棟、トイレ棟 など)

4. 運営方針

当財団は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設(三瓶小豆原埋没林公園)、大田市の施設である北の原キャンプ場の指定管理者として、それぞれ島根県並びに大田市から指定されている。

これらの施設の運営にあたっては、次の6つの基本方針を共有しながら、各施設の特色を発揮させるとともに、法人として「自然に関するシンクタンク」的役割を担い、もって社会に貢献していくことを目指している。

- ・自然とのふれあいの機会を充実させ、持続可能な社会へ向けた人材育成につなげる。
- ・調査研究・資料収集といった、博物館としての役割も着実に進める。
- ・期待以上の接遇で対応し、知的好奇心を満たすことで、満足度の向上を図る。
- ・多くの人々や機関との関わりを大切にする。
- ・感染症対策の実施などにより来館者が安心安全に楽しめる館を目指す。
- ・安定した経営のために、訴求力の高い取り組みなどにより入館者数の確保に努める。

また、松江事務所(しまねエコライフサポートセンター)を中心に展開する環境保全活動では、県民一人ひとりの自発的な環境配慮行動を促すため、行政機関や地域で活動する様々な主体との協働・連携により、地球環境問題に関する普及啓発を行っており、事業実施に当たっては効率的で効果的な事業展開に努めている。

5. 管理運営の体制

□評議員・役員名簿(評議員7名、役員7名、計14名)

<評 議 員>

評 議 員	大 國 晴 雄 (R5. 6. 22～)
	國 井 秀 伸 (R5. 6. 22～)
	鈴 垣 英 晃 (～R5. 6. 22)
	高 瀬 寿 子
	高 橋 泰 子
	龍 善 暢 (R5. 6. 22～)
	成 相 優
	平 塚 貴 彦 (～R5. 6. 22)
	宮 永 龍 一
	蓮 花 正 晴 (～R5. 6. 22)

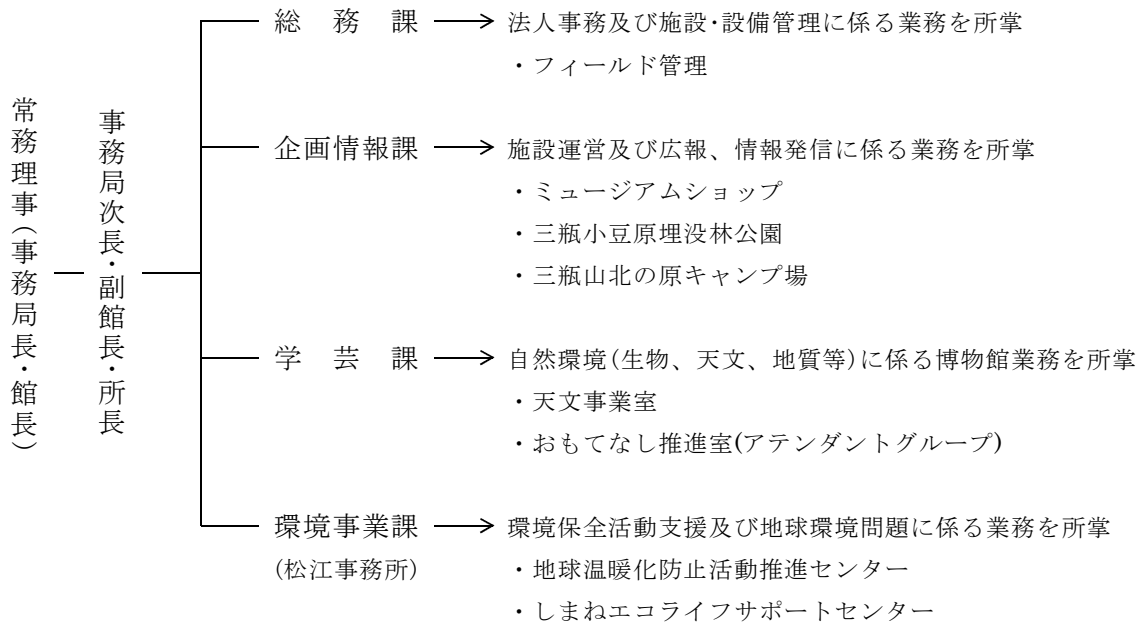
<役 員>

理 事 長	廣 澤 卓 嗣 (～R5. 6. 22)
〃	松 浦 芳 彦 (R5. 6. 22～)
常務理事	酒 井 浩 純
理 事	石 田 弘 行 (～R5. 6. 22)
	大 屋 剛 (R5. 6. 22～)
	神 在 英 寛 (R5. 6. 22～)
	末 成 弘 明 (～R5. 6. 22)
	梅 恒 雄
監 事	松 村 浩
	安 井 尚 之

□三瓶自然館運営委員名簿(9名 自然館の運営について有識者の意見等を徴取する委員会)

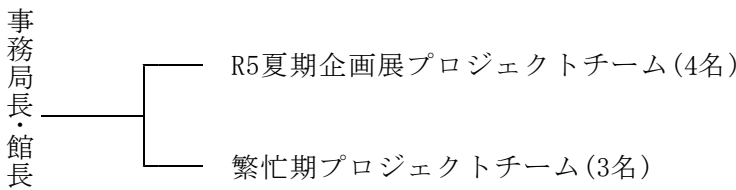
委員長	島田一嗣	委員	土井善浩
委員	尾原敏則		原耕資 (R5.7.1～)
	駒川一彦 (R5.7.1～)		堀江真佐邦 (～R5.6.30)
	曾田元気		松本一郎
	竹下和宏 (R5.7.1～)		宮本有樹 (～R5.6.30)
	武田祐子		山口啓子 (～R5.6.30)
	田中正樹 (～R5.6.30)		

□事務局



□プロジェクトチーム(令和5年7月1日現在)

重点課題や特定の業務を処理するため、課の枠を超えた職員構成によるプロジェクトチームを設置し対応にあたった。



□職員名簿(令和5年7月1日現在) 56名(役員1名、職員40名、臨時職員15名)

【財団本部】50名

事務局長・館長	酒井浩純
事務局次長	石田浩二
副館長	井上雅仁

＜総務課＞10名

課長	米浦道子
主事	田原いづみ
〃	山本健太郎
〃	古川健斗

(フィールド管理)

チーフ	高木保
スタッフ	三輪洋二
〃	大上雅史
〃	古谷利雄
〃	財間昭典
〃	中山康博

＜企画情報課＞17名

課長	中村唯史
企画員	竹下瑠美
〃	石橋良美
〃	石田操太
〃	佐藤隆人
スタッフ	熊谷正浩

(小豆原埋没林公園)

チーフ	大野志津香
スタッフ	中山侑也
〃	山下沙利奈
〃	川原裕樹
〃	福田哲夫

(北の原キャンプ場)

チーフ	岡田桂
スタッフ	藤原昌己
〃	石田弓子
〃	桐原信夫
〃	松浦恒夫
〃	佐和宏一

＜学芸課＞21名

課長(取扱・植物)	井上雅仁
課長代理(鳥類)	星野由美子
企画幹(昆虫)	皆木宏明
主任研究員(哺乳類)	安藤誠也
主任研究員(植物)	松村美雪
研究員(地学)	今井悟
スタッフ(昆虫)	三島秀夫
スタッフ(植物等)	松原勝志

(天文事業室)

室長(天文)	竹内幹蔵
主任研究員(天文)	太田哲朗
主任研究員(天文)	矢田猛士

(おもてなし推進室)

室長	大草秀美
チーフ・アテンダント	山本めぐ美
サブチーフ・アテンダント	小田佐由香
アテンダント	大谷朗子
〃	宮脇成美
〃	和田ひみこ
〃	西本晶子
〃	大庭咲枝
〃	西本芽生
スタッフ	細田須美子

【松江事務所】6名

所長・センター長	松本洋子
----------	------

＜環境事業課＞5名

課長・副センター長	葭矢崇司
企画幹	野崎研
企画員	伊藤玲子
〃	川本愛祈
スタッフ	門脇恵美

※「センター」とは、「島根県地球温暖化防止活動推進センター」をいう。

※網掛けは臨時職員として雇用する者。

Ⅱ. 各業務の実施状況

1. 三瓶自然館

夏期には広い世代に人気のある鉱物をテーマとした企画展を開催した。また春期はプラネタリウム映像クリエーターの作品展を、冬期は自然写真をテーマとした企画展を催し、県民に向けて自然への興味関心を深める機会を提供した。企画展以外にも、様々なイベントを開催するとともに、調査研究や資料収集の継続、講師派遣などによる学校教育や生涯学習に貢献した。

(1) 常設展示

県立の自然系博物館であること、三瓶山地区のビジターセンターであることをふまえ、島根県及び三瓶山の自然、三瓶小豆原埋没林、島根県を中心とした環日本海地域の自然、天文分野の展示パネル、剥製やレプリカ、映像などの展示を行っている。

また、新しい展示として、研究員(学芸員)の活動を紹介するコーナーを設置し、博物館としての活動にも興味を深めてもらう工夫をした。

□館内案内・テーマ解説

館内案内はアテンダントにより随時実施しているほか、研究員によるテーマ解説(館内展示や特定分野に関する専門的解説)を、予約を受けて実施した。(実施状況は「Ⅵ. その他 3. 資料(p. 72)」参照)

実施数：10件 290人(テーマ解説)

□研究員の調査研究を紹介する展示「学芸員のとおき」

研究員とその調査研究や活動を紹介する別館-新館間の回廊に設置した。1月～6月を前期、7月～12月を後期とし、各2名ずつが研究内容に関するパネルと関連標本や調査道具を展示した。

前期：安藤誠也「コウモリ研究最前線!」、今井悟「地層と化石から激動の日本海拡大時代を探る!」

後期：井上雅仁「三瓶山の草原が好きで研究や活動をしています」、竹内幹蔵「国旗の中の天体」

(2) 企画展・特別企画展等の企画・立案・運営

①春期企画展

「KAGAYA 星空の世界」

プラネタリウム映像クリエーターであり、星空写真家でもあるKAGAYA氏による星座や神話についてのデジタルペインティング、世界各地の星空写真等を展示した。

KAGAYA氏は、身近なものから宇宙に至るまで、すべてを私たちにつなげた「自然」と捉えており、見る人に神秘を感じさせたり、安らぎを与えたりする。それは、自然や環境について啓発を行う当館の活動と通じるところがあり、作品をとおして観覧者に、天文・宇宙を含めた自然の奥深さや不思議さを感じてもらった。

期 間：3月11日(土)～5月28日(日) ＊会期：69日間(休館日を除く)

入場者：21,640人(総入館者数、天体観察会除く)

◆展示構成

□デジタルペインティング

「星天日和(星空と風景)」、「スターリーテイルズ(星座と神話)」、「12星座」、「銀河鉄道の夜」の各シリーズの作品合計44点を、本館2階ギャラリー・回廊から企画展示室にかけて展示した。

□写真作品、その他

国内外で撮影された壮大な星景写真を中心とする星空の写真のほか、タペストリー、小物類等合計70点以上を企画展示室とその周辺で展示した。

②夏期企画展

「ときめく鉱物展 ～地球のカケラとの出会い～」

展示を通して多種多様な鉱物に出会い、その魅力に触れることで、これまではただの石ころだと思っていたものが宝物に見えるようになったり、身近な場所の鉱物に出会いに行くことで、地球の成り立ちや地域の自然環境への興味や関心が高まることを目的とした企画展を開催した。展示鉱物標本数：299点

期 間：7月15日(土)～9月24日(日) ＊会期：68日間(休館日を除く)

入場者：44,778人(総入館者数、天体観察会除く)

◆展示構成

□導入(本館1階ホール)

企画展の導入部として、日本最大級のアメシストドームを展示した。

□「島根の成り立ちと鉱物」(本館2階)

島根の成り立ちと関係の深い鉱物や、島根で見つかっている中でも特に科学的に価値のある鉱物、石見銀山の鉱石に含まれる鉱物などを紹介した。

主な展示：輝水鉛鉱、ぶどう石、霰石、花崗片麻岩、黒曜石、高橋家標本

□メイン展示(別館2階 企画展示室)

「鉱物のキホン」、「鉱物のふるさと」、「鉱物のイロドリ」、「鉱物のカタチ」、「鉱物のフシギ」、「鉱物とヒト」、「島根県鉱物誌 都茂鉱山」、「鉱物に触ってみよう」というコーナーを設け、多種多様な鉱物の展示を行った。

主な展示：石英(煙水晶)、石英(紫水晶)、湯河原沸石、逸見石、北海道石、ダイヤモンド、藍晶石、ペグマタイト、孔雀石、トルマリン、蛍石、石英(日本式双晶)、石膏、月のおさがり(ビカリア化石)、方解石、黒雲母、蛍光鉱物、金鉱石、ラピスラズリ、ひすい、都茂鉱

□その他の展示

さまざまな来館者が企画展を楽しめるよう、回廊等で関連の展示を行った。

主な展示：鉱物写真展(提供：渡邊克晃氏)、参加型展示(「石にまつわる思い出」、「石が好きな子どもを持つ親の本音」、「みてみて！私の推し石」)、誕生石の紹介、ゲームに登場する石たち、鉱物クイズ、工作コーナー(新館4階)、記念撮影コーナー(新館4階)

◆関連イベント

□小さな宝石探し

実施日：7月30日(日)

参加者：72人

内 容：参加者が三瓶山の火山灰などに含まれている鉱物を取り出した後、顕微鏡による観察を行った。観察した鉱物はオリジナルの台紙に貼り付けて持ち帰った。

□鉱物実験教室

実施日：8月6日(日)

参加者：46人

内 容：国立科学博物館 地学研究部長の宮脇律郎氏を講師に招き、鉱物実験教室を開催した。参加者はさまざまな実験を通して、鉱物の不思議な性質を学ぶことができた。

□講演会「大地の恵み、鉱物～歴史にきらめく島根ゆかりの石たち～」

実施日：8月6日(日)

参加者：49人

内 容：大阪大学総合学術博物館招へい研究員で、新種鉱物「北海道石」の研究チーム員の石橋隆氏を講師に招き、島根県の歴史と鉱物の関係や北海道石についての講演および鉱物鑑定会を開催した。

□石・土・鉱物工作まつり

実施日：9月10日(日)

参加者：130人

内 容：鉱物や岩石等をテーマにした親子向けの工作教室を行った。

③冬期企画展

「第44回SSP展 自然を楽しむ科学の眼」

日本自然科学写真協会(SSP)の巡回展を招致し、動物・鳥類・昆虫・植物などの生物写真、山岳・天体などの自然写真を含む計103作品の展示と動画作品12点の上映を行った。会場は本館と新館をつなぐ回廊部分及び企画展示室とし、分野ごとにエリアを分けて展示した。生物たちが見せる一瞬の姿を捉えたもの、国内外の地質的に珍しい風景を撮影したものなど、地球環境の素晴らしさを広く来館者に伝える企画展となった。

期 間：12月23日(土)～令和6年1月28日(日) ＊会期：26日間(休館日を除く)

入場者：2,684人(総入館者数、天体観察会除く)

④その他の展示

□中国四国の国立公園展～アクティブレンジャーが伝える自然と活動

期 間：4月29日(土)～5月24日(水)

入場者：11,197人(期間中入館者数)

場 所：本館1階ギャラリー

内 容：環境省中国四国地方環境事務所が主催し、中国・四国地方の国立公園で活動する環境省のアクティブレンジャーが撮影した自然景観や自然保護活動風景の写真約30点を展示した。

□「ことのは大賞」作品展示

期 間：4月29日(土)～6月4日(日)

入場者：13,693人(期間中入館者数)

場 所：本館1階ホール

内 容：島根県子ども・子育て支援課の依頼により、島根県が募集した、子育てや子ども、家族に関する楽しさ、うれしさや感動などを、ひとことで表した「ことのは(言葉)」について、これまでの受賞作品(イラスト付き)の展示を行った。

□動物愛護啓発展示

期 間：9月8日(金)～9月24日(日)

入場者：11,376人(期間中入館者数)

場 所：本館1階ギャラリー

内 容：島根県県央保健所が主催し、譲渡可能な犬・猫の情報、動物愛護に関するパネル、啓発ビデオ等の展示を行った。

□期間展示「リト@葉っぱ切り絵展」

期 間：10月28日(土)～11月26日(日)

入場者：9,364人(期間中入館者数)

場 所：企画展示室

内 容：SNSを中心に作品を発信している「リト@葉っぱ切り絵」氏の作品展。額装された葉っぱ切り絵と拡大パネルのセットを20点展示した。一枚の葉っぱに物語のワンシーンを切り抜いた心あたたまる作品は、老若男女問わず好評を得た。

(3) ビジュアルドーム

①プラネタリウムの一般投影

星座案内(プラネタリウム生解説投影)と、オリジナルで制作したプログラム番組(テーマ番組)を投影した。

□星座案内

期 間：通年

観覧者：18,925人

内 容：その日見られる天体や星座などを紹介し、話題となっている天文現象の話などを織り交ぜて、解説員による親しみやすい生解説投影を行った。1回の投影時間は約30分である。令和4年度はプラネタリウム機器の更新に伴う休場期間があったことから観覧者数は8,607人だったが、令和5年度は休場期間も無く、リニューアル効果もあり観覧者数が増加した。

□テーマ番組

*ゆうすげ村の小さな旅館

期 間：通年

観覧者：4,987人

内 容：まるで三瓶のような里山を舞台にしたほのぼのとした物語で、小学校の国語の教科書にも掲載されている茂市久美子氏の童話プラネタリウム番組。(令和4年度制作)

＊一番星の女神～金星の謎に迫る～

期 間：4月1日(土)～5月7日(日)

観覧者：1,026人

内 容：春から初夏にかけて金星が宵の明星として見えることから、その紹介として投影を行った。地球と同じような大きさを持ちながらその環境が大きく異なる金星の謎を最新研究結果をもとに紹介する番組。(平成26年度制作)

＊夜ふかしするほど面白い「月の話」

期 間：5月8日(月)～5月31日(水)

観覧者：240人

内 容：人類が初めて降り立ってから約半世紀が経った現在でも、月には未解明な謎が多く残されている。古代から太陽とならび人々に身近な存在である月の不思議を紹介する番組。案内人は落語家の立川志ら乃氏。(平成30年度制作)

＊郷土の天文学者・堀田仁助の物語

期 間：6月1日(木)～7月14日(金)

観覧者：112人

内 容：江戸幕府天文方でヨーロッパの天文学を基にした改暦に貢献したほか、伊能忠敬に先んじて正確な西洋式測量技術を基にした北日本の地図を作成した津和野藩の天文学者・堀田仁助を紹介する番組。(令和3年度制作)

＊スペースアドベンチャー～ユウトの銀河系探検～

期 間：9月30日(土)～10月30日(月)

観覧者：254人

内 容：天体観察会に参加した「ユウト少年」が、不思議なお兄さんとともに太陽系や銀河系のいろいろな天体を探検し、宇宙の中の地球や生命について思いを巡らせる番組。字幕メガネ対応作品。(平成21年度制作)

＊秘密結社 鷹の爪 THE PLANETARIUM～ブラブラ！ブラックホールのナゾ～

期 間：11月1日(水)～12月3日(日)

観覧者：354人

内 容：人気アニメ「秘密結社 鷹の爪」のキャラクターを使った番組。島根県出身の登場人物「吉田くん」を用いて島根を取り上げつつ、多くの人が興味を持つブラックホールを科学的な主題として、最新の宇宙論をおもしろく、わかりやすく伝える番組。(平成23年度制作)

＊氷の火山～太陽系の活火山～

期 間：12月9日(土)～1月29日(月)

観覧者：120人

内 容：太陽系の衛星に見つかった氷火山(アイスボルケーノ)をテーマに、発見の経緯やその存在から予測される地球外生命の可能性について最新の研究成果をもとに紹介する番組。語りは声優の堀江由衣氏。(平成28年度制作)

＊470億光年の、その先へー宇宙のはてをさがす旅ー

期 間：1月31日(水)～3月3日(日)

観覧者：78人

内 容：「宇宙の果てはどこにあって、どうなっているのか」という誰もが抱く疑問について、現代の科学が解明してきた宇宙の構造を分かりやすく表現しながら、主

人公の二人が宇宙を旅するという物語風に紹介する番組。(平成27年度制作)

＊スタートレイン～宙は十重にも二十重にも～

期 間：3月9日(土)～3月31日(日)

観覧者：703人

内 容：十重(とえ)にも二十重(はたえ)にも重なるように広がる宇宙。星空に隠れている3つの世界を結ぶ列車に乗って、果てしない宇宙の広がり確かめに出かける番組。(令和5年度制作)

その他、予約によるライブラリ作品の上映

期 間：随時

観覧者：412人

□その他

＊きっずプラネタリウム

実施日：毎月の第3日曜日

観覧者：795人

内 容：小さな子どもがプラネタリウムという非日常的な空間を怖がるため、楽しい空間作りを心がけた投影にした。親子で楽しめる演出で、成長に合わせ宇宙への関心を深めるきっかけになることを目指した。

＊字幕付きプラネタリウム「月を見上げて」

実施日：9月15日(金)～9月21日(木)、12月3日(日)、12月9日(土)

観覧者：126人

内 容：老人週間および障害者週間にあわせて、聞こえに不安がある人や、聴覚障がいを持つ人を主な対象に、プラネタリウム番組に字幕を付けて解説する番組を投影した。馴染みの深い天体である月をテーマに、星空への親しみを深めてもらう内容とした。

◆プラネタリウム学習投影

実施数：14回

観覧者：276人

学習指導要領に沿った内容として「小学4年生向け投影」、「小学6年生向け投影」、及び保育園や幼稚園等の未就学児を対象に星空に親しむきっかけ作りを目的とした「幼児向け投影」を、学校団体の希望にあわせて投影した。

小学4年生向け投影	10回	(165人)
小学6年生向け投影	1回	(37人)
幼児向け投影	3回	(74人)

②大型ドーム映像の上映

デジタル式全天周映像システムにより、オリジナル番組及び特別番組の上映を行った。

◆特別番組

□「もしものときのがんこちゃん 富士山がふんかしたら？」

期 間：7月15日(土)～9月24日(日)

観覧者：6,912人

内 容：夏期企画展の関連番組として上映した。近年、いつ噴火してもおかしくないとされている富士山について、富士山はそもそもどんな山なのかをハザードマップに

基づくCG映像とともに紹介し、火山が噴火したらどう行動すればいいかを考える防災番組である。

◆オリジナル番組

□「さんべ自然紀行」

期 間：通年

観覧者：1,540人

内 容：三瓶自然館のオリジナル番組で、四季折々の三瓶山の表情と、そこに息づく生き物たちを追った「さんべ自然紀行」を上映した。字幕メガネ対応作品。

(4) 各種イベントの企画・立案・実施

□さんべの森たんけんたい～春の森であそぼう～

実施日：4月23日(日)

参加者：親子8組27名

内 容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベント。飯盒炊きで、おにぎり弁当を作り、北の原を散策した。多目的広場で自分たちで作った凧をあげたり、芝滑りをして楽しんだ。

□ゴールデンウィーク天体観察会

実施日：5月3日(水)～5日(金)

参加者：293人

内 容：ゴールデンウィーク期間中の天体観察会を開催し、薄曇りながらも月や惑星、春の天体を望遠鏡で観察したり、星座をたどったりした。

□バードウォッチング講座

実施日：5月14日(日)

参加者：23人

内 容：風が弱く、曇りがちのさわやかな天候で、散策しながら野鳥の声を聞くには適した条件であった。定番のキビタキやクロツグミの声がよく響いており、どの班もキビタキの姿を見ることができて高い満足感につながった。これまでのアンケート結果から開始時刻を早め、散策時間を2時間に設定したことは好評だった。

□さんべの森たんけんたい～初夏の森であそぼう～

実施日：6月4日(日)

参加者：親子7組25名

内 容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベント。キャンプ場内でキイチゴの実を摘み、ジャムにして、手作りパンにつけて食べた。食事の後は、場内でクワの実を食べたり、竹を使ったクラフト等をして楽しんだ。

□夏の夜の昆虫観察

実施日：7月22日(土)

参加者：40人

内 容：夜間に三瓶の森で見られる昆虫を探すイベント。参加者と懐中電灯を持って森に入り、セミの羽化やクワガタムシ類、コガネムシ類など夏の夜に活動している昆虫たちを探してその種類や生態を観察したり、ライトトラップに集まる昆虫を観察した。

□夏休み天体観察会

実施日：8月11日(金)

参加者：100人

内 容：夏休み期間中の天体観察会を開催し、雲が多い空模様だったが晴れ間から星雲や星団などの天体を観察した。

□秋の天体観察会

実施日：9月17日(日)、10月8日(日)

参加者：137人

内 容：秋の三連休に合わせた天体観察会を開催した。9月は土星や星団、銀河など秋の天体を観察できたが、10月は曇天のためプラネタリウムを投影した。

□秋の七草観察会

実施日：9月17日(日)

参加者：12人

内 容：三瓶山西の原の草原を散策し、秋の七草や季節の生きものの観察を行った。本イベントの企画・運営は当館ボランティア団体である三瓶自然館インタープリターの会が行った。

□ススキの迷路

実施日：10月7日(土)～11月5日(日)

参加者：10,124人

内 容：北の原に広がるススキの草原を刈り込み、迷路を作成した。本年度は初級、中級、上級の3コースを作成した。

□夜のコウモリ観察会

実施日：10月14日(土)

参加者：15人

内 容：コウモリの生態についてのスライドや剥製、骨格標本などを見た後、参加者らは日没後の北の原に出てコウモリを探した。バットディテクター(超音波探知機)を使って、飛行中のコウモリが発する音波を探索した。

□全国一斉プラネタリウム100周年記念イベント

実施日：10月21日(土)

参加者：25人

内 容：プラネタリウム100周年記念の日の夜、全国のプラネタリウム館をインターネットでつなぐ一斉イベントに会場館の一つとして参加した。宇宙飛行士・山崎直子氏等が出演し、プラネタリウムの歴史紹介、日本初のプラネタリウムがある大阪からの生中継、世界からのビデオメッセージの紹介、ドイツ博物館の記念式典会場からの生中継、100年前の星空全国一斉投影等が行われた。

□さんべの森たんけんたい～秋の森であそぼう～

実施日：10月22日(日)

参加者：親子8組28名

内 容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベント。飯盒炊さんとカレー作りにチャレンジした。食事の後は、まつぼっくりを使った運動会を開催。

玉入れや的当て等をして楽しんだ。

□プラネタリウム100周年記念イベント「サヒメル・プラネタリウム・スペシャルデー」

実施日：11月3日(金)

参加者：274人

内 容：プラネタリウム100周年記念イベントとして、ビジュアルドームにおいて一日をとおり様々なプラネタリウム投影を行った。その内容は、「全国一斉100周年記念イベント(録画)」、「ゆうすげ村の小さな旅館」、「12星座めぐり」、「アテンダントのイチ推し『夜ふかしするほど面白い月の話』」、「一夜語 特別編 百年前の星空」、「プラネタリウムの星空撮影会」、「星空案内」とした。サヒメルギャラリーでは、島根を含めたプラネタリウムの歴史についてのパネル展示を行った。

□熟睡ブラ寝たリウム

実施日：11月23日(木・祝)～12月3日(日)

参加者：406人

内 容：普段は眠ってしまうことに少し後ろめたさを感じるプラネタリウムだが、逆に寝てもらおうという趣旨でプラネタリウムの投影を実施した。今年のテーマは思い出に残る天文現象とし、1994年に木星に衝突したシューメーカー・レヴィ第9彗星や日食、月食などの記録映像を映し出した。対象者は昨年同様中学生以上とした。

□お正月イベント

実施日：1月2日(火)、3日(水)

参加者：451人(有料入館者数)

内 容：感染症対策のため中止していた書き初めコーナーやお正月の遊び体験コーナー、ビンゴ大会を3年ぶりに行った。また、干支の辰にまつわる関連展示や、お正月限定のプラネタリウム生解説、冬期企画展ギャラリートークも実施した。

□雪の三瓶でアニマルトラッキング

実施日：1月28日(日)

参加者：8人

内 容：動物たちの痕跡を探して、雪の積もった北の原周辺を散策した。キツネやタヌキ、テンにノウサギなど、様々な動物の足跡が観察できた。解説はインタープリターが担当した。

□さんべの森たんけんたい～冬の森であそぼう～

実施日：2月4日(日)

参加者：親子8組29名

内 容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベント。火おこしから始まり、たき火で持ち寄った食材を焼いて食べたり、焼きいも作りにもチャレンジした。食事の後は、ソリ滑りやかまくら作り等をして楽しんだ。

□星よりも、遠くへ

実施日：3月9日(土)

参加者：コンサート23人、プラネタリウム16人

内 容：東日本大震災を記憶に留めるためのイベント。震災の星空と被災者たちとのつな

がりを描いた、仙台市天文台制作のプラネタリウム番組「星よりも、遠くへ」の特別投影と、「まい&れいれい」によるバイオリンとピアノのコンサートを行った。

□サヒメル科学探険隊

実施日：5月21日(日)、6月11日(日)、9月3日(日)、10月22日(日)、11月12日(日)

参加者：24人

内 容：小学4～6年生を対象に自然科学に関する体験活動や観察を行った。年度当初に参加者を募集し、定員を超える申込みがあった。下記の全5回の活動を行い、自然科学への関心を高め理科好きな子供たちが交流し活動する場となるなど有意義な活動となった。なお、第4回の活動は島根大学と共催で実施し、島根大学の研究者を講師に迎え、大学演習林をフィールドに行った。

第1回 国立公園を知ろう/学芸員の仕事体験

第2回 多伎の海岸で水晶を探してみよう

第3回 三瓶山の自然を調べよう/地球冷却微生物を探そう

第4回 大学の研究者と一緒に活動！森に降る雨を調べてみよう

第5回 ハチの巣の構造を調べてみよう/1年間の活動発表

□親子で作ろう工作教室

実施日：5月28日(日) 風鈴 (13人)

6月4日(日) 森のキツツキ (10人)

7月9日(日) 葉脈の見えるしおり (4人)

7月23日(日) 木琴 (20人)

8月27日(日) 木の実の工作 (14人)

10月1日(日) つるのかご (15人)

10月15日(日) カタカタくだり (21人) ()内は参加人数。

内 容：自然や科学をテーマにした親子向けの工作で、企画と実施をインタープリターが担当した。

□きっずサンデー

実施日：毎月第3日曜日(しまね家庭の日)

参加者：8,213人

内 容：しまね家庭の日に合わせて、子どもたちの自然や環境についての興味関心を高めるため、子ども向けのイベントを全館で実施した。きっずプラネタリウムの投影、デジタル紙芝居、ワークショップ、テンピーとのふれあいなどを実施した。また、保護者同伴での小中学生の入館料を無料とした。

□みんなでさわろう♪わくわくワゴン

実施日：毎月第4日曜日

参加者：178人

内 容：三瓶自然館インタープリターによる展示室における標本解説の活動で、普段さわることができない様々な標本に触れながら、生きものの特徴や生態を紹介するプログラムである。本年度は「テンピーと北の原の動物たち」、「三瓶で会えるかもしれない動物たち」、「チョウとガのちがい」、「この葉なんの木」、「原っぱで牛のウンチを食べる虫たち」などのテーマで活動したほか、新しいプログラム「この子だぁ～れ(哺乳類の頭骨標本による比較検討)」を作成した。

(5) 自然学講座の開催

①講師を招いた講演会

□大地の恵み、鉱物～歴史にきらめく島根ゆかりの石たち～

詳細はp. 8に掲載

②学芸課スタッフによる講座型事業

□教員のための博物館の日

実施日：サヒメル会場：8月2日(水)

アクアス会場：8月4日(金)

参加者：サヒメル会場：33人(うちプレ期間17人)

アクアス会場：13人

内 容：学校の博物館利用を促進することを目的に、三瓶自然館およびしまね海洋館において「教員のための博物館の日」を開催し、「生きもの世界から持続可能な仕組みやヒントを探す」をテーマに、ワークショップを実施した。また、ポスター発表として、学校と三瓶自然館やしまね海洋館との連携事例の紹介を行った。なお、本事業は第18回科学教育の普及・啓発助成事業の支援を受けて実施したものである。

プログラム

ワークショップ		講 師
1	コップ1杯の土の中の生き物観察(共通)	当財団職員
2	小さな宝石探し(会場：三瓶自然館)	当財団職員
3	顕微鏡を使って魚の鱗を見てみよう～鱗からわかること～(会場：三瓶自然館)	梶 明広氏、周藤愛弥氏(しまね海洋館アクアス)
4	海のミステリーツアー in アクアス(会場：しまね海洋館アクアス)	葭矢崇司(エコサポしまね/当財団職員) しまね海洋館アクアススタッフ
ポスター発表による事例紹介		発 表 者
360度カメラで撮影した星空写真を活用した第4学年「星の学習」		松村弥紀先生(大田市立仁摩小学校)
児童の主体的な学びを支える自然館・水族館の活用(今年度の1学期の実践)		大國寛和先生(大田市立仁摩小学校)
島根県立三瓶自然館サヒメルでの活動プログラムを取り入れた国立三瓶青少年交流の家での宿泊研修		向原将平先生(国立三瓶青少年交流の家)
ICTでつなぐ水族館と特別支援学校		山口慶子氏(しまね海洋館アクアス)ほか
地域の温泉水を活用した放射線学習		当財団職員

□バードウォッチング講座

詳細はp. 12に掲載

□夜のコウモリ観察会

詳細はp. 13に掲載

(6) 天体観察会の実施

20cmクーデ式屈折望遠鏡4基と60cm反射望遠鏡を活用し、個人向け・団体向け観察会のほか、ゴールデンウィークと夏休みの多客期に観察会を実施した。

合計参加者数：4,154人(天文ミニガイドは除く)

①個人向け天体観察会

実施日：毎週土曜日(1回45分)

開始時刻：(4-8月)20:00～、21:00～、(9-11月、3月)19:00～、20:00～、(12-2月)19:00～

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
参加人数	152	136	194	294	438	352	267	133	40	11	37	64	2,118

②団体向け天体観察会

学校団体・一般団体を対象にした天体観察会で、土曜日と休館日他を除く日に予約により実施している。曇天・雨天時にはプラネタリウムの投影を行う。(実施状況は「VI. その他 3. 資料(p. 72～73)」参照)

実施数：40団体 1,506人

③特別天体観察会

□ゴールデンウィーク天体観察会、夏休み天体観察会、秋の天体観察会

合計参加者数：530人 ※詳細はp. 12～13に掲載

④天文ミニガイド

土曜、日曜、祝日の日中に、太陽や昼にも見られる天体を対象とした観察会を実施している。雨天・曇天時には隕石などの展示物の解説を行う。

合計参加者数：1,346人

(7) 自然観察会の実施

①定期自然観察会「北の原お散歩ツアー」

実施日：毎週土曜日(4～11月)

内容：三瓶北の原草原で見頃を迎えた季節の花や景色を楽しみながら行う自然観察会で、来館者が気軽に参加できるよう30分間で実施した。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
参加人数	10(2)	5(2)	8(2)	22(2)	24(4)	24(4)	18(3)	2(1)	113(20)

()内は回数 ※悪天候時は中止

②予約自然観察会

事前の予約に応じて行う自然観察会、学校団体等を中心に好評を得ている。(実施状況は「VI. その他 3. 資料(p. 73～74)」参照)

実施数：51団体 1,352人

(8) 環境学習の推進

□講師派遣

各種団体や学校、生涯学習施設などの要請に対して、各専門分野の職員が赴き、自然や環境についての講演や観察会を行うなど、環境教育や環境学習に協力した。(実施状況は「VI. その他 3. 資料(p. 74～76)」参照)

実施数：70件 2,396人

□スーパーサイエンスハイスクール・サイエンスセミナーなどへの協力

＊島根県立大田高等学校1年生 三瓶サイエンスセミナー

日 時：9月13日(水)、14日(木)

生徒数：39人

内 容：研修①・・・天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察

研修②・・・身近にもある放射線の調査と観察

研修③・・・ヒトと動物の骨格の比較

研修④・・・黒ボク土の観察

□教員のための博物館の日

詳細はp.16に掲載

(9) 博物館資料の収集・保管、活用

①各分野の資料収集整理

◆指定管理財源における資料収集整理

□地学標本(岩石標本の収集、分類)

島根県内の化石および鉱物標本の採取、地層剥ぎ取り標本の作製、三瓶山起源の火山灰および古土壌の大型薄片の製作を実施した。また夏期企画展に関連して、3名の方から計6点の鉱物標本の寄贈を受けた。

・化石標本：4点(大田市2点、松江市2点)

・地層剥ぎ取り標本：3点(出雲市2点、大田市1点)

・鉱物標本：整理中(益田市、美郷町、大田市)

寄贈標本：6点(北海道石2点、フェリぶどう石、鉄ジュルゴルド石、めのう、方解石)

・製作標本：2点(三瓶山起源の火山灰および古土壌の大型薄片)

□天体画像(その他有用な資料の収集、分類及び整理)

天体、天文現象を画像・映像資料として記録した。

おもな撮影対象：月、ペルセウス座流星群、ふたご座流星群、部分月食、西村彗星、レモン彗星、ポン・ブルックス彗星、小惑星バウアスフェルダ、月と惑星の接近、超新星SN2023 ixf、星座、星景 など

□動物標本(斃死鳥獣の収集と剥製作成)

動物標本として、鳥類4点、哺乳類1点を製作した。

・鳥 類：イカル、ジョウビタキ、マミジロ、ハシボソガラス(以上本剥製)

・哺乳類：ヒナコウモリ(仮剥製、頭部骨格標本)

伊達コレクションの再整理では、スズメ目の再鑑定および新ラベル装着のチェック作業が終了し、非スズメ目の約300体の種名確認等を実施した。

□昆虫標本(昆虫標本の収集、分類及び整理)

寄贈及び調査研究等により収集した昆虫類の標本化と同定整理作業を進め、未整理分の寄贈標本や主として県内で採取した標本を中心に計400点の標本データの入力を行った。

また、主に企画展展示用として国内外の昆虫標本を74点購入し資料の充実に努めた。

・購入標本：ジガバチやツチバチの仲間など 50種74点

□植物標本(植物標本の収集、分類及び整理)

丸山巖氏収集のさく葉標本の整理、アクリル封入標本の製作、各種調査にあわせた植物標本の収集を行った。データベース化された標本情報は、国立科学博物館のS-netでの公開、国際的なデータベースであるGBIFでの公開を予定している。また、島根大学と協力して、館所蔵のさく葉標本のスキャニングを行い、同大学内のホームページ上で画像を公開した。

- ・丸山巖氏収集さく葉標本のデータベース化と登録：1,000点
- ・アクリル封入標本：リュウノウギク、ヤマハッカなど計5点

◆受託による資料収集整理

□自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータ提供(国立科学博物館より受託)

当館で整理が進められている丸山巖氏収集植物標本のデータについて、所定の様式に変換し、1,000点のデータを提供した。提出したデータは、国立科学博物館が運営するS-netや、国際的なデータベースであるGBIFに掲載される。(井上雅仁)

②自然科学関連図書の収集と保管

自然科学に関する図書や雑誌は、購入などにより収集に努めた。図書や雑誌の一部は常設の図書コーナーなどで来館者が閲覧できるようにしている。

購入図書：47冊

③資料の保守燻蒸

資料劣化の原因となる害虫の防除を目的として収蔵庫の燻蒸を行った。燻蒸は、専門業者によって殺虫剤を使用して年2回実施した。展示、収集した資料を収蔵庫へ納める前や、常設展示の資料については、大型常圧燻蒸庫を用いて適宜実施した。

□収蔵庫の全室密閉燻蒸

対 象：第二乾燥収蔵庫、液浸標本室の庫内

期 間：6月27日(火)、10月31日(火)

□燻蒸設備を用いた燻蒸

対 象：鳥獣剥製、昆虫標本、植物さく葉標本など

期 間：適宜実施した

④企画展会場のデジタルアーカイブ

企画展会場の記録はこれまで写真撮影が中心であったが、標本配置などの詳細を記録するために、360度3Dカメラ(マーターポート)を用いて、企画展の様子を撮影した(外部委託)。令和5年度は、春期、夏期の2つの企画展で実施した。

⑤博物館資料の貸出・閲覧など

当館で所蔵する博物館資料については、他施設などからの要請に応じて、貸出や閲覧などを行っている。令和5年度は以下の要請に応じて貸出などを行った。

機関名等	種別	期間	資料名
国立科学博物館	閲覧	5/29	ニホンアシカ剥製・頭骨ほか
島根植物研究会	閲覧	6/9	ウマノスズクサ科植物標本
群馬県立自然史博物館	貸出	6/29-12/18	プテラノドン全身骨格レプリカほか

島根県教育庁文化財課	閲覧	7/7	ニホンアシカ剥製
島根県総務部総務課竹島対策室	貸出	7/14-9/4	ニホンアシカ剥製
出雲市教育委員会(出雲科学館)	貸出	10/2-11/10	岩石標本・鉱物標本
岩手県立博物館	貸出	12/10-3/9	プテラノドン全身骨格レプリカほか
サメの歯化石研究会	貸出	—	アオザメ・メジロザメの歯化石の写真
海士町教育委員会	貸出	2/28-3/31	鉱物に関する解説パネル
御船町恐竜博物館	貸出	3/9-6/29	プテラノドン全身骨格レプリカほか

(10) 調査研究

① 研究項目と成果概要

◆ 県民や行政の課題となっている調査研究

□ レッドデータブック掲載植物の現況調査

島根県版のレッドデータブックに掲載されている植物を対象として、既存情報の整理や現地での確認調査を行った。(井上雅仁)

□ 三瓶山半自然草原の管理と草原性希少植物保全に関する研究

三瓶山の草原保全のために、希少植物のモニタリング調査、樹林化した草原跡地での伐採後のモニタリングなどを行った。これらの結果は、保全活動の内容を検討するための資料として活用した。(井上雅仁)

□ 自然環境保全地域等(三隅海岸、赤名湿地、隠岐世界ジオパーク)の動植物調査

島根県自然環境保全地域である三隅海岸では、動植物および地質に関する予備調査を行った。同地域である赤名湿地性植物群落では、保全活動の効果を検証するモニタリング調査を行った。世界ジオパークの登録地である隠岐諸島では、西ノ島町の草原の植生調査を行った。(井上雅仁・今井 悟・三島秀夫)

□ 県内における希少鳥類等生息調査

旧ふれあいの里奥出雲公園における鳥類の生息状況のモニタリングを目的として、希少鳥類の繁殖状況や構成種の調査を行った。希少鳥類調査では、園内における希少種の生息状況の把握のほか、構成種の調査では、予め定めたルートを毎月踏査し鳥類の出現状況の変化を調査した。また、三瓶山におけるミヤマホオジロ、カラアカハラの繁殖確認、トモエガモの集団越冬調査などを実施した(星野由美子)

□ 特定外来種ソウシチョウの移動特性調査

島根県内でも生息地が広がりつつあるソウシチョウの移動特性や生息地拡大に関する調査として、繁殖地・中継地・越冬地でのカラーリング装着調査を実施した。また、島根大学と共同で三瓶山地内におけるソウシチョウの分散に関する研究を実施した。(星野由美子)

□ ダイコクコガネ等の希少昆虫調査

ダイコクコガネの生息地であった東の原では今年度も放牧は行われず、西の原放牧地と新たに三瓶町上山の放牧地において調査を実施したが、本種は確認できなかった。この数年、三瓶山においてダイコクコガネを確認できていない。ニッポンハナダカバチは営巣地の記録のある静間神社の状況を調査し、現在も営巣地があることを確認できたが、営巣数は以前より少なく面積も縮小していた。また、神戸川河口においても本種を複数確認した。ヒメミズカマキリは、出雲市内のため池で幼虫と成虫を確認した。(皆木宏明)

□県版RDB記載の哺乳類調査

島根県版レッドデータブックに記載の哺乳類について、県内での分布状況を把握する目的で調査を行った。ニホンリスについては、県央地域の複数地点での目撃情報があり、食痕の確認調査を行った。また、県央地域において採取された斃死体を貰い受けた。ミズラモグラについては過去に死骸が回収された例がある三瓶自然館周辺(三瓶山周回道路上の約1kmの区間)において、死体等がないか確認したが発見には至らなかった。(安藤誠也)

□テングコウモリの繁殖生態の解明調査

鳥獣捕獲許可を得て、石見銀山で80頭、久喜・大林銀山で4頭を捕獲し、外部形態の計測や翼帯の装着による個体識別と、メスの妊娠出産履歴の調査を行った。(安藤誠也)

□未確認コウモリの調査

県版RDB改定などのために隣県で生息が確認されている種について調査を行った。県央地域の複数箇所において、超音波録音機を使った生息確認を実施した他、洞窟などを探索した。また、令和4年度に県内本土側で初めて捕獲された種について、当館研究報告第22号に掲載した。(安藤誠也)

◆自然系博物館としての機能に資する研究

□島根県における地震・津波堆積物調査

県内外に分布する中新統を対象に調査を進めている。今年度は地震・津波堆積物の抽出の参考にするため、研究先進地である太平洋沿岸での調査を主に実施した。筑波大学、高知大学と共同で実施している和歌山県白浜町に分布する中新統の調査は一通り完了し、論文文化に向けてデータの取りまとめを進めている。また昨年に引き続き、高知県土佐清水市で見られる津波石の可能性がある巨石群について、付着生物遺骸の年代測定を実施した。(今井 悟)

□島根県産生痕化石の古生態学的研究

三瓶山起源の火山灰および古土壌に含まれる生痕化石 *Taenidium* について調査を実施した。その結果、三瓶山周辺で見られる *Taenidium* の形成者はコガネムシ類の幼虫であり、その活動によって火山灰が攪拌されることで、土壤動物の多様性が増していた可能性が示唆された。この研究成果は東北大学で開催された日本古生生物学会第173回例会で発表した。また *Taenidium* が多産する露頭について、植物珪酸体の調査を実施した。(今井 悟)

□太陽系外惑星を含む連星系及び変光星の観測

令和5年度はこと座の食連星 TT Lyr について、TESS 衛星 (Transiting Exoplanet Survey Satellite、トランジット法によって宇宙から太陽系外惑星を探索するための人工衛星) のデータを python パッケージの Eleanor を使用して取得し、Wilson-Devinney (WD) コードをベースに解析を行った。解析の精度を高めるための分光観測を岡山県の美星天文台において計画したが悪天候により実施できなかったことから、令和6年度に再度、分光観測の実施を検討したい。また、当館の4連式クーデ望遠鏡の特徴を発揮できるユニークな観測として、連星系および変光星の光干渉計観測を候補として検討している。令和5年度は、干渉を光遅延線(光路長を変化させて遅延を補償する装置)について検討を行った。(矢田猛士)

□三瓶山鳥類調査

三瓶自然館野外観察コーナーの水場に飛来する鳥類の第Ⅲ期調査4年目を実施した。本年度は20年ぶりに冬期の水場飛来調査も実施した。水場では2目9科22種が確認され、総計711羽をカウントした。(星野由美子)

◆環境教育・環境学習に資する研究

□コウノトリの生息をテーマとした環境教育プログラムの開発

今年度は幼児向けのプログラムを作成してこども園での出前授業を実施した。また、学習教材などは雲南市及び出雲市内の小学校5校に貸出を行った。(星野由美子)

□プラネタリウムの魅力向上への取り組み

令和3年度に整備された番組に字幕をつけるスマートグラスなど、プラネタリウム全般の魅力向上につながる機器やコンテンツについての検討を行った。(太田哲朗)

□池田鉱泉を含む天然の放射能を利用した放射線学習プログラムの開発

館内において学校団体向けの放射線学習を行った。池田鉱泉の現地では、大田市立北三瓶中学校と理科教諭と共同で授業を実践したほか、大田高校サイエンスセミナーの高校2年生とサンプリングおよび放射線のモニタリングを実施した。令和5年8月に三瓶自然館およびしまね海洋館で開催した「教員のための博物館の日」において、参加教員向けに学習プログラムの紹介と演示を行った。簡易ガンマ線測定装置を用いた走行サーベイは、令和5年度は益田市を中心に、島根県西部において実施した。(矢田猛士)

◆受託による調査研究

□石見銀山遺跡自然環境モニタリング業務(島根県教育委員会より受託)

石見銀山遺跡における世界遺産登録後の自然環境の変化を追跡するために、コアゾーンを中心に動植物のモニタリング調査を実施した。遺跡内では、既往調査で記録された希少動植物の大部分が確認された。大久保間歩では、例年と同じように4種のコウモリ類の冬眠が確認された。(三島秀夫・井上雅仁・安藤誠也)

□重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000、公益財団法人日本自然保護協会より受託)

環境省が平成15年から提唱しているプロジェクトで、全国に観察サイトを設けて動植物の生息状況を長期的にモニタリングする調査事業である。三瓶山北の原は人為的に維持管理している草地として里地コアサイトとされており、植物と鳥類の調査を実施している。(井上雅仁・星野由美子)

□グリーンワーカー事業(三瓶山地区ウスイロヒョウモンモドキ生息状況調査業務、環境省より受託)

環境省が保護や増殖等の保全活動を行っている国内希少野生動植物種ウスイロヒョウモンモドキの生息状況調査を実施した。今年度は、近年生息が確認されていない三瓶山において、本種の食草となる植生の生育地点の探索と生育状況を調査し、本種の生息に適した環境の有無を明らかにするとともに、今後の保全策を検討するための基礎的知見を得るための調査業務を行った。(皆木宏明)

□しまねレッドデータブック改訂現地調査業務(島根県自然環境課より受託)

島根県版レッドデータブックの改訂を行うために、現地確認による情報収集が必要となる種について、改定委員、協力者などによる現地調査を実施した。哺乳類、蘚苔類、維管束植物、菌類、地衣類の分野を対象とした。(井上雅仁)

②研究成果の公表(※印は館外の研究者)

□論文、報告書

竹内幹蔵(2023)夏の星座．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」179：3.

竹内幹蔵(2023)ふたご座流星群 見頃は12月14日から15日．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」181：3.

太田哲朗(2024)サヒメルの天文台紹介．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」182：2-3.

矢田猛士(2023)夏の企画展 ときめく鉱物展～地球のカケラとの出会い～．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」179：2-3.

矢田猛士(2024)島根県大田市沖の日本海で観察された負極性落雷と雷雲内を広がるリーダーの様子．島根県立三瓶自然館研究報告 22：45-48.

矢田猛士・竹内幹蔵・太田哲朗・大谷朗子(2024)島根県立三瓶自然館における2023年のプラネタリウム機器リニューアルについて．島根県立三瓶自然館研究報告 22：69-75.

矢田猛士・今井 悟・田原いづみ・石田操太(2024)令和5年度夏期企画展「ときめく鉱物展～地球のカケラとの出会い～」実施報告．島根県立三瓶自然館研究報告 22：77-92.

矢田猛士(2024)小さい満月と大きい満月．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」182：3.

今井 悟(2023)石ころ拾いの魅力．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」180：3.

今井 悟(2023)三瓶自然館冬の企画展の紹介．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」181：2.

今井 悟(2023)学芸員の独り言 ブラックライトで照らしてみると…？．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」181：3.

今井 悟(2024)島根県浜田市三隅町大島で発見された礫質堆積物(予報)．島根県立三瓶自然館研究報告 22：35-40.

今井 悟(2024)島根県大田市鳥井海岸における福德岡ノ場2021年噴火起源軽石の漂着とその時間変化．島根県地学会会誌，39：17-22.

星野由美子(2023)みんなでさわろう♪わくわくワゴン定期開催中！．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」178：3.

星野由美子(2024)元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類－2023年度の調査記録－．島根県立三瓶自然館研究報告 22：59-64.

星野由美子(2024)三瓶自然館春の企画展 なぜこうなった!? 鳥のくちばし展．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」183：2.

森 茂晃^{*}・星野由美子・豊田暁^{*}・田尻浩伸^{*}(2023)宍道湖に大量飛来したトモエガモ*Anas formosa* の飛行行動と採食地．日本鳥学会，72(2)：223-233.

皆木宏明(2023)三瓶山で見られる春のチョウ．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」178：2-3.

皆木宏明(2024)三瓶自然館で実施している教育普及活動「サヒメル科学探険隊」の取り組み．島根県立三瓶自然館研究報告 22：93-98.

三島秀夫(2024)島根県で採集された蛾数種について2023．島根県立三瓶自然館研究報告 22：65-67.

安藤誠也(2023)レッドデータブック(RDB)の哺乳類調査．島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発！」180：2-3.

安藤誠也・石田麻里^{*}・畑瀬 淳^{*}・上野吉雄^{*}(2024) 島根県の本土側において初めて捕獲されたヒナコウモリ (*Vespertilio sinensis*) とその誘引方法について. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 49-57.

井上雅仁・三島秀夫・立花寛奈^{*}・深谷 治^{*}・楊 寛明^{*}・齋藤祐樹^{*}・野辺一寛^{*}: 特定外来生物オオキンケイギクの隠岐諸島における分布と10年間の変化. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 19-25.

井上雅仁(2024) 三瓶で見られる桜. 島根県立三瓶自然館ニュースレター「さんべ発!」183: 3.

Watazu T^{*}, Hiraiwa MK^{*}, Inoue M, Mishima H, Ushimaru A^{*}, Hosaka T^{*}(2024) Dominance of non-wetland-dependent pollinators in a plant community in a small natural wetland in Shimane, Japan. J Plant Res. doi.org/10.1007/s10265-023-01518-9

渡津友博^{*}・桑原一司^{*}・大野芳典^{*}・井上雅仁(2024) 島根県邑南町水明湿地の植生と植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 9-17.

柳浦正夫^{*}・矢田貝繁明^{*}・井上雅仁(2024) 中国地方のウスバサイシン節の分布とイズモサイシンとウスバサイシンとの形態比較. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 27-34.

柴田一樹^{*}・柳浦正夫^{*}・井上雅仁(2024) 島根県江津市で確認されたフジキについて. 島根県立三瓶自然館研究報告 22: 41-42.

□学会・研究会等での発表

矢田猛士・松村弥紀^{*}・大國寛和^{*}(2023, 9) 360度カメラで撮影した星空写真を活用した第4学年「星の学習」. 日本理科教育学会第73回全国大会(高知大学)

今井 悟(2023, 7) 島根県大田市鳥井海岸における福徳岡ノ場を起源とする軽石の漂着状況と時間変化. 第38回島根県地学会 総会・研究発表会.

奈良正和^{*}・石塚創太^{*}・今井 悟・藤野滋弘^{*}(2023, 9) 中新統田辺層群白浜層の潮汐低地堆積物に挟在する巨大津波堆積物. 日本地質学会第130年学術大会(京都大学).

今井 悟(2024, 1) 埋没黒ボク土に見られる生痕化石 *Taenidium* とその古生態: 島根県三瓶火山南東山麓の事例. 日本古生生物学会第173回例会(東北大学).

皆木宏明(2024, 3) 島根県におけるダイコクコガネの生息状況について. 日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会合同大会.(仙台国際センター).

森 茂晃^{*}・星野由美子(2024, 3) 宍道湖におけるトモエガモの大量飛来と採食地への飛行行動. トモエガモ国際シンポジウム2024. (オンライン)

安藤誠也(2023, 9) 島根県の廃坑で確認された齧歯類による冬眠中コウモリ類の捕食事例. 日本哺乳類学会2023年度大会.(琉球大学)

渡津友博^{*}・平岩将良^{*}・井上雅仁・三島秀夫・丑丸敦史^{*}・保坂哲朗^{*}(2023, 5) 島根県の小規模な自然湿地における訪花昆虫群集と湿地性植物の花形質との関係. 日本生態学会中国四国地区会第66回大会.(徳島・オンライン)

(11) 広報宣伝業務

① 広報営業活動

春期企画展のKAGAYA氏の星景写真や夏期企画展の色とりどりの鉱物などの色彩豊かな素材を活かし、ほとんどの広報媒体にカラー広告で掲出し、展示物の魅力を最大限に伝えるよう努めた。SNS広告では、鉱物などの熱心なファンがいることを予想し、ターゲットエリアを広めに設定して遠方からの集客を図った。

夏期企画展目玉展示「巨大アメシストドーム」の搬入作業を報道に公開し、ニュース等に取り上げられたことで大きなPR効果を得た。

期間展示として実施した「葉っぱ切り絵展」は、SNSで話題のアーティストの作品展で、SNS上で広く拡散され、新たな客層への周知と集客に大きな効果を得た。

地域連携で実施するものとして、三瓶山広域ツーリズム振興協議会、石見ツーリズムネッ

トに参画して三瓶山地域のPRを行った。3月に江津市で行われたイベント「石見の肉まつり」にPR出展し、春期企画展について紹介した。

□営業活動

冬期に近隣の小・中学校及び幼稚園・保育園・児童クラブ等を訪問し、学習プログラムや施設の利用方法などを紹介した。

②情報発信

□WEBサイト・SNS

各施設のホームページに施設の情報とイベント等の情報を随時更新し、臨時的な情報などはSNSを併用することで効果的な情報発信を行った。

企画展開催時には、スタッフや業者委託による集客エリアや年代を絞った企画展情報の投稿を定期的に行った。

三瓶自然館ホームページには、季節に合わせた自然の情報やトピックスについて、学芸課スタッフによる発信を「自然情報」として毎週日曜日に定期更新を行った。(掲載記事の一覧は「VI. その他 3. 資料(p. 76)」参照)

□ミュージアムニュース発行

三瓶自然館のイベントや島根の自然に関する情報を取り上げ、隔月で年6回、3,000部ずつ発行した。館内に配架した他、学校、図書館、県内市町村等に配布した。

□ケーブルテレビ(ぎんざんテレビ)

地元ケーブルテレビ局とタイアップして、当館の情報番組「サヒメルうおっち」を制作し、三瓶山や島根の自然情報、イベントなどのPRと情報発信の有力な手段になっている。また、大田市内においては、音声告知を活用したイベント告知も継続して実施した。

*令和5年度「サヒメルうおっち」放送内容

放送日	放 送 内 容	放送日	放 送 内 容
4/21 ～24	タゴガエルの紹介	10/20 ～23	紅葉と黄葉・リト葉っぱ切り絵展
5/19 ～22	ハルゼミ	11/17 ～20	剥製・燻蒸・収蔵庫
6/16 ～19	プラネタリウム「ゆうすげ村の小さな旅館」の紹介	12/15 ～18	学芸員のお気に入り展示
7/21 ～24	夏の企画展「ときめく鉱物展」の紹介	1/19 ～22	コウモリの冬眠
8/18 ～21	夏の天体	2/16 ～19	地震と津波
9/15 ～18	プラネタリウム100周年	3/15 ～18	春の企画展「なぜこうなった!? 鳥のくちばし展」の紹介

□新聞への寄稿

読売新聞「サヒメル研究日誌」、島根日日新聞「学芸員日記」、山陰中央新報「さんいんきらめく星」等の連載企画への原稿執筆を通して、三瓶や島根の自然の紹介、自然保護についての啓発、情報発信を行った。(掲載記事の一覧は「VI. その他 3. 資料(p. 77～78)」参照)

(12) 仕様書以外の事業の実施状況

① 博物館ボランティア「三瓶自然館インタープリター」の活動

三瓶自然館インタープリターは、三瓶を訪れる人たちが、生きた自然に触れ、自然の不思議さや素晴らしさを感じ、自然を愛する心や守る心を育むことの手助け(インタープリテーション)を目的として設置されたボランティアスタッフである。

館の設置目的を理解し、自然環境の保全に関心を持つ希望者のうち、研修を修了した者に委嘱登録している。また、自然観察の経験が少ない希望者には、研修を積んだ後に委嘱している。

□ 登録者数

登 録 種 別	人 数	男 女 構 成	人 数
委嘱登録者	56人	男 性	47人
研修登録者	10人	女 性	19人
合 計	66人	合 計	66人

□ 活動実績

館が実施する各種事業に協力し、主に参加者や来館者に対する解説や案内を行っている。主な活動内容は次のとおりである。

- ・ 館主催イベントにおける参加者対応や企画、実施、実施補助
- ・ 外部から依頼を受けた観察会や定期観察会での自然解説
- ・ 団体向け予約天体観察会や毎週土曜日の定期天体観察会での補助や案内
- ・ 本館1Fでの工作や来館者対応
- ・ 北の原の植物・鳥類調査(環境省のモニタリングサイト1000など)

* 令和5年度の主な協力事業

月 日	事 業 名	延べ活動人数
5/14	バードウォッチング講座(研修参加含む)	5人
7/22	夏の夜の昆虫観察	8人
9/10	石・土・鉱物工作祭り(打合せ含む)	16人
9/17	秋の七草観察会(下見含む)	12人
10/14	夜のコウモリ観察会(下見含む)	6人
1/28	雪の三瓶でアニマルトラッキング(下見含む)	10人
複数回実施 事 業 等	わくわくワゴン(実施回数は26回)	43人
	工作コーナー(準備を含む)	79人
	親子で作ろう工作教室(8回)	30人
	自然観察会(主に学校など団体向け)	54人
	天体観察会	121人
	調査(モニタリングサイト1000植物・鳥類)	92人
	総会・研修・保全作業・会議等	125人
合 計		601人

※複数日に渡るイベントと複数回実施事業等の活動人数は延べ数

□研修

本年度は2回の研修を実施し、1回目は「植物標本の作り方」と題して、当館の植物担当研究員よりさく葉標本の作成方法を学んだ。植物を綺麗に台紙に貼るためのコツや、標本ラベルに記載すべき情報などについて習得した。2回目は「鳥の羽根標本の作り方」についてで、当館鳥類担当研究員より、翼や羽の仕組みを学んだ後、台紙に羽根を貼り付ける作業を行った。

□研修旅行

ボランティアとしての資質向上と他のボランティア団体との交流を目的に研修旅行を実施している。令和5年度は6月17日～18日に広島県内の2団体を訪問した。初日は広島市安佐動物公園のボランティア団体を訪ね、園内での展示解説や花壇整備を見学し、座談会で意見交換を行った。2日目は庄原市で鯨類の化石などを発掘している庄原化石集談会を訪ね、発掘地や化石ミュージアムの見学、同会会員らとの意見交換を行った。

②地域との連携

□三瓶地域協育ネットワーク事業(三瓶青少年交流の家)

三瓶青少年交流の家が主管する三瓶地域協育ネットワーク事業に参画して会議(年4回)に出席してさんべ祭等の事業に関する意見交換を行ったほか、三瓶小豆原埋没林公園のイベント「月イチガク」をネットワーク事業として年12回開催した。月イチガクの詳細はp. 30～32に掲載した。

□大田市の観光事業

大田市DMO(事務局/大田市観光協会内)の情報発信ワーキングに所属し、会議に2回出席したほか、イベント情報等の提供を行った。

また、大田市観光戦略会議(事務局/同上)に2回出席した。

□日本遺産事業

大田市日本遺産推進協議会が実施したコーディネーター講座(大田市石見銀山課が主管)と日本遺産認定3周年記念行事(同観光振興課が主管)に協力した。

□第43回クリーン三瓶

実施日：5月21日(日)

参加者：約200人

内 容：三瓶山の関連機関が実行委員会を構成し、ボランティアを募って実施する清掃作業。当財団も財団設立以来、実行委員の一員として協力・参加しており、本年も西の原から三瓶自然館まで周回道路のゴミ拾い等を行った。当財団が担当した範囲では、年々ゴミは減少する傾向にあるものの、倒木や枯れ木、道路に積もった落葉が増えつつあり、景観への影響を懸念している。

□姫逃池カキツバタ保全作業

実施日：6月11日(日)

参加者：約60人

内 容：島根県、大田市などの行政機関、国立三瓶青少年交流の家などの周辺施設、大田市内の自然保護団体などと協力して、カキツバタの生育を促すための草刈り作業を行った。

③他施設との連携

□島根県自然系博物施設交流事業(三館交流)

三瓶自然館サヒメルと宍道湖自然館ゴビウス、しまね海洋館アクアスの県立自然系博物館施設が合同で、情報交換会や研修会を実施している。令和5年度は当館が幹事館となり、下記の会議に参加した。

＊館長・課長会議

実施日：11月13日(月)

会 場：大田市民会館

概 要：勤務日の指定方法と勤怠管理、新型コロナ対応、物価高騰対策等について情報交換を行った。

□広島市こども文化科学館

広島市こども文化科学館の2階フロアに三瓶自然館のブースを設置している。令和5年度も随時更新を行い、企画展や天文情報、自然情報などを発信した。

□石見銀山世界遺産センター

世界遺産登録記念日イベントに協力し、7月1日(土)にギャラリートークを行った。

④各種研修

□博物館実習の受入

・関西学院大学	8月10日(木)～8月16日(水)	実習生：1人
・岐阜大学	8月10日(木)～8月16日(水)	実習生：1人
・島根大学	10月25日(水)～10月30日(月)	実習生：9人

⑤行政等への協力

□各種委員会等の受託

名 称	氏 名	期 間	依 頼 元
大田市環境審議会委員(副会長)	酒 井 浩 純	H27. 7. 1 ～R7. 3. 31	大田市長
国立三瓶青少年交流の家運営協議会委員	酒 井 浩 純	H28. 4. 1 ～R6. 3. 31	国立三瓶青少年交流の家所長
大田商工会議所参与	酒 井 浩 純	H28. 11. 1 ～R7. 10. 31	大田商工会議所会頭
三瓶山広域ツーリズム振興協議会監事	酒 井 浩 純	H27. 7. 1～	三瓶山広域ツーリズム振興協議会会長
三瓶小豆原埋没林保存検討委員会委員	酒 井 浩 純	H27. 7. 25 ～R7. 7. 24	島根県知事
出雲市文化財保護審議員	中 村 唯 史	R1. 6. 1 ～R5. 5. 31	出雲市長
江津市文化財保護審議員	中 村 唯 史	H27. 4. 1 ～R7. 3. 31	江津市長
希少野生動植物種保存推進員	井 上 雅 仁	H21. 7. 1 ～R6. 6. 30	環境大臣
島根県自然環境保全審議会委員	井 上 雅 仁	H21. 11. 12 ～R8. 2. 27	島根県知事
島根県環境影響評価技術審査会委員	井 上 雅 仁	H24. 1. 1 ～R8. 12. 31	島根県知事

しまねレッドデータブック改訂委員会委員	井 上 雅 仁	R4.11.4 ～R8.11.3	島根県知事
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	井 上 雅 仁	H24.8.29 ～R6.6.30	島根県農林水産部農村整備課長
神戸川の河川環境等に関する協議会委員	井 上 雅 仁	R3.6.28 ～R5.3.31	島根県土木部長
石見銀山遺跡整備検討委員会委員	井 上 雅 仁	H20.10.20 ～R6.3.31	大田市教育委員会教育長
大田市文化財保護審議会委員	井 上 雅 仁	R6.2.1 ～R8.1.31	大田市教育委員会教育長
「島根の自然は生きている」編集委員	井 上 雅 仁	R5.5.9 ～R6.3.31	島根県小中学校理科教育研究会
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	星 野 由 美 子	H14.4.1 ～R6.6.30	島根県農林水産部農村整備課長
自然観察指導員講習会全国講師	星 野 由 美 子	H16.4.1～	公益財団法人日本自然保護協会
島根県環境影響評価技術審査会委員	星 野 由 美 子	H17.1.1 ～R8.12.31	島根県知事
島根県自然環境保全審議会委員	星 野 由 美 子	H26.1.16 ～R8.2.27	島根県知事
島根県国土利用計画審議委員	星 野 由 美 子	H28.10.25 ～R7.10.24	島根県知事
しまねレッドデータブック改訂委員会委員	星 野 由 美 子	R4.11.4 ～R8.11.3	島根県知事
島根県満喫プロジェクト地域部会委員	星 野 由 美 子	H28.10.6～	島根県環境生活部長
出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク 推進協議会委員	星 野 由 美 子	H30.2～	協議会事務局(雲南市)
斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水 鳥類とともに生きる流域作り検討協議会 (鳥類ワーキング、環境学習ワーキング)	星 野 由 美 子	H31.2～	協議会事務局(国土交通省河川事務所)
出雲市トキによるまちづくり推進協議会委員	星 野 由 美 子	R5.5.10～	出雲市長
島根天文協会会長	竹 内 幹 蔵	H17.6～	島根天文協会
日本公開天文台協会大会理事	竹 内 幹 蔵	R3.8.1 ～R5.7.31	日本公開天文台協会
日本公開天文台協会理事	竹 内 幹 蔵	R5.8.1 ～R7.7.31	日本公開天文台協会
「島根の自然は生きている」編集委員	安 藤 誠 也	R5.5.9 ～R6.3.31	島根県小中学校理科教育研究会
土佐清水ジオパークアドバイザー	今 井 悟	R3.6.3 ～R8.3.31	土佐清水ジオパーク推進協議会会長
「島根の自然は生きている」編集委員	今 井 悟	R5.5.9 ～R6.3.31	島根県小中学校理科教育研究会

2. 三瓶小豆原埋没林公園

感染症対策として休止していた展示解説を5月から有料で再開し、令和3年度末に設置されたガイダンス展示および大型映像とあわせたハード、ソフト両面が充実した形での運営となった。

利用者数はほぼ前年並みであった。前年度までのコロナ禍期間は修学旅行の県内実施により学校団体の利用数が急伸したが、今年度はこれがほぼなくなった。前年度から始まった大田市内の小学校が宿泊研修時に日本遺産学習として立ち寄る取り組みは継続され、引き続き利用があった。

利用者の傾向は、県外からの個人客が多いことは以前と変わらず、団体の割合が低下しており、全国的な旅行形態の変化と調和的である。

保存処理はスギの立木(A-12)への保存液塗布を島根県から業務委託を受けて実施した。

(1) 普及啓発

① 常設展示

大小2棟の地下展示室において、三瓶小豆原埋没林を発掘状態で現地展示している。大展示棟(縄文の森発掘保存展示棟)では、スギ3本、広葉樹4本の立木のほか、流木群を展示している。観覧者は地表下約12mの見学デッキから見学できる。小展示棟は、三瓶自然館展示標本の根株があり、地表下約13.5mの床面で間近で見学できる。

② 展示解説

職員による展示解説は、有料化(10名まで1,000円、以降1名ごとに100円)してコロナが5類に移行した5月から再開した。事前に予約がある団体は解説を希望することが多く、52件、合計1,019名の利用があった。

学校等の学習利用は従来どおり無料で実施し、下表に示す様な利用があった。

※学校団体の利用状況

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
高等学校	2件(122名)	8件(511名)	3件(155名)
中学校	8件(618名)	8件(530名)	7件(379名)
小学校	12件(424名)	23件(1,124名)	24件(1,061名)

③ イベント

講座型のイベント「月イチガク」を12回実施した。ガイダンス室で行う講座は、オンラインでの配信を併用した。実施日と内容は以下のとおり。

□月イチガク①「大田でも見える?! 蜃気楼のふしぎ」

実施日：4月15日(土)

参加者：会場12人、オンライン5人

内 容：魚津埋没林博物館の佐藤真樹氏が、その発生メカニズムと発生事例について紹介した。大田市周辺で蜃気楼を観測できる条件についても具体的に紹介。

□月イチガク②「大あなご学 ～おおだの新名物誕生～」

実施日：5月20日(土)

参加者：会場12人、オンライン6人

内 容：農水省の「令和5年度ディスカバー農山漁村の宝」でグランプリを受賞した「大田の大あなご」の取り組みを沖和真氏(大田商工会議所 事務局長)が紹介。

□月イチガク③「大田の礎を築いた吉永藩 ～加藤家4代の栄光と浮沈の中で～」

実施日：6月24日(土)

参加者：会場22人、オンライン6人

内 容：江戸時代到大田市川合町を本拠とした吉永藩の歴史を、郷土史に詳しい和田秀夫氏(元小学校長)が紹介した。

□月イチガク④「<ジュニア>火山じっけん教室2」

実施日：7月22日(土)

参加者：会場21人

内 容：子どもを対象として炭酸飲料やポップコーンを使って火山のメカニズムを紹介する演示型イベント。三瓶青少年交流の家を会場に実施。

□月イチガク⑤「三瓶演習地と大社基地～島根に残る戦争遺跡～」

実施日：8月12日(土)

参加者：会場14人、オンライン5人

内 容：アジア太平洋戦争の末期に出雲市に建設された海軍の航空基地である大社基地の歴史的な意義と三瓶山に残る演習地遺構を若槻真治(戦後史会議・松江)氏が紹介した。

□月イチガク⑥「墓場放浪記～石塔から探る石見の歴史Ⅱ～」

実施日：9月2日(土)

参加者：会場6人、オンライン3人

内 容：文字記録にはない歴史を知る手がかりとして注目されている石塔について、島根県の石塔を研究する間野大丞氏(島根県教育委員)が紹介した。

□月イチガク⑦「<フィールド>仁摩の古墳を歩く」

実施日：10月7日(土)

参加者：12人

内 容：大田市では古墳が最も多く集まる仁万平野周辺を野島智実氏(大田市教育委員会)の案内で巡検し、古墳や横穴を見学した。

□月イチガク⑧「地底の森に狩人登場!？」

実施日：11月25日(土)

参加者：会場5人、オンライン5人

内 容：約2万年前の森と旧石器人の生活の痕跡が残る仙台市富沢遺跡について、平塚幸人氏(仙台市富沢遺跡保存館)が紹介した。

□月イチガク⑨「水をまつる～三瓶のわき水と信仰～」

実施日：12月2日(土)

参加者：会場6人、オンライン4人

内 容：原始の時代から続くと考えられる三瓶山に対する水と農耕に係る信仰について、多田房明氏(山陰民俗学会)が紹介した。

□月イチガク⑩「銀(しろがね)の山を掘る～発掘調査が開いた世界遺産への道～」

実施日：1月27日(土)

参加者：会場15人

内 容：石見銀山の歴史解明につながる大きな成果が得られた発掘調査について、長年にわたり調査を担当している中田健一氏(大田市教育委員会)が紹介した。

□月イチガク⑪「くにびきの山がつなぐ海の道」

実施日：2月10日(土)

参加者：会場11人

内 容：出雲国風土記が伝える出雲と北陸の関わりが地名や神社の祭神から追証できることを、松原慶子氏(出雲国ジオガイドの会)が紹介した。

□月イチガク⑫「良港ゆのつは火山の贈り物!？」

実施日：3月9日(土)

参加者：会場12人、オンライン1人

内 容：戦国時代から石見を代表する港だった温泉津が成立した背景を、地学的な視点から紹介した。

(2) 埋没木の保存検討に関する事項、保存処理、モニタリング、調査等

□令和5年度三瓶小豆原埋没林埋没木保存処理業務

島根県から受託して立木(展示木No. A-12)へのトレハロース処理を実施した。

また、展示棟内外の埋没木の保存環境をモニタリングする目的で、地下水位、溶存酸素濃度、温湿度等の測定とデータ回収を実施した。

3. 施設利用許可業務

(1) 休館日等

【三瓶自然館】

①開館日

◆令和5年度開館日数：299日 ※条例上は299日

※条例で定められた休館日

- ・ 7月21日～8月31日までの間を除く火曜日(祝日の場合は翌平日)
- ・ 6、9、12、3月の第1月曜日から5日間(メンテナンス休館)
- ・ 12月29日～1月3日まで

□施設の効率的運営のため変更した日(開館：3日、休館：3日)

- ・ 特別開館：5月2日(火)、1月2日(火)、3日(水)
- ・ 臨時休館：12月25日(月)、27日(水)、28日(木)
- ・ メンテナンス休館：9月第1月曜日から5日間の定めものを9月25日(月)、27日(水)～9月29日(金)(夏期企画展のため)

②開館時間

条例のとおり開館時間は9:30～17:00とした。

③早朝開館

開館時間前の来館を希望された場合、事前の予約に応じて早朝開館をすることとしているが、当年度は利用がなかった。

④開館時間等の変更(指定管理基本協定15条3)

島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理に関する基本協定第15条第3項の規程により、以下の通り開館時間を変更した。

- ・ 臨時休館(半日)：7月9日(日)午前中、落雷による全館停電のため。

【三瓶小豆原埋没林公園】

①開園日

◆令和5年度開園日数：307日 ※条例上は299日

※条例で定められた三瓶小豆原埋没林公園の休園日

- ・ 7月21日～8月31日までの間を除く火曜日(祝日の場合は翌平日)
- ・ 6、9、12、3月の第1月曜日から5日間(メンテナンス休館)
- ・ 12月29日～1月3日まで

□施設の効率的運営のため変更した日(開館：11日、休館：3日)

- ・ 特別開園：5月2日(火)、6月5日(月)、6月7日(水)～9日(金)、9月4日(月)9月6日(水)～8日(金)、1月2日(火)、1月3日(水)
- ・ 臨時休園：12月25日(月)、27日(水)、28日(木)

(2) 利用料金

「わかりやすいこと」「利用しやすいこと」「合理的であること」を踏まえた、令和5年度の利用料金は下記のとおりである。

施 設 の 種 別		利用区分	通 常 期	春 期 企画展 開催期	夏 期 企画展 開催期	秋冬期 企画展 開催期
観 覧 料 (個人)	三 瓶 自 然 館	一 般	400	600	700	600
		小中高校生	200			
	天 体 観 察	一 般	300			
		小中高校生	100			
	埋 没 林 公 園	一 般	300			
		小中高校生	100			
施 設 貸 切 (時間あたり)	レクチャールーム		1,300			
	ビジュアルドーム	入場料徴収 無	2,500			
		入場料徴収 有	5,000			
年間パスポート		一 般	1,500			
		小中高校生	500			

※20名以上の団体は2割引(観覧料のみ)

(3) 利用料金の減免

その他の期間の児童生徒の教育課程の来館、身体障害者手帳の交付者など、減免対象者は利用料金を減免した。

(4) 利用の許可

施設利用の申し出に対して、利用目的等に応じて許可の可否判断を含め、適切な事務手続きを行った。

(5) 施設の貸出など

- ・施設の貸出を行う場合は、利用者が利用の目的を十分に果たせるように利用方法や設備について丁寧な指導、助言を行った。
- ・受付業務にあたっては、受付窓口においてアテンダントが対応したほか、必要に応じて他のスタッフが補助し、利用者が気持ちよく施設を使用できるよう対応した。
- ・利用施設等に応じて、利用申請の書類を常備し、迅速な手続きを行った。
- ・利用者にわかりやすいよう、利用方法の手引きを作成し、誰でも閲覧可能な状態で公開した。

(6) 審査基準の制定

島根県行政手続き条例に準じ、三瓶自然館及びその附属施設について、以下のとおり「不利益処分に対する処分基準」及び「申請に対する審査基準」を制定している。令和5年度では不利益処分の事例はなかった。

不利益処分に対する処分基準

(整理番号：001)

令和5年4月1日

1. 根 拠 規 程 等	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例 第15条
2. 不 利 益 処 分 の 概 要	許可の取り消し、条件の変更
3. 処分基準(未設定の場合はその理由) <p>使用許可の取り消しについては、施設内の秩序の維持の観点から措置を行うかどうか判断することとなるが、違反者の瑕疵の程度や、他の利用者への迷惑度、自然館等の施設等の棄損の度合いなど、様々な状況を考慮して客観的に判断されなければならない。</p> <p>また、管理上の必要性により使用許可条件の変更を要する状況を予測することは困難であり、個別の事例により公益性等を考慮して判断せざるを得ない。</p> <p>よって、一律に基準を設定することは困難である。</p> <p>(許可の取消し等)</p> <p>第15条 指定管理者は、前条第1項の許可を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、その者に対して、同項の許可を取り消し、同条第3項の規定により許可に付した条件を変更し、又は利用の中止若しくは自然館等からの退去を命ずることができる。</p> <p>(1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。</p> <p>(2) 前条第3項の規定により許可に付した条件に違反したとき。</p> <p>(3) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。</p>	
4. 処 分 を 行 う 施 設 名	島根県立三瓶自然館
5. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 総務課

申請に対する審査基準

(整理番号：002)

令和5年4月1日

1. 根 拠 規 程 等	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例 第14条第1項
2. 許 認 可 等 の 種 類	施設の利用許可
3. 審 査 基 準	<p>次の各号の一に該当すると認めるときは、使用の許可をしない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公の秩序又は善良な風俗を害する恐れがあるとき。 2 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団の財産上の利益になるおそれがあると認められるとき。 3 自然館等の施設又は設備を損壊するおそれがあると認められるとき。 4 その他管理上の支障があるとき。 <p>(利用の許可)</p> <p>第14条 有料施設等を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。</p>
4. 標 準 処 理 期 間	10日間
5. 申 請 先	島根県立三瓶自然館又は各利用施設
6. 処 分 を 行 う 施 設 名	島根県立三瓶自然館又は各利用施設
7. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 企画情報課

申請に対する審査基準

(整理番号：003)

令和5年4月1日

1. 法令名・根拠条項	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例第17条
2. 許可等の種類	利用料金の減免
3. 審査基準	<p>1 島根県立三瓶自然館及び附属施設の設置及び管理に関する条例施行規則第4条表1から4に定めるもの 判断基準…同規則に定める区分に該当するとき。 減 免 額…同規則に定める額(全額、1/2の額、2割)</p> <p>2 同条表5に定めるもの</p> <p>(1) 島根県等行政からの要請に基づくもの(例:児童福祉週間、老人週間、身体障がい者福祉週間、遣島使カード等) 判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。 減 免 額…観覧料の全額、1/2の額、2割</p> <p>(2) 広報目的のもの(例:各メディア広報による特典等) 判断基準…広報対象が広く一般であるとき又は県立施設の広報として適切であるとき。 減 免 額…観覧料の全額又は2割</p> <p>(3) 指定管理者の事業展開(他施設等との連携含む)又は当該施設の利用促進を図る目的のもの(例:企画展招待券、島根県立施設等との連携割引等) 判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。 減 免 額…観覧料の全額又は2割</p> <p>(4) サービス向上目的のもの(例:観光バス等の運転手、添乗員及びタクシー運転手等) 判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。 減 免 額…観覧料の全額又は2割</p> <p>なお、各事例は突発的に要請又は実施の必要が生じることもあり、限定的な列举は困難である。 また、経営への支障は、1を除く減免額総額の年間見込み額が300万円を超える場合に考慮する。</p> <p>(利用料金等の減免) 第17条 指定管理者は、規則の定めるところにより、利用料金等の減免をすることができる。</p>
4. 標準処理期間	10日間
5. 申請先	観覧料：島根県立三瓶自然館又は埋没林公園 利用料：島根県立三瓶自然館
6. 処分を行う施設名	観覧料：島根県立三瓶自然館又は埋没林公園 利用料：島根県立三瓶自然館
7. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 企画情報課

申請に対する審査基準

(整理番号：004)

令和5年4月1日

1. 法令名・根拠条項	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例 第18条
2. 許認可等の種類	利用料金等の還付
3. 審査基準(未設定の場合はその理由) <p>第18条第1項については、本人の責めに帰することができない理由の発生状況は、様々なケースが想定され、また全部還付・一部還付を含めた「還付する、しない」の判断は、施設の使用又は観覧行為に対し、時間的、空間的な制約をどれだけ受けたかにより、客観的、合理的に判断されなければならない。</p> <p>しかし現実には、このような判断は非常に相対的、流動的なものとなるため、一律に基準を設けることは困難である。</p> <p>第18条第2項についても、同様に個々の事例により客観的に判断されるべきものであり、一律に基準を設けることは困難である。</p> <p>(利用料金等の不還付)</p> <p>第18条 既に納入された利用料金等は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。</p> <p>(1) 利用料金等を納入した者が、その責めに帰することができない理由により、有料施設等を利用することができなくなったとき、天体運行の投影、全天周映画若しくは展示物を観覧することができなくなったとき、自然館の観察施設を利用して天体を観覧することができなくなったとき、又は埋没木等を観覧することができなくなったとき。</p> <p>(2) 第21条の規定により有料施設等の利用が禁止され、又は制限されたことにより当該有料施設等が利用できなくなったとき。</p>	
4. 標準処理期間	10日間
5. 申請先	島根県立三瓶自然館
6. 処分を行う施設名	島根県立三瓶自然館
7. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 総務課

申請に対する審査基準

(整理番号：005)

令和5年4月1日

1. 法令名・根拠条項	島根県立三瓶自然館及びその附属施設の設置及び管理に関する条例第19条第1項
2. 許認可等の種類	営業行為等の許可
3. 審査基準	<p>次の各号の一に該当すると認めるときは、第19条第1項に掲げる行為を許可する。</p> <p>I 第19条第1項第1号及び第2号について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然館及びその附属施設の設置目的に沿った行事等の開催の案内のための広告物の表示、宣伝活動をする場合。 2 利用者への自然に関する情報提供や、啓発を図るための公共性の高い広告物の表示、宣伝活動をする場合。 3 国、県、他の地方公共団体、その他の公共団体又は公益財団法人しまね自然と環境財団が主催又は共催の行事開催時において、利用者への便宜供与、利用促進のための物品の販売、その他の営業行為を行う場合。 4 自然館及びその附属施設の利用者の便宜供与のため、物品の販売、その他の営業行為を行う場合。 5 その他特に必要があると認められる場合。 <p>II 第19条第1項第3号について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然館及びその附属施設の設置目的に沿った行事等を開催する場合。 2 国、県、他の地方公共団体、その他の公共団体又は公益財団法人しまね自然と環境財団が主催又は共催により公用又は公共用の目的で行事を開催する場合。 3 国立公園、三瓶フィールドミュージアムの適正な利用の促進に寄与すると認められる行事を開催する場合。 4 自然に関する学習・啓発を図る目的で展示会等を開催する場合。 5 その他特に必要があると認められる場合。 <p>(行為の制限)</p> <p>第19条 自然館等において、次に掲げる行為をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 広告物を表示し、又は宣伝活動をすること。 (2) 寄付金の募集、物品の販売その他これらに類する行為をすること。 (3) 集会、競技会、展示会その他の催しをすること。
4. 標準処理期間	10日間
5. 申請先	島根県立三瓶自然館
6. 処分を行う施設名	島根県立三瓶自然館
7. 指定管理者の担当部署	公益財団法人しまね自然と環境財団 企画情報課

4. 施設の維持管理に関する業務

島根県立三瓶自然館及び小豆原埋没林公園の施設と設備の維持管理は、「島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理運営に関する仕様書・協定書(以下「仕様等」)」を遵守し、現指定管理申請時(令和4年度10月)に策定した管理運営業務の基本方針に基づき、各年度当初に事業計画を定め、業務にあたることとしている。

【指定管理期間での管理業務基本方針】

- ・管理者の都合ではなく利用者のための管理
- ・県民の財産をお預かりしている意識
- ・自然環境や地球環境に優しい管理

【当年の概況】

当年は、落雷による被害が多く、電話設備や消防設備が故障した。また、プラネタリウム設備は停電等で一旦電源が切れてしまうと立ち上げ直しに30分以上かかるため、上映を中止せざる得ない状況となり、利用者に対して多大な迷惑をかけてしまうため、現在、業者と協力しながら、対応を検討している。

(1) 全施設共通業務

① 利用者管理業務

令和5年度は、県へ報告すべき規模の事故は発生しなかった。その他の館内外での転倒等による軽微なケガ、利用者からのクレーム、要望等についても適切な対応に努めた。

また、事故を未然に防ぐために、定期的な巡視、点検により危険箇所等の発見や対処も行ったほか、研修により、職員のスキルアップ、危機管理意識の維持に努めている。

■主な実施内容：職員巡視による利用者の退館・退園チェック、施錠の確認(毎日)
5S活動、消防・避難誘導訓練(各施設で6月、12月ほか)等

② 清掃業務

観覧施設として、利用者にとって快適な衛生環境を維持するよう実施した。実施回数、場所等は状況に応じて加減し、効率的な費用対効果も図っている。

また、新型コロナウイルス感染症対策として館内の手すり等の消毒作業を実施した。

■主な実施内容：日常清掃(毎日)

床洗浄・ワックス塗布(5～6月、9月～10月)

ブラインド等除塵(9月)

ガラス等洗浄(4月、7月、9月～10月)

特別トイレ清掃(6月)

フィルター清掃等(6月ほか)

廃棄物処理(適宜)

消毒作業(毎日)

※令和5年5月8日以降は、新型コロナウイルス感染症が感染症法による5類感染症に移行されたため、必要に応じて実施した。

モグラの道清掃(6月)※職員による

■委託先：㈱N T Tファシリティーズ(㈱中央ビルサービス)

③ 警備業務

機械警備専門業者により、不審者、火災報知器の遠隔監視を行った。当年では警備員の駆けつけが7回あり、いずれも誤報だったが、その都度、適切な対応を取った。

なお、誤報の原因は停電(電力会社原因)による異常発報のほか、センサーの誤作動によるものとなっている。

また、GWや夏休み期間等の繁忙期には、駐車場に警備員を配置して事故のないように努めている。

- 委託先 機 械 警 備：(株)NTTファシリティーズ(北陽警備保障(株))
- 駐車場警備：(株)NTTファシリティーズ(株)ケイショウ、企業警備保障(株)

④業務車両の管理

各車両は、車検、定期点検、補修等を定期的に行うとともに、万一の事故に備えた任意保険の付保、道路交通法に定められる安全運転管理者の配置など、適切な車両管理、運行管理に努めた。

また、島根県等が実施する「しまね安全ドライブ・コンテスト2023」に全職員で参加し、安全運転意識の徹底を推進した。

- 管理車両 業務車両：12台(県有車両3台(うちバス2台)、財団所有9台)

- 事 故 等 業務車両： 1件
- 自家用車： 6件

- 主な実施内容：各車両の点検、法定点検(各車毎)
- 安全運転管理者講習受講(7月)
- しまね安全ドライブ・コンテストへの参加(7月～12月)

⑤フィールド管理

管理域(三瓶山北の原～東の原)において全3回の刈り払い作業を実施したほか、三瓶山登山道(姫逃コース、名号コース)の定期的な点検、風倒木等の処理作業を行い、来館者・来園者、登山者の快適な利用に資するよう環境管理を行った。

なお、これらの作業にあたっては、自然公園法の指定植物、レッドデータブックに掲載される稀少植物の取り扱いに細心の注意を払っている。

- 主な実施内容：草原域及び公園域の草刈(全刈3回/年、部分刈適宜)
- 登山道の巡視及び軽微修繕(2回/年)
- 林間域、施設周辺の倒木及び危険木処理(適宜)
- 野外歩道類の維持管理(適宜)
- 駐車場等の除雪(適宜)

⑥軽微修繕

障害の発生した設備・備品等について、1件50万円未満のものは指定管理者で対応し、それ以外のものは県へ速やかに報告するとともに、修繕対応案の提示を行った。

- 修繕状況：三瓶自然館……………43件(衛生器具設備修繕など)
- 埋没林公園…………… 5件(水道設備修繕など)

⑦資格者の配置

㊦常駐配置義務付のもの

- ・防火管理者(三瓶自然館)……………山本健太郎(総 務 課)
- ・ “ ” (埋没林公園)……………大野志津香(企画情報課)
- ・安全運転管理者……………石田 浩二(事務局次長)
- ・危険物取扱者……………山本健太郎(総 務 課)

①再委託業者による配置可のもの(カッコ内は直接実施業者)

- ・建築物環境衛生管理技術者……………(株)NTTファシリティーズ
- ・専用水道管理者……………(株)NTTファシリティーズ(山陰クボタ水道(株))
- ・消防設備点検資格者……………(株)NTTファシリティーズ(ホーチキ(株))

- ・浄化槽管理者……………(株)NTTファシリティーズ(クリーン(株))
- ・昇降設備管理者(三瓶自然館)……(株)NTTファシリティーズ(株)日立ビルシステム)
- ・ 〃 (埋没林公園)……(株)NTTファシリティーズ(三菱電機ビルテクノサービス(株))
- ・電気設備主任技術者……………(一財)中国電気保安協会
- ・車両管理整備者……………米原陵次(自動車整備業者)

(2) 三瓶自然館関係

① 指定管理者による点検

項 目	実 施 状 況
建築物全般、各設備	目視点検、動作確認(随時)
上水道設備管理	上水検査(毎日) 検針(1回/月)
浄化槽管理	三次処理槽草刈(2回/年) 検針(1回/月)
自家用発電機(本館・新館)	目視点検(1回/週)
空調関連設備(全館)	目視点検(毎日)
空調オイルタンク(本館・新館)	目視点検(1回/週)
草刈(自然館周辺、北の原、ヘルシートレーニングコース)	野外草原域及び公園域の芝刈、草刈及び除草(全刈3回/年、部分的に1回/月、5～11月) 野外林間域の倒木及び危険木処理(随時) 野外歩道類の維持管理、危険箇所の報告(随時)
登山道(姫逃コース、名号コース)、山頂小屋	巡視、軽微修繕(2回/年) 野外歩道類の維持管理、危険箇所の報告(随時)
除雪(駐車場、施設周辺等)	随時
館内消毒作業	1日3回(毎日) ※令和5年5月8日以降は、必要に応じて実施。

② 委託業者による点検

項 目	実 施 状 況	委 託 業 者
施設清掃(全館)	日常清掃(随時、部分的に1～3回/週) 定期清掃(3回/年、部分的に1～2回/年) 特別清掃(1回/年)	(株)NTTファシリティーズ
衛生管理業務	ねずみ・害虫駆除(2回/年) 空気環境測定(6回/年) 雨水処理層清掃(1回/年)	(株)NTTファシリティーズ
上水道管理	電気計装・制御盤、ポンプ類点検(総合点検1回/年、定期点検6回/年) 配水池の清掃・水質検査(1回/年) 減菌器点検(6回/年)	(株)NTTファシリティーズ
専用水道水質検査	浄水水質検査(項目毎に1～12回/年) 原水全項目検査(1回/年) クリプト指標菌(4回/年)	(株)NTTファシリティーズ
浄化槽維持管理・機能調整	機器点検・清掃・カス抜き取り等(1回/週) 水質検査(流入水2回/年、放流水1回/月) 機能調整(1回/月)	(株)NTTファシリティーズ
	法11条検査(1回/年)	(公社)島根県浄化槽普及管理センター
自家用電気工作物	月次点検(1回/月)、年次点検(1回/年)	(一財)中国電気保安協会
消防設備	外観機能点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	(株)NTTファシリティーズ

防火対象物定期点検	定期点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
収蔵庫消火システム	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
非常用発電設備	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
灯油焚冷温水発生機(本館)	冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) 暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
木質ペレット焚冷温水発生機(本館)	冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) 暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
灯油焚冷温水発生機(新館)	冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) 暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
空調関連設備(本館・新館)	機器点検(2回/年) 室外機点検(4回/年)	㈱NTTファシリティーズ
空調オイルタンク類(本館・新館)	清掃・配管漏洩検査(1回/年) 機器点検、機能試験(2回/年)	㈱NTTファシリティーズ
昇降機設備(本館・新館)	月次点検(1回/月)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
衛生ポンプ設備	機能点検・調整(2回/年)	㈱NTTファシリティーズ
展示設備(本館)	機器点検・調整(2回/年)	㈱ノムラテクノ
展示設備(新館)	機器点検・調整(2回/年)	㈱丹青社
燻蒸設備	機器点検・調整(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
収蔵庫燻蒸	ブンガノン燻蒸(2回/年)	日本液炭㈱
総合映像システム	機器点検・調整(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
プラネタリウム設備	Gemini Star Σ SANBE 点検・調整(2回/年) 音響設備点検・調整(1回/年)	コニカミノルタプラネタリウム㈱
60cm反射望遠鏡	機器点検・調整(2回/年)	㈱西村製作所
20cmクーデ望遠鏡	機器点検・調整(1回/年)	㈱五藤光学研究所
天体ドーム設備	機器点検・調整(1回/年)	アストロ光学工業㈱
スライディングルーフ	機器点検・調整(2回/年)	㈱角藤 可動建築部
駐車場警備	警備員による駐車場整理(246人/年)	㈱NTTファシリティーズ
機械警備	火災・夜間侵入監視(毎日)	㈱NTTファシリティーズ
他建築設備関連	自動ドア点検・調整(1回/年) 排煙窓・非常灯動作点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
館内消毒作業	1日2回(毎日) ※令和5年5月8日以降は、職員実施分のみ。	㈱NTTファシリティーズ
ファイヤーウォール更新	随時	㈱ソルコム

(3) 三瓶小豆原埋没林公園関係

① 指定管理者による点検

項 目	実 施 業 務
建築物全般、各設備	目視点検・動作確認(随時)
上水道設備管理	目視点検(1回/週) 塩素投入(随時)
自家用発電設備	目視点検(1回/週)
地下水監視	水位(1回/週) 水質(1回/月)
除雪	駐車場(随時)
園内消毒作業	1日3回(毎日) ※令和5年5月8日以降は、必要に応じて実施。

② 委託業者による点検

項 目	実 施 状 況	委 託 業 者
施設清掃(管理棟、大・小展示棟)	日常清掃(随時、部分的に1～3回/週) 定期清掃(2回/年、部分的に1回/年) 特別清掃(2回/年)	㈱NTTファシリティーズ
上水道管理	ポンプ類点検、受水槽清掃、滅菌器点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
合併浄化槽維持管理	機器点検・調整、水質検査等(1回/月)	㈱NTTファシリティーズ
	法11条検査(1回/年)	(公社)島根県浄化槽普及管理センター
自家用電気工作物	月次点検(1回/月)、年次点検(1回/年)	(一財)中国電気保安協会
消防設備	外観機能点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
非常用発電設備	機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
昇降機設備	月次点検(1回/月)、総合点検(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
地下水ポンプ	機器点検・調整(2回/年)	㈱NTTファシリティーズ
機械警備	火災・夜間侵入監視(毎日)	㈱NTTファシリティーズ
酸素濃度計	機器点検・調整(1回/年)	㈱NTTファシリティーズ
草刈	園地(年5回、5～11月)	小豆原自治会
園内消毒作業	1日2回(毎日) ※令和5年5月8日以降は、職員実施分のみ。	㈱NTTファシリティーズ

5. 物品の管理等

- (1) 協定書第25条により、令和5年度に本事業用として購入等により取得した物品は次のとおりである。

□ 令和5年度取得物品 (取得単価100,000円以上のもの。財団保有)

(金額単位: 円)

品 名	規 格 等	数 量	単 価	取 得 価 額	備 考
コウモリ捕獲用器具	HOGAハブトラップ一式	1	334,510	334,510	調査・研究用
フレックスモア	共立栽培管理機2FL502X	1	233,200	233,200	施設管理用
カーナビゲーション	パイオニア	1	111,100	111,100	車両及びその他
業務車両	マツダファミリアバン	1	797,792	797,792	車両及びその他
プラネタリウム番組	「スタートレイン」	1	2,904,000	2,904,000	ビジュアルドーム用
レジシステム	ipad・バーコードリーダー・プリンター	1	148,489	148,489	埋没林受付用
展示バーチャルデータ	R5夏期企画展	1	660,000	660,000	企画展デジタルアーカイブ用
展示バーチャルデータ	R6春期企画展	1	561,000	561,000	企画展デジタルアーカイブ用
合 計 (税込額)				5,750,091	

※償却資産は、取得単価10万円以上の物品(決算書上は固定資産に分類)。

- (2) 県に帰属する物品は島根県会計規則に基づいて管理を行った。

- (3) 廃棄した物品は次のとおりである。

□ 令和5年度廃棄物品 (県有備品)

備品番号	備 品 名	規 格 等	数 量	配 置 場 所	備 考
1-1-6 240	傘袋サービス機	リモートL998KA-B721	2	三瓶自然館	用途不用

Ⅲ. 地球環境の保全に関する活動支援事業

1. 事業概要

当財団は、島根県の豊かな自然環境を守り、自然と調和した持続可能な地域づくりを進めるために、2015年に国連で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」を念頭に置いて、地球環境保全に関する普及啓発を行ってきた。そのため、行政組織や教育機関をはじめ、様々な地域課題の解決に自ら率先して取り組むNPO法人や任意団体、各種ボランティアなどを支援する中間支援組織として、多様な主体との協働を進め、活動の充実を図った。

また、2001年には島根県知事より島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、これまで地球温暖化対策に取り組んできた。2015年のパリ協定の発効を受け、国が進める温室効果ガス削減目標の達成に向けて、県民一人ひとりに脱炭素・循環型社会の実現につながる意識や行動の変化を促すため、様々な主体と協働・連携しながら活動を進めた。

2. 各事業の詳細

(1) 家庭向け地球温暖化対策事業

① しまねエコライフ推進会議(地球温暖化対策地域協議会)生活部会の運営

概 要：県地球温暖化対策協議会生活部会の事務局として、「しまねエコライフ推進会議」の開催が予定される令和6年度の生活部会運営方針を検討するため、元運営委員3名と意見交換会を行った。

実 施 日：2月14日(水)

場 所：島根県市町村振興センター3階 特別会議室

内 容：コロナ禍後の社会変化を踏まえた今後の生活部会のあり方に関する意見交換

備 考：元運営委員の他3名は遠方のため事前に電話等でヒアリングを実施

② 親子で取り組む環境活動促進

未就学児や児童とその保護者に対して、親子で簡単に取組むことができるメニューを提供することにより、未来を担う子どもだけでなく、その親世代や祖父母世代といった幅広い年齢層へ持続可能な社会の重要性やカーボンオフを認識してもらうプログラムを実施した。

□ 親子で取り組むワークシート

期 間：4月～2月

実 施 園：50園(参加園児数：1,308人、ワークシート回収数：458枚)

削 減 量：1,474 kg-CO₂

概 要：幼稚園児、保育園児とその保護者がカーボンニュートラルについて関心を持ち、家庭で自発的に取り組んでもらえるよう「しまねっこチャレンジ」ワークシートを制作し、希望する幼稚園及び保育園に配布した。各園で実施したワークシートを回収し、その取組結果を表彰(園には賞状、取組園児には感謝状と粗品)することでフィードバックしプログラム参加への満足感を高めた。

□幼・保育園向け親子で取り組むミニエコ講座

期 間：4月～2月

実 施 園：47園(参加者数：997人)

スタッフ：島根県地球温暖化防止活動推進員(以下、推進員)、財団職員

概 要：県内の全幼稚園・保育園を対象に、希望があった園でミニエコ講座を実施した。講座では、環境負荷低減につながる行動の絵本等の読み聞かせの後、各自で布製のバッグに絵を描き自分だけのマイバッグを製作したり、資源ごみ釣りゲームを行うなどして、ごみのリサイクルについて体験を通した啓発を行った。

ミニエコ講座を体験した園の先生や園児の保護者等から夏休み中の学童保育等で実施の希望があり、4か所で同様の活動を行った。加えて、大田市の保育研修会からの依頼で、「子育て応援フェスティバル」において、エコバッグつくりとごみ釣りゲームなどミニエコ講座を行った。

□小学生向けの取組

概 要：松江市・出雲市・浜田市が、小学生等を対象として独自に実施する家庭向け省エネワークシート事業を支援するため、脱炭素につながる具体的行動やCO₂削減量データなどワークシート作成に必要な情報の提供を行った。

□ゼロカーボンチャレンジブック授業

期 間：11月～1月

実 施 校：浜田市立石見小学校(2クラス59人)、出雲市立西田小学校(1クラス10人)

講 師：島根県地球温暖化防止活動推進員3名、財団職員

概 要：子どもたちが冬休みに家庭でワークブック「しまねゼロカーボンチャレンジブック」に取り組めるよう、家庭での取り組み前に事前授業、取り組み後に事後授業を行うことで、学習効果を補強するとともに環境配慮行動の定着を図った。

□ゼロカーボンチャレンジブック講師養成研修

実 施 日：6月29日(木)

場 所：島根県立男女共同参画センター あすてらす 研修室3(大田市)

講 師：豊田陽介氏、広瀬和代氏(認定NPO法人気候ネットワーク)、
和田譲二氏(NPO法人緑と水の連絡会議)

参 加 者：推進員9名

概 要：「しまねゼロカーボンチャレンジブック」を用いた児童向け講座の講師の養成を行った。

また、大田市内で同様の活動を行っている和田氏から事例紹介を受けた。

□ゼロカーボンチャレンジブック勉強会

実 施 日：10月16日(月)

場 所：島根県市町村振興センター6階 中会議室(松江市)

参 加 者：推進員7名

概 要：チャレンジブック授業の改善に活かすため、昨年度の実施状況を振り返り、意見交換を行った。

③学校における環境教育プログラム

教育現場において環境教育プログラムのニーズが高まることを想定し、気候変動やSDGsをテーマとした新たなESD・環境教育プログラムの開発に取り組むとともに、試行を行った。

□「気候変動ミステリー」体験会

実施日：8月1日(火)

場所：浜田市中心図書館(浜田市)

講師：高橋敬子氏(未来のためのESDデザイン研究所)

参加者：16人

概要：「気候変動ミステリー」は、イギリスの地理学の教員グループが考案した学習手法(「ミステリー」)を元に、立教大学ESD研究所によって「気候変動教育能力開発プログラム」の一環として開発されたもの。本プログラムを基に、島根県に関連する情報を加えた「島根県版ミステリー」を構築するため、昨年度に引き続き県内の小・中学校教員等を対象とした体験会を実施し、あわせてプログラムの課題等についても意見聴取を行った。

□水族館との連携による「気候変動ミステリー」の実施

イベント名：教員のための博物館の日

実施日：8月4日(金)

場所：しまね海洋館アクアス(江津市・浜田市)

対象：教員

主催：島根県立三瓶自然館サヒメル、島根県立しまね海洋館アクアス

参加者：17人

概要：教員向けに博物館・水族館の学校教育への利活用を支援する体験会を実施した。しまね海洋館アクアスの館内での授業を想定し改良を行ったプログラム(「気候変動ミステリー」)を実施し、プログラムの学校等での学習利用について可能性を探った。

□小学校における「気候変動ミステリー」の実施

実施日：11月22日(水)、12月4日(月)

場所：松江市立内中原小学校(松江市)

対象：6年生

参加者：120名(4クラス)

概要：教員向け体験会に参加した教員からの依頼を受けてプログラムを実施した。実施にあたっては、学校のニーズ把握や内容のチェック等、教員と協議を重ね、地域性を踏まえた内容を盛り込むなど、学校の学習に沿った調整を行った。財団によるプログラム実施後、学校において独自の取組として、児童が気候変動について学んだことを深め、まとめた内容の発表会を行うなどしており、本プログラムの次の展開の可能性について、知見を蓄積することができた。

(2) 地球温暖化防止活動推進員の支援

令和4年12月に第11期の島根県地球温暖化防止活動推進員(以下「推進員」という)が島根県知事より委嘱を受け、現在39名(令和6年3月31日)が県内各地域で活動を行っている。

地球温暖化対策の推進に関する法律(平成十年法律第百十七号)第38条第1項の規定に基づき

地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けている当財団では、同法に基づき推進員の資質向上のための研修の企画・実施を行うとともに、推進員への支援及び協働・連携し温暖化防止活動を行った。

①推進員の能力向上

推進員の活動に必要な資質や知識、スキルの向上を図るため研修を実施した。実施にあたっては、ワークショップや新たなツールの紹介など多様な内容とし日頃の活動に役立てられるよう工夫した。

□第1回研修

実施日：7月21日(金)

場所：島根県立男女共同参画センター あすてらす 研修室1,2(大田市)

実施内容：①講演1 「環境と経済の両立～地域脱炭素で育む邑南町の礎～」

講師：藤田浩司氏(邑南町地域みらい課)

②講演2 「再エネ活用で実現する「社会のアップデート」

講師：木原浩貴氏(京都府地球温暖化防止活動推進センター
副センター長)

③ワークショップ

カードゲーム「2050カーボンニュートラル」

ファシリテーター：木原浩貴氏

参加者：20名(推進員11名・行政9名)

概要：講演では、環境省が推進する脱炭素先行地域に選定され、県内で最も早く地域脱炭素に取り組んだ自治体である邑南町の藤田氏より、「地域脱炭素の達成」を地域を豊かにし、地域経済が循環するための手段としてとらえ、エネルギーの地産地消をめざす取組について学んだ。また、京都府北部を中心を対象に地域新電力会社を運営する木原氏から、地域に根ざした再エネ電力の供給が、地域の脱炭素化に貢献するとともに、地域社会を持続可能な形へアップデートする原動力となることについて学んだ。

ワークショップでは、参加者が地域の脱炭素化を担う社会の様々なセクターとなってロールプレイを行うカードゲーム「2050カーボンニュートラル」を体験し、地域の脱炭素化にはどのような地域連携が必要か、体験しながら学んだ。

□第2回研修

実施日：3月1日(金)

場所：島根県立男女共同参画センター あすてらす 研修室1,2(大田市)

講師：久保直紀氏(プラスチック容器包装リサイクル推進会 専務理事)

講演：「プラスチック容器包装の資源循環の動向」

参加者：14名(推進員9名 行政5名)

概要：日本におけるプラスチックを原料とした容器包装の現状や、これら容器の再資源化などの資源循環についての業界団体の取組、消費者がどのように行動すべきかについて、最新の知見交えた講義を受けた。

②推進員の活動支援

県内で活動する推進員が連携し、地域での温暖化防止活動を主体的に企画・実施できるよう、

推進員のネットワーク化(グループ作り)と活動支援を行った。

□グループ間の情報共有

実施内容：サポーターズ連絡会の実施

活動グループ：地域グループ(松江・出雲・大田・浜田・奥出雲・津和野)

連絡会の実施：第1回 実施日：5月15日(月)

内 容：地域グループの企画書について

- ・津和野地区「キエーロ普及のための勉強会」
- ・出雲地区「ごみの減量化・再資源化勉強会」他
- ・大田地区「みつろうラップづくりワークショップ」

第2回 実施日：3月13日(水)

内 容：地域グループの実施報告

- ・出雲地区「講演会・海岸清掃」等

地域グループの活動の現況と活性化についての意見交換

概 要：より地域に密着した温暖化防止活動を促進するため、「しまねエコライフサポーターズ連絡会」で情報共有を行い、推進員の連携を促した。

□グループによる活動

実施内容：①松江市内小学校での省エネチャレンジシート活動への協力、まつえ環境市民会議事業への協力(松江市)

②町報への毎月の普及啓発コラムの寄稿・掲載、文化祭への出展(奥出雲町)

③生ごみの減量化・再資源化の勉強会、出雲西高校インターアクト部との海岸清掃(出雲市)

④みつろうラップ作りワークショップ(大田市)

⑤保育園でのミニエコ講座、浜田市から依頼された児童クラブや公民館でのミニエコ講座の実施(浜田市)

⑥キエーロ普及のための勉強会の実施、保育園でのミニエコ講座の実施(津和野町)

概 要：地域に密着した温暖化防止活動を行うため、推進員が地域別やテーマ別にグループを構成し、連携することで主体的に活動を企画・実施した。活動にあたっては、各グループが企画書及び予算書を作成し、連絡会で情報共有などを行い活動を実施した。当財団は、事務局として経費の執行や事務処理等を行うとともに、活動へのアドバイスなども行いグループの円滑な活動を支援した。

③しまエコユースサポーターの活動支援

若年層による普及啓発効果を期待し、多様な世代との活動の連携を促進するため、県内の大学において環境保全等の活動を行うサークルをしまエコユースサポーターに登録し、活動支援を行うとともに、その活動の様子をSNS等で県民に紹介した。

登録団体：島根大学環境委員会、島根大学エコロジー・ネットワーク、島根県立大学環境倶楽部「しまえっこ」

(3) 家庭の省エネ促進支援

①住まいの省エネ推進事業

新築や既築住宅の断熱・気密性能の向上や、住宅への省エネ家電や再エネ設備の導入により、民生家庭部門における大幅な脱炭素化を促すため、建築業界や消費者に向けて情報発信と意識啓発を行った。

また、各家庭においてエネルギー消費の見える化と効果的な削減を促すため、家庭向け省エネ診断の普及と診断支援を行った。

□「健康で快適な家づくりセミナー」

実施日：12月11日(月)

場所：雲南市役所(雲南市木次町里方)

参加者：16人

実施内容：①事例紹介 省エネ改修でQOL(クオリティ オブ ライフ)を向上

講師：坪倉菜水氏(島根県建築士会 会長)

②ワークショップ 目指す(性能・普及)のどのあたりが現実的か？

講師：松井郁夫氏(一級建築士、「木組の家づくり」松井郁夫建築設計事務所)

進行：宇田川孝浩氏、安藤かおり氏、青山泰氏(建築士会他)

葭矢崇司(財団職員)

③情報提供 改正建築物省エネ法等について

金築慶子氏(島根県建築住宅課)

④情報提供 雲南市の脱炭素政策について

神庭和幸氏(雲南市建築住宅課長)

概要：主に県内の住宅業界関係者を対象に、断熱住宅のメリットや健康との関わり、地域性を考慮した住宅リフォームの在り方など、実例を踏まえたワークショップを行うなどして、直接住まいの断熱に関わる方々の意識改革を促した。

□「暑くて寒い！？このままの教室でホントに大丈夫？」相談会

実施内容：①第1回 実施日：12月21日(金)

内容：全国で取組が広がる「学校断熱プロジェクト」について、既存の事例を分析するとともに、大田市内の小学校での断熱プロジェクトの実施可能性について検討を行った。

②第2回 実施日：3月13日(水)

内容：教室における断熱施工の効果について、シミュレーションを行った結果、断熱施工によって教室内の温度環境が改善されること、エアコンの負荷が軽減され、エネルギー消費が抑制されることが明らかとなった。また、具体的な学校断熱プロジェクトの実現可能性についても議論した。

場所：大田市中央公民館(大田市)

参画団体：大田市教育委員会、大田市環境政策課、山陰合同銀行大田支店、渡邊建築工房株式会社、縁パワーしまね、おおだ未来づくり会議、公益財団法人しまね自然と環境財団

□既存住宅の温熱環境についての研究会

実施日：1月31日(水)

場所：エコサポしまね(松江市)

連携団体：島根大学総合理工学部建築デザイン学科 清水研究室

概要：島根大学建築デザイン学科の清水貴史准教と研究室の学生とともに、在来の木造建築における温熱環境や省エネリフォームに関するミーティングを行った。昨年度より清水研究室で行われた「石見銀山の岡家における温熱環境調査」の結果

を基に、国際学会誌「Design for Climate Adaptation」に掲載された論文について、学生が事例紹介を行った。また、既存の木造建築の断熱化や省エネ改修について、今後の方向性を議論した。

□うちエコ診断士のフォローアップ研修

実施日：8月18日(金)

参加方法：オンライン

講師：小山貴志氏(エコワークス株式会社取締役社長)

参加者：6名

概要：うちエコ診断を円滑に実施し、診断技術の向上を図るため、うちエコ診断実施事務局(エコサポしまね、コアラッチ)に登録している診断士を対象に、家庭エコ制度運営事務局が実施する「住宅向け太陽光発電設備の普及がもたらすメリットについて」オンラインセミナーを受講する研修を行った。

□うちエコ診断の広報

概要：うちエコ診断を広く県民に周知し、受診者拡大を図るため、WEB版うちエコ診断について説明したチラシ等をイベント等で配布した。

□島根県委託によるうちエコ診断業務の実施

実施件数：31件

場所：1市2会場(出雲市)

削減量：6,302.6 kg-CO₂/年(一世帯あたり、約700 kg-CO₂/年・世帯。但し、事後調査の回答を得た9件によるもの。)

診断士数：6人

概要：県環境政策課、各市環境担当課等と連携して受診の機会を設け診断を実施した。受診者には、診断結果に基づき対策の提案を行うとともに、事後調査を実施し、対策状況を把握した。

□飯南町委託によるうちエコ診断業務の実施

実施件数：9件

場所：3会場

削減量：11,384.5kg-CO₂/年(一世帯あたり、約1,423kg-CO₂/年・世帯。但し、事後調査の回答を得た8件によるもの。)

診断士数：1人

概要：飯南町エコリフォーム補助金申請者に対し、町の依頼を受け診断士を派遣し診断を行った。診断結果に基づき対策の提案を行うとともに、事後調査を実施し受診者の対策状況を把握した。

②COOL CHOICEセミナーの実施

脱炭素社会の実現に必要なライフスタイル転換(「省エネ行動」「製品等の買い換え」「再生可能エネルギーの導入」)など、地球温暖化対策につながる「賢い選択」を広く県民に知っていただくため、「COOL CHOICEセミナー」を県内市町村及び地球温暖化対策地域協議会と連携し実施した。

□オンラインセミナー「健康住宅と省エネのお話し」

実施期間：12月4日(月)～1月31日(水)

実施方法：動画配信サイト「YouTube」に、健康と省エネに関する3本の動画を掲示し、視聴者にはインターネット上でアンケートを実施した。

参加者：91人

実施内容：講演①：古くて寒い家を健康住宅へ～工夫あれこれ～

講師：片寄洋子氏(インテリアコーディネーター、
(株)アトリエカーサ 代表)

講演②：中古住宅の健康診断

講師：坪倉菜水氏(一級建築士、ホームインスペクター、
コクーン設計舎 代表)

講演③：家づくりは、みらいの環境デザイン

講師：安藤かおり氏(一級建築士事務所 安藤建築設計室)

概要：省エネ性が低い既設住宅の改修を促進するため、経済性、快適性、安全性の向上及び健康増進など多面的な便益が得られること、断熱対策などの事例などを、動画を用いて発信した。

□地球温暖化啓発パネル展

実施期間：11月2日(木)～1月31日(水)

場所：ゆめタウン江津(江津市)、阿須名交流センター(邑智町)

概要：地球温暖化の現状の解説、次世代自動車や省エネ住宅など地球温暖化防止活動を紹介した啓発パネル等を、県内の各施設に掲出した。

□エコドライブセミナー

実施日：11月12日(日)、18日(土)・19日(日)、25日(土)、26日(日)

場所：邑智町立邑智小学校、出雲ドーム、安来市役所、松江市役所本庁舎

概要：エコドライブシミュレーターを用い、燃料の無駄を抑える運転方法を学び体験できるセミナーを開催した。

(4) 市町村事業の支援

市町村温暖化対策担当課が、効果的に地球温暖化対策事業を実施できるよう事業の企画支援(相談・助言・協力)を行った。

□市町村環境担当者へのヒアリング

対象：安来市、松江市、出雲市、雲南市、大田市、浜田市、益田市、奥出雲町、飯南町、邑南町、美郷町、津和野町、隠岐の島町

概要：各市町村と連携を密にし、地域における課題やニーズを把握するため、年度当初に13市町村の環境担当課にヒアリングを行い、市町村支援の参考とした。特に「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」の対象事業や「地域脱炭素のための促進区域設定」に関する情報、地球温暖化対策実行計画の策定、改訂状況などについて聴取し、当財団の支援について提案を行った。

□益田市クールチョイスアンバサダー事業の支援

実施期間：5月～2月(計5回)

対象：益田市立東仙道小学校6年生

連携団体：益田市環境衛生課、島根県地球温暖化防止活動推進員

概要：益田市が市内の小学校で行っている地球温暖化をテーマとした環境学習事業「クールチョイスアンバサダー事業」の実施にあたり、プログラムの企画・運営を支援した。また、該当校でのプログラム実施の際には、コーディネーターとして支援するとともに、当財団職員が講師となって授業を行った。

□浜田市地球温暖化対策実行計画の改訂にかかる支援

実施期間：7月～1月(4回)

概要：浜田市地球温暖化対策計画(区域施策編)の改訂にあたって、島根県地球温暖化防止活動推進センターとして策定委員に加わり、浜田市における地域の脱炭素施策の方向性などについて助言した。

□エコ通勤・エコウォークチャレンジ

実施期間：6月～1月

対象：出雲市、雲南市の各職員

概要：各自治体職員向けの温室効果ガス排出削減取組として、自家用車利用以外の通勤方法を取り入れる「エコ通勤」の試行を呼びかけた。エコ通勤のメリットとして、徒歩等の運動による健康効果を周知する動画を作成し、取組自治体へ提供した。エコ通勤の実施にあたっては、両市が連携することで効果が高まるよう財団職員が支援した。

□エコドライブ推進にかかる啓発

実施日：11月2日(邑南町)、11月8日(大田市)、11月15日(浜田市)、11月16日(益田市)、11月18日(出雲市)、11月25日(安来市)、12月23日(松江市)、随時(江津市、奥出雲町)

場所：イオン松江店、出雲ドーム、イオン大田店、道の駅みずほ など

配布数：2,110部

協力団体：安来市、松江市、出雲市、大田市、江津市、浜田市、益田市、奥出雲町、邑南町、安来市地球温暖化対策地域協議会、まつえ環境市民会議、出雲市地球温暖化対策協議会、大田市地球温暖化対策地域協議会、江津市地球温暖化対策地域協議会、浜田市地球温暖化対策地域協議会、益田市地球温暖化対策地域協議会、奥出雲町地球温暖化防止対策地域協議会、邑南町地球温暖化対策地域協議会

概要：エコドライブの普及啓発及びエコドライブの実践によるCO₂削減を目的とし、各市町地球温暖化対策地域協議会及び島根県地球温暖化防止活動推進員と協力し、県内の4市町で啓発リーフレットを配布するPR活動を行った。

□島根県内地方公共団体環境担当者研修の実施

実施日：2月7日(水)

場所：島根県民会館(松江市)

実施内容：カードゲーム「2050カーボンニュートラル」

ファシリテーター：南原順氏(コミュニティーエナジー株式会社)

参加者：24人

対象：市町村環境担当課職員、島根県地球温暖化対策協議会行政部会構成員

概要：地域の脱炭素化につながる事例を学び、地域における取組促進を支援するため、新たな知見と具体的な事例を学ぶことを目的とした研修会を実施した。ワークショップでは、地域の脱炭素化を担う社会の様々なセクターとなってロールプレイを行うカードゲーム「2050カーボンニュートラル」を体験し、地域の脱

炭素化にはどのような地域連携が必要か、体験しながら学んだ。

(5) 全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)との連携

全国センター(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット、平成22年8月設立)との連携に努め、中四国ブロックや他県センターとの共通事業への取組み、情報交換を図った。

□全国センター会議

実施日：6月20日(火)

場 所：日本教育会館(東京都千代田区)

備 考：オンラインにて参加

□全国連絡調整会議

実施日・場所：(第1回)4月19日(水)、オンライン開催

(第2回)9月11日(月)、AP 市ヶ谷(東京都千代田区)

(第3回)2月7日(水)、TKP東京駅カンファレンスセンター(東京都中央区)

備 考：オンラインにて参加

□中四国ブロック会議

実施日・場所：(第1回)7月18日(水)、TKPガーデンシティ岡山(岡山県岡山市)

(第2回)12月19日(火)、TKPガーデンシティ岡山(岡山県岡山市)

備 考：第1回はオンライン、第2回は会場にて参加

(6) 複数の情報媒体を活用した情報発信

生活者の価値観・ライフスタイルの多様化が進む中、県民一人ひとりが生活の中で自分のライフスタイルに合った脱炭素にも繋がるアクションを具体的に実践できるよう、さまざまな世代や思考を踏まえた多様な手段を用いた情報発信を行った。

発信にあたっては、「エシカル消費」、「SDGs」、「丁寧な暮らし」等を啓発のテーマとし、地域や風土に根ざし、地域の自然資源を活用した暮らしを実践する人のライフスタイルを紹介した。その人の取組や環境に対する考え、未来の地域への思いを引き出すことで、県民に自分らしく脱炭素にも繋がる暮らしに興味を持ってもらえるよう努めた。

また、幅広い年齢層の県民に、楽しみながら脱炭素に繋がる活動を行う機会を提供するため、県内でも比較的規模が大きなイベントに出展しワークショップを行った。

①SNSを用いた情報発信

情報が届きにくい対象者への発信力を高めるため、FacebookやXなどSNSを活用し、県内外の環境情報を発信した。

実施数：週1回程度(Facebook)、週3回程度(X)

概要：当財団が実施する環境事業や地域・企業が行うゼロカーボンアクション、暮らしの中で実践できるエシカル消費や島根県の四季を感じる情報等についてわかりやすく発信した。

②WEBコラムによる情報発信

脱炭素社会の実現に繋がる「エシカル消費」や「SDGs」、個人の多様な価値観やライフスタイルをもとにした「丁寧な暮らし」をテーマに、地域に根ざした暮らしや地域活動を行う人物を取材し、取組や環境に関する考え方、未来の地域に対する思いを紹介したWEBコラムを制作し、SNSやHPなどで発信した。また、HPには取材対象者の活動に応じてSDGsの関連するアイコンを表示

し、地域における持続可能な取組への関心を高めることができるよう工夫した。

タイトル：「しまねを楽しみ、未来へ繋ぐコラム」

内 容	取材者
未来へ続く新たな海の事業を展開 とれた魚は全て活かす！株式会社永幸丸 永見さん	株式会社永幸丸(かぶしきがいしゃえいこうまる)永見輝晃(ながみ てるあき)氏(松江市島根町)
漆がつなぐ唯一無二のもの 島根の漆職人 長屋さん	島根の漆職人 長屋桃子(ながや ももこ)氏(出雲市斐川町)
町の宝物を受け継ぎ、未来に羽ばたく子どもたちを応援する Cafe and Gallery鐘や 八嶋さん	Cafe and Gallery鐘や(カフェアンドギャラリーかねや)八嶋敏江氏(やしま としえ)氏(飯石郡飯南町)

③ケーブルテレビ・オンライン配信用番組の制作

□しまねFuture2030

タイトル：しまねFuture2030第9回 漆がつなぐ唯一無二のもの

出 演：長屋桃子氏(島根の漆職人)

配信方法：ケーブルテレビ、エコサポしまねのYouTubeチャンネル内で配信

内 容：近年、サステナブルな素材として注目される「漆」の魅力や、長屋氏が取り組む「金継ぎ」を始めとした漆器の修繕、島根県の伝統工芸品「八雲塗」の製作協力などの紹介をとおして、視聴者に「大量生産・大量消費・大量廃棄」の世情を見直し、「自分だけの一点ものを長く使い続けることの豊かさ」を考える機会を提供した。

④紙媒体を用いた情報発信

発行部数12,000部、毎号8割以上の売り上げ実績があり地域性の高い雑誌「さんいんキラリ」に「量り売り」で商品を提供する店「量り売りSalema(サレマ)」(江津市)の取組を紹介する広告を掲載した。雑誌のメインターゲットである30代以上の女性に対して、量り売りというスタイルで物を購入することで、フードロスの削減や包装ごみの発生を防ぐことができることを紹介した。

掲 載 誌：さんいんキラリNo. 56(有限会社グリーンフィールズ発行)

内 容：しまねを楽しみ 未来へ繋ぐ

取 材 先：「量り売りSalema」今崎希氏

⑤実践活動の機会提供

幅広い年齢層の県民に、楽しみながら脱炭素に繋がる活動を実践する機会を提供するため、県内でも比較的規模が大きなイベントに出展し、ワークショップを行った。

□輝け11 しまね町村フェスティバルでの「みつろうラップづくりミニ体験」実施

イベント名：第10回 輝け11 しまね町村フェスティバル

期 間：9月30日(土)9:30~15:00

場 所：TSKさんいん中央テレビ本社(松江市向島町140-1)

対 象：一般県民

主 催：島根県町村会、島根県町村議会議長会、TSKさんいん中央テレビ

WS参加者：22人

概 要：「脱プラスチック」を大きなテーマに、「海ごみ」(「海の楽校」様より借用)や竹ストロー等の「エシカルグッズ」の展示、くり返し洗って使う「みつろうラップ」づくりのミニ体験ワークショップを実施し、イベント来場者へエシカル消費の実践を促した。

(参考)イベント来場者数：10,000人

□BSSまつりd!scoverFESでの「カンナくずのボンボンづくり体験」実施

イベント名：BSSまつりd!scoverFES

期 間：3月23日(土)9：30～16：00

場 所：くにびきメッセ大展示場(松江市学園南1丁目2-1)

対 象：一般県民

主 催：株式会社 山陰放送

WS参加者：約150人

概 要：主に島根県産の木のカンナくずを使って「ボンボン」をつくる体験ワークショップを実施した。参加者に使う木の種類や特性を紹介をしながら、バイオマス発電を含む森林の役割をsdg13、sdg14、sdg15に沿って紹介すると共に、木の香りや手触りを楽しみながら島根県や地域の森林資源の活用を考える機会を提供した。併せて、再エネに関するアンケートも実施した。
(参考)イベント来場者数：17,000人

⑥広報誌「しまエコ」の発行

生活者の価値観・ライフスタイルの多様化が進む中、日本が2050年までに目指す脱炭素社会の実現に向けて、CO₂排出の抑制にも繋がる「エシカル消費」等をテーマに、地域の会社や店舗の取組を具体的な実例として紹介することで、県民に日々の消費行動について早急な行動変容を促した。また、用紙には国内産の竹100%でできた竹紙を使用し、環境への配慮とともに身近な資源の有効活用もあわせて啓発する工夫を行った。

発行部数：3,000部(Vol. 22)

配 布 先：各市町村担当課、島根県地球温暖化防止活動推進員、県内の環境活動団体、全国及び各県センター、県内図書館、各市町村の公民館等

内 容：しまエコ Vol. 22[12月発行]

【特集】丁寧な暮らし。人生もサステナブルも「私仕様」で。

【オロチさんとしろくまさん】「窓」の断熱のすすめ

【ミニ特集】これからは「デコ」の時代!?／一緒にゼロ・ウェイスト

【いま、紹介したい作品】漆の魅力と「金継ぎ」のうつわ

(7)地球温暖化防止活動推進員による脱炭素チャレンジ集の取材と発行

地球温暖化や環境にかかる地域課題を掘り起こし、SDGsや地域循環共生圏など、今後の持続可能な地域づくりにつながる様々な主体の活動事例を調査し、事例集にまとめ、新たな協働・連携を創るための情報発信を行った。

取 材 先：島根大学教育学部附属幼稚園、松江市立鹿島東小学校、出雲市立朝陽小学校、出雲市立塩冶小学校、出雲市立伊野小学校、益田市立都茂小学校、雲南市立木次中学校、浜田市立第四中学校、益田市立美都中学校、県立飯南高等学校、県立隠岐水産高等学校

発 行 数：3,800部

概 要：推進員(11名)とともに、児童生徒等が地域学習として継続的に取り組んできたエコ活動を掘り起こして取りまとめ、脱炭素社会の実現に向けた身近な取組事例として県民へ紹介した。

(8) 地域の多様な主体との協働の推進

地域のニーズを踏まえた取組を促進するため、地域の多様な主体と協働・連携をすすめ、行政や環境団体とともに、活動の企画・運営・支援等を行った。

①持続可能な地域づくりを考えるワークショップ

□SDGsカフェの実施

期 間：4月～3月(10回実施)

場 所：島根県立しまね海洋館 アクアス(浜田市)

主 催：島根県立しまね海洋館アクアス

参画団体：公益財団法人しまね自然と環境財団、EP0ちゅうごく、中国地方ESDセンター、浜田市環境課、一般社団法人イワミノチカラ

参加人数：92人

概 要：SDGsに興味や関心がある人々が繋がり、新たな活動の機会を創り出すことを目的に、活動の企画を行うワークショップを定期的で開催した。ワークショップの成果として、地域版SDGsにつながるプログラムを企画・実施した。カフェ参加者がスタッフとして、海の環境問題や気候変動問題をテーマとした地域版SDGsにつながる一般向けのプログラムを行った。

□トークイベント「あつうみ～あつまれ海のなかまたち」の実施

実 施 日：6月18日(日)

場 所：島根県立しまね海洋館 アクアス(浜田市)

講 師：梅野恭範氏(渡辺鮮魚店株式会社)

沖野晃氏(島根県水産技術センター)

田畑卓郎氏(NPO法人ライフセービングクラブ、漁師)

福島大輝氏(真和漁業生産組合)

主 催：島根県立しまね海洋館アクアス

共 催：EP0ちゅうごく、中国地方ESDセンター、公益財団法人しまね自然と環境財団

対 象：一般県民

参加人数：15人

概 要：地域のSDGsについて、広く知る機会を提供するため、「SDGsオープンカフェ あつうみ～あつまれ海のなかまたち」と題して、トークイベントを開催した。海に関わる仕事を生業としている様々な分野のプロを講師に招へいし、海の環境の変化や、地域の海の持続可能性、現在の海の姿について、知り学ぶことができる内容とした。当日は、中学生、高校生から海に興味のある一般市民、魚の小売業を営む方、漁業関係者など、幅広い年代と属性の方々の参加があった。

□イベント「おおだ自然エネルギーパーク2024」の実施

実 施 日：3月4日(水)

場 所：サロン・ド・ゆきみーる(大田市)

主 催：おおだ自然エネルギーパーク実行委員会

共 催：大田市地球温暖化対策地域協議会、国立三瓶青少年交流の家、公益財団法人しまね自然と環境財団

後 援：大田市、山陰合同銀行、縁パワーしまね

事 務 局：おおだ未来づくり会議

参加人数：150人(ワークショップ参加者：28人)

実施内容：①各種出展 生ゴミ処理器「キエーロ」とはかり売り(めぐる屋)
みつろうラップワークショップ(大田市温対協)
しいたけの植菌体験(緑と水の連絡会議)
フィンランドトーチ(林友会)
木のキーホルダーワークショップ(国立三瓶青少年交流の家)

②ワークショップ

カードゲーム「2050カーボンニュートラル」

ファシリテーター：南原順氏

(コミュニティーエナジー株式会社 代表)

概要：団体等が、自然エネルギーや天然資源としての森林の有効利用や3R、脱プラスチック、エシカル消費等をテーマとして出展した。当財団は、カードゲーム「2050カーボンニュートラル」を体験するワークショップを主催した。参加者は地域の脱炭素化を担う社会の様々なセクターとなってロールプレイを行い、地域の脱炭素化にはどのような地域連携が必要か、体験しながら学んだ。その他、本事業全体の企画・立案からイベントの運営までの全般にわたり支援を行った。

②持続可能な環境学習プログラムの協働実施

□協働によるESDプログラムの実施

イベント名：釣ったらわかる いわみのSDGs

実施日：10月22日(日)、10月29日(日)

場所：桧ヶ浦海岸(浜田市大辻町)

対象：一般県民

主催：公益財団法人しまね海洋館

共催：公益財団法人しまね自然と環境財団、EPOちゅうごく、中国地方ESDセンター、浜田市環境課、一般社団法人イワミノチカラ

協力：島根県水産技術センター

参加人数：32名

概要：地域におけるSDGsの実践として、身近な海の環境について知り、学び、体験するESDプログラムを協働で行った。海岸での魚釣りを通して、海の生物やその活用法、海ごみの現状やいかにして環境に負荷をかけずに自然と触れあうかなど、多様な内容を盛り込んだ「海のアクティビティ」を実施した。

□水辺の豊かさと地球環境を守る方法

日時：10月28日(土)、11月19日(日)

場所：出雲西高等学校

講演：水辺の豊かさと地球環境を守る方法

講師：野崎研(財団職員)

対象：出雲西高等学校 インターアクトクラブ員

参加者：11人

概要：生態系保全と気候変動が関連していることを理解してもらい温暖化防止活動を実践するよう呼びかけた。

③その他団体等との連携および協力、支援

□EPOちゅうごくの支援・連携

概要：地域における環境団体の協働・連携を進めるため、環境省が設置・運営する環境パートナーシップオフィスであるEPOちゅうごくと協力するため、運営委員と

して助言を行うとともに、島根県内でのSDGsやESD、地域循環共生圏に関わる事業について支援を行った。

□日本環境教育学会における事例紹介

実施日：8月26日(土)

場所：鳥取大学鳥取キャンパス(鳥取市)

概要：日本環境教育学会第34回年次大会の一般公開企画「子どもたちの気候変動学習を考える～地域での気候変動学習の現場から～」において、「島根県センターの気候変動学習の実践」として事例発表を行った。また、ワールドカフェ「地域での気候変動学習の特性とポイント」において、環境教育関係者と意見交換を行った。

④一般向け講師派遣

□浜田市旭町支部消費者問題研究会研修

実施日：10月11日(水)

場所：三瓶自然館サヒメル(大田市)

対象：消費者問題研究会 会員

参加者：18人

講師：葭矢崇司(財団職員)

概要：「SDGsの基礎講座～未来へのみちしるべSDGs～」と題して、SDGsの基礎や消費者としてSDGsを意識した消費行動を行う「エシカル消費」について解説した。

□大田市地球温暖化対策地域協議会研修

テーマ：人も地球も健康に！？夏涼しく冬暖かいエコハウスのススメ

実施日：2月18日(日)

場所：島根県立男女共同参画センター あすてらす(大田市)

対象：一般県民、協議会会員

参加者：25名

講師：葭矢崇司(財団職員)

概要：住む人の健康や快適性を確保しつつ、光熱費などを押さえることで、地域の脱炭素化に寄与する省エネ住宅について、住宅建築にあたってのポイントや省エネ効果を消費電力量や室温の測定データを元にわかりやすく解説した。

□脱炭素のまちづくり講演会

テーマ：人も地球も健康に！？快適で経済的なすこし未来の暮らしとは

実施日：2月27日(火)

場所：みんなの広場来島交流センター(飯南町)

対象：一般県民

参加者：30名

講師：葭矢崇司(財団職員)

概要：住む人の健康や快適性を確保しつつ、光熱費などを押さえることで、地域の脱炭素化に寄与する省エネ住宅について、住宅を建築する際のポイントや省エネ効果を、実際の消費電力量や室温の測定データを元にわかりやすく解説した。また、飯南町の地域性を踏まえ、木質バイオマスなどの再エネ導入のメリットや断熱性の強化の必要性についても盛り込んだ講演を行った。

⑤学校における環境学習支援

□安来市小学生環境学習

実施日：6月13日(火)～7月7日(金)(8回実施)

場所：さんそ学習館ケイオス(安来市)

対象：安来市内の小学校4年生(社日小、安田小、井尻小、赤屋小、十神小、山佐小、広瀬小、赤江小、能義小、荒島小)

参加者：228人

講師：葭矢崇司、野崎研(財団職員)

概要：安来市で実施している小学生環境学習の一環として、安来市の「さんそ学習館」と連携し、地球温暖化について講義を行った。

□江津東小学校の環境学習の支援

実施日：10月6日(金)

学校名：江津東小学校

対象：3～4年生

参加者：34人

概要：小学校の総合的な学習の時間に、身近な環境を知ること、自然と人のつながりや人が環境に与える影響を学ぶ授業を行った。三瓶自然館サヒメルのスタッフ及びボランティアと連携し、野外観察を通して生態系における物質循環や自然界ではごみが出ないことについて学ぶ内容とした。

⑥企業向け講師派遣

□産業廃棄物従事者研修

概要：産業廃棄物の収集・再資源化を行う企業の従業員を対象に、地域の中小企業の地域脱炭素への取組を促すため、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットが制作した「脱炭素化支援セミナーツール」を活用し、脱炭素ビジネスについての講義を行った。

実施日：松江会場：11月25日(土)、出雲会場12月6日(水)、浜田会場：12月5日(火)

対象：県内の産業廃棄物事業に従事する者

主催：一般社団法人しまね産業資源循環協会

参加人数：49名(松江会場9名、出雲会場21名、浜田会場19名)

講師：葭矢崇司(財団職員)

(9) 環境に係る展示や出展・教材の貸出

県民に環境問題についての普及啓発を行うため、様々な団体が実施するイベントや展示会の機会を活用して、地球温暖化やごみ問題、身近なエコ活動など、さまざまな分野の環境学習資機材の貸出や啓発パンフレットの提供を行った。

□環境学習資機材の貸出

概要：県民のニーズを考慮した環境学習資機材の整備等を図るとともに、希望する団体に年間を通じて貸出を行うことで、地域で行われるイベントや展示会で県民に環境問題について普及啓発を行った。

- ・タペストリー、資機材の貸出 ……13件
- ・タペストリーのリニューアル ……1件
- ・貸出図書の購入 ……………5冊
- ・配布用啓発物の製作 ……………1件

・配布用啓発物の購入・・・・・・・1件

□環境学習資機材を使用した展示

概要：島根県立図書館とのタイアップ事業として、温暖化に関する啓発タペストリーを始めとする環境学習資機材を使用した啓発展示を行った。

期間：12月14日(木)～12月27日(水)

場所：島根県立図書館1階ホール(松江市)

対象：一般県民

概要：「これからどうなる？「気候変動」を知ろう！」を大きなテーマに、温暖化に関するタペストリーやエシカルグッズの展示、関連図書の陳列等を行った。

(10)環境保全活動支援事業

県内のボランティア団体や法人による自然環境の保全や持続可能な社会を次世代に引き継ぐ活動を目的とした主体的な取組を促すため、取組の開始又は継続に要する費用の一部を助成した。

□令和5年度事業の実施

概要：自然環境の保全や持続可能な社会を次世代に引き継ぐ活動に対し助成を行い、伴走支援を行った。

助成内容：対象・・・・・・ボランティア団体、NPO法人等

助成額・・・・・・事業費の2/3以内助成で、80万円を上限

(参考)：令和5年度事業は、前年度中(令和4年度)に募集・審査を行った。

募集期間：令和4年11月1日(火)～12月26日(月)

審査会：令和5年3月13日(月)

	申請件数	申請事業費	申請助成額	交付決定件数	交付決定額
計	8件	4,037千円	2,686千円	5件	1,623千円

□令和6年度事業の審査及び採択

概要：令和6年度事業について、助成事業の実施期間を確保するため、今年度(令和5年度)に募集・審査を実施した。

助成内容：対象・・・・・・ボランティア団体、NPO法人等

助成額・・・・・・事業費の2/3以内助成で、80万円を上限

募集期間：令和5年11月1日(水)～12月26日(火)

広報：募集チラシ及び申請の手引きの配布(2,500部)、エコサポしまねHP、SNS

審査会：令和6年3月19日(火)

審査委員：学識経験者、県関係課、婦人団体関係者 計3名

	申請件数	申請事業費	申請助成額	交付決定件数※	交付決定額※
計	8件	3,776千円	2,515千円	6件	1,704千円

※いずれも内定(令和6年度において正式採択、交付決定)

IV. 北の原キャンプ場管理運営事業

本年度は、大田市から指定管理者に指名されて3期目5ヶ年度の4年度にあたる。これまで蓄積された運営経験を活かし、「豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場を提供する」を基本理念として、国立公園三瓶山の自然に囲まれた施設の魅力を最大限に引き出すことを意識して管理運営にあたった。その前提として、来場者の安全・安心への配慮を行い、イベント実施、キャンプ用品貸出、キャンプ場SNSのフォロワーへのキャンペーンなど、各種サービスにより満足度向上にも努めた。

また、三瓶自然館の指定管理者としての利点を活かして、イベント等の一体的な事業展開により効率的な運営に努めた。

売り上げの実績は、2年ぶりに2,000万円を下回ることとなった。この2年間続いていたコロナ禍におけるアウトドアブームが感染症制限解除に伴いピークアウトし、キャンプ人口が減少したことが大きな要因と考えられる。また、繁忙期シーズンの猛暑や11月の突然の積雪などの異常気象も利用減に拍車をかけた。コロナ禍にやや増加した学校団体による利用が例年並みに戻ったことも利用減の一因である。

1. 営業日等

●令和5年度年間開場日数：337日

※開場日数は当初予定のとおりだが、令和5年7月9日の落雷に伴う停電により半日の間予約等対応不可となった。

2. 利用促進業務

主な利用促進業務の実施内容は次のとおり。

- ・西部勤労者共済会と提携した各種割引サービスの実施。
- ・自社ホームページ及びキャンプ関連WEBサイトに、施設情報やイベント紹介記事を掲載。
- ・X、Facebook、Instagramによる施設PRや周辺自然情報など発信。
- ・県内のまちづくりセンターや道の駅にパンフレットを配架。
- ・インターネット予約システム及びオートキャンプ協会と連動した広報の実施。

3. 管理体制

繁忙期や閑散期の状況に応じて、効率的なスタッフの人員配置を行った。

通常期は臨時職員を含めて6名の体制により、利用者の応対、施設・設備の安全点検及び環境美化等に万全を期したほか、場内の除草作業には専門のスタッフ6名を配置し、景観維持に努めた。

繁忙期は3名程度の臨時アルバイトを雇用し、宿泊施設ならびに屋外共用棟の清掃・消毒、大量に排出されるゴミの処理等にあたらせ、衛生管理を徹底した。

一方、冬季閑散期には正規・臨時職員4名で対応することにより、人件費の節減を図った。

4. 施設維持管理

昭和44年に開場した当施設は、施設・設備の老朽化、経年劣化に伴う不具合が加速度的に多発している。設置者である大田市と協議を重ね修繕計画に沿った対策を講じているが、予期せぬ事態が続発するなど、修繕が追いつかない状況にあり、喫緊の課題となっている。

本年度においても多数の故障及び不具合が発生し、修繕費も対前年比約40%の増加となっている。利用者の快適で安全な利用環境の確保を第一に、1件30万円未満の修繕は指定管理者において可能な範囲で実施した。また、30万円以上の修繕については、大田市に修繕を要請している。

■修繕状況……………26件

- ・水回りの漏水修繕、エアコン等電気機器交換、豪雨被害による道路整備など

■復旧できていない主な施設・設備

- ・オートゲートシステム(出口側)……………令和元年5月に故障
- ・第1女子トイレの排水不良(4箇所)……………令和3年1月に発生
- ・第2トイレ、第3炊事棟の屋根……………令和3年4月に一部破損
- ・オートゲートシステム(入口側)……………令和5年10月に故障

5. 自主事業

(1) イベントの実施

□青空ASOBO

実施日：5月、11月の第3日曜日

参加者：58人 ※11月は積雪のため中止

内 容：デーキャンプエリアにスラックラインやハンモック、なわとび、バドミントンといったアクティビティを設置し、家族連れや成人グループによる利用が多数あった。

□SNSフォローキャンペーン

実施月：7月～9月

内 容：SNSのフォロワーの増加により情報拡散効果を高める目的で実施。期間中、キャンプ場公式SNSのいずれかをフォローしている宿泊者にオリジナルステッカーを配布した。Instagramは目標のフォロワー1,700人を達成した。

(2) 利便提供事業

キャンプ場宿泊者の利便性向上のため、食料品の販売や、キャンプ用具の貸出を行った。

6. その他の事業

(1) 大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業

SNSを活用して天候や登山情報を定期的に提供したほか、管理棟内の情報コーナーにおいて観光案内を積極的に行っている。温泉津温泉や石見銀山、三瓶小豆原埋没林など主要観光地へのルート案内、食事どころや大田市の見どころ紹介なども積極的に行った。

(2) 地域連携による観光推進活動

大田市、飯南町、美郷町の1市2町が連携する「三瓶山広域ツーリズム振興協議会」と石見地域の観光・宿泊施設等により組織される「石見ツーリズムネットワーク」に参画し、イベント「肉まつり」でのPRなど、地域一体での観光促進事業に自然館と連携して取り組んだ。

V . 利 便 提 供 事 業

1 . 物 販 事 業

(1)三瓶自然館

自然科学に関するものや三瓶山来訪の記念となる商品のほか、館のキャラクター「テンピー」のオリジナル商品など、当館らしい商品展開で販売を行った。

また、企画展開催期間にはそのテーマに合う商品を集め、展示と連動した売上げ拡大を図った。夏期企画展の期間には、鉱物に関するグッズを充実させ、目標額を達成することができた。

(2)三瓶小豆原埋没林公園

受付周辺に物販棚を設置し、埋もれ木の派生材(発掘時に出土した倒木等)を利用した独自商品や近隣の製菓店と共同開発した商品のほか、鉱物や化石、木工品など、地学や歴史に関連する商品を販売した。

(3)北の原キャンプ場

北の原キャンプ場の「キャンパーズショップ北の原」では、宿泊者の利便向上を目的に、キャンプに関連する商品と食料品を販売した。また、夏期はバーベキューなどの食材セットを販売することで、手軽にキャンプができるイメージによる施設利用の促進を図った。

また、大田市在住のデザイナーが制作したキャラクター「SANBE Genjin3(サンベゲンジン3)」のグッズを販売し好評を得た。

2 . 貸 出 事 業

北の原キャンプ場において、テントや毛布、炊事用品等のキャンプ用品の貸出を行った。用品の貸出は、ビギナーだけでなく利用者が用品を準備する負担が軽減されることによる利用拡大が期待される事業である。

キャンプ用品のほか、夏期はノルディックポールの貸出を行った。

Ⅵ. そ の 他

1. 数値目標を掲げた運営

(1) 入館者目標、収入目標の設定

各施設毎に利用者数目標又は利用料金収入目標を設定し、運営を行っている。

三瓶自然館は第四期指定管理期間の初年を迎え、これまでに培った博物館の管理運営スキルを活かし安定した施設管理を実施するとともに、企画展を中心に各事業に新しい視点も加えて積極的に事業を実施した。また、自然館のプラネタリウム投影機のリニューアルにより鮮明な投影を提供し、利用者の満足度向上となった。年間の利用者数も3年連続10万人を超える実績をあげた。

埋没林公園は、コロナの5類移行後の5月10日以降、これまで休止していた一般団体への展示解説を再開し、来園者に驚きと学びの提供を目指した。また、学校団体の利用を促進するため、教育委員会等との連携を図った。

北の原キャンプ場は、コロナ前から続いたキャンプブームが終わりをむかえ、選択肢が多様化したレジャーのなか、コロナ前の利用水準に落ち着いた。

(2) 全施設の目標値と達成状況

令和5年度 施設別月別目標達成率一覧表

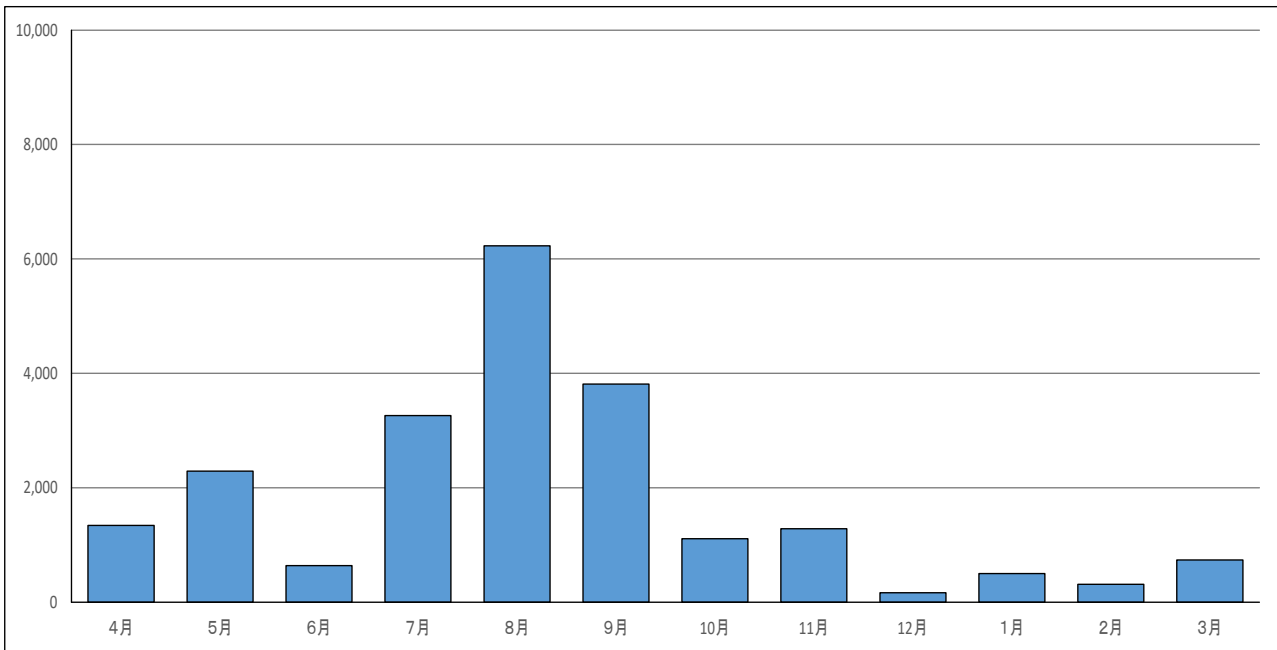
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
三瓶自然館 (天体含む) 入館者数(人)	R5目標	6,000	13,000	3,500	12,000	35,000	9,000	8,000	8,000	1,500	1,000	1,500	3,000	101,500
	R5実績	6,081	12,592	5,268	12,313	21,651	14,906	9,400	8,768	1,505	2,784	2,902	3,817	101,987
	達成率	101.4%	96.9%	150.5%	102.6%	61.9%	165.6%	117.5%	109.6%	100.3%	278.4%	193.5%	127.2%	100.5%
天体観察会 入館者数(人)	R5目標	400	500	200	400	700	500	600	500	50	50	50	50	4,000
	R5実績	152	659	224	412	904	640	607	316	40	78	58	64	4,154
	達成率	38.0%	131.8%	112.0%	103.0%	129.1%	128.0%	101.2%	63.2%	80.0%	156.0%	116.0%	128.0%	103.9%
埋没林公園 入園者数(人)	R5目標	1,300	2,200	1,200	1,300	2,500	2,000	2,000	1,900	250	200	250	900	16,000
	R5実績	1,094	2,232	1,056	1,203	2,382	1,840	1,909	1,865	243	314	347	750	15,235
	達成率	84.2%	101.5%	88.0%	92.5%	95.3%	92.0%	95.5%	98.2%	97.2%	157.0%	138.8%	83.3%	95.2%
キャンプ場 利用料金(千円)	R5目標	1,490	2,891	924	2,826	4,386	2,131	1,515	1,995	200	220	220	220	19,018
	R5実績	1,490	2,891	924	2,826	4,387	2,131	1,951	1,562	135	176	292	149	18,914
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	128.8%	78.3%	67.5%	80.0%	132.7%	67.7%	99.5%
物販・貸出 売り上げ(千円)	R5目標	1,423	2,621	895	4,158	7,221	4,630	1,650	2,100	310	295	339	558	26,200
	R5実績	1,423	2,621	895	4,158	7,221	4,630	1,550	2,165	250	350	455	742	26,460
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	93.9%	103.1%	80.6%	118.6%	134.2%	133.0%	101.0%

※キャンプ場、物販・貸出は補正予算後の目標数値を記載

(3) 収入実績

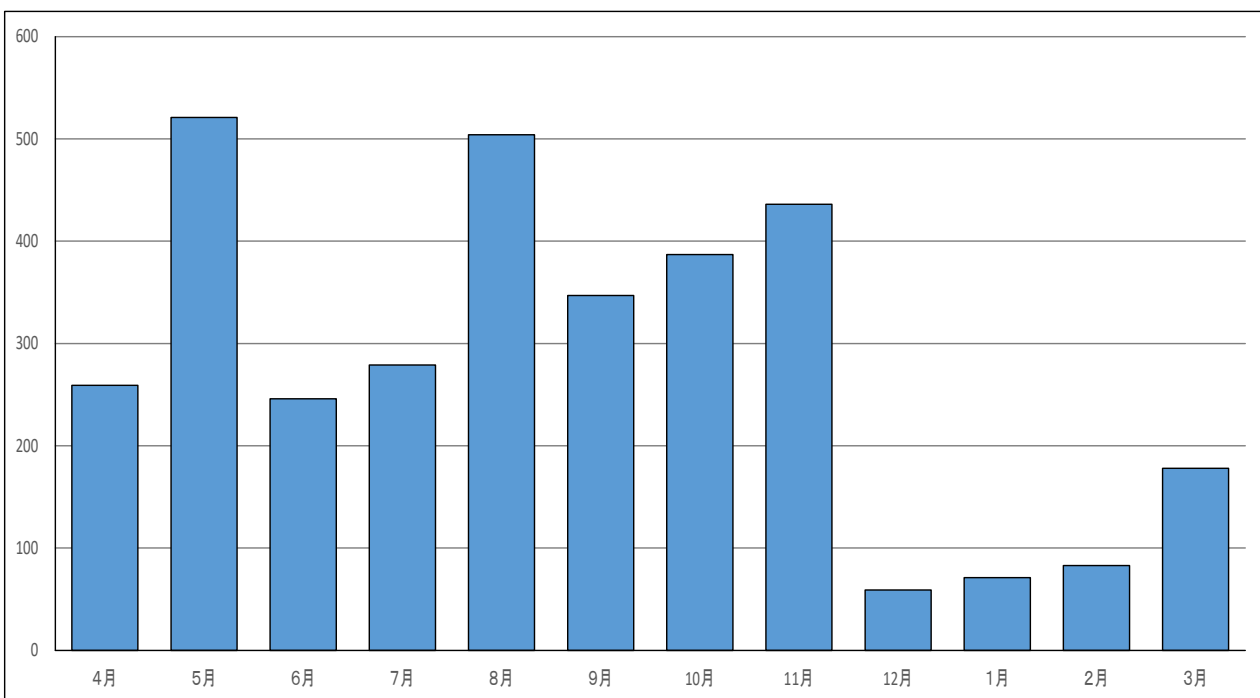
□三瓶自然館収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,343	2,291	641	3,263	6,231	3,814	1,109	1,284	165	498	313	737	21,689



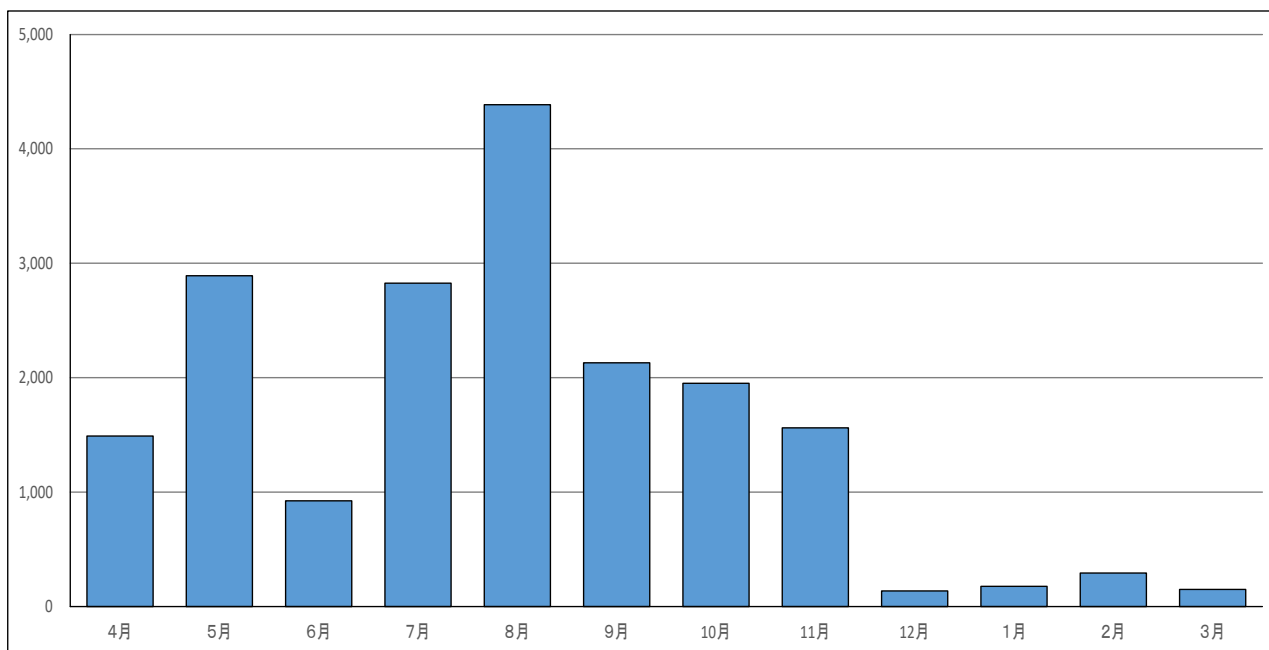
□埋没林公園収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	259	521	246	279	504	347	387	436	59	71	83	178	3,370



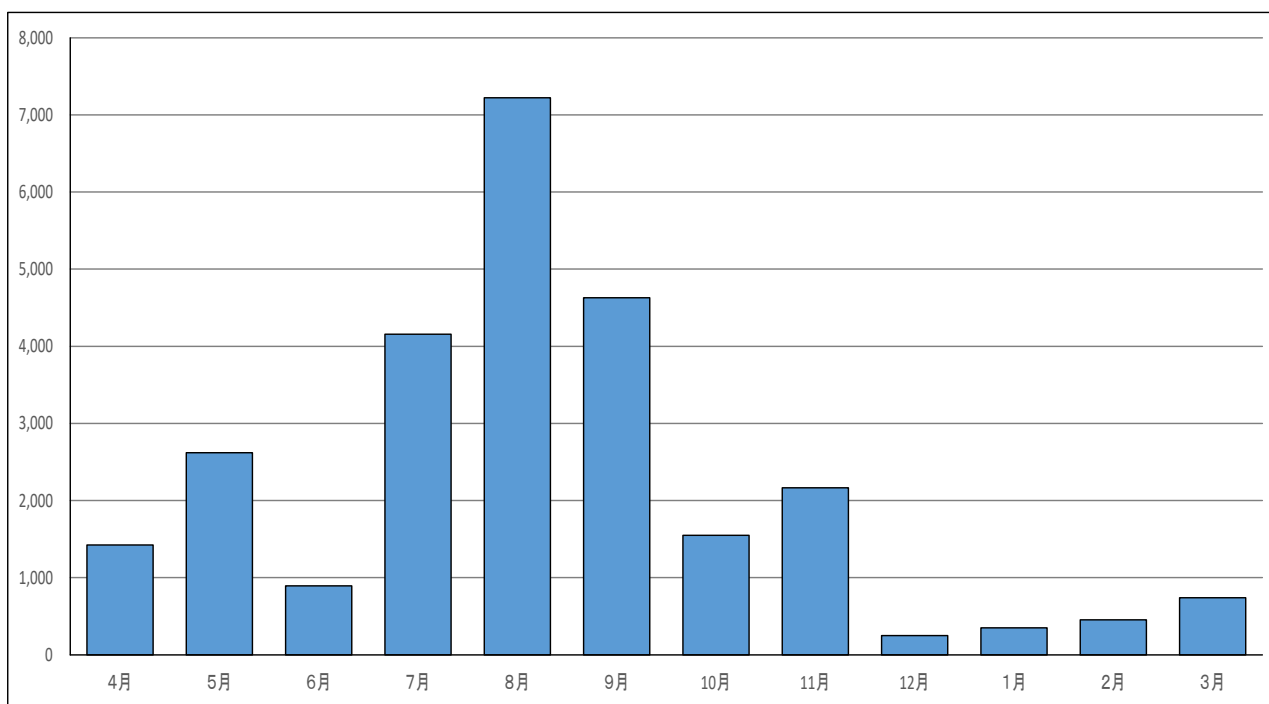
□北の原キャンプ場収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,490	2,891	924	2,826	4,387	2,131	1,951	1,562	135	176	292	149	18,914



□利便提供事業収入状況

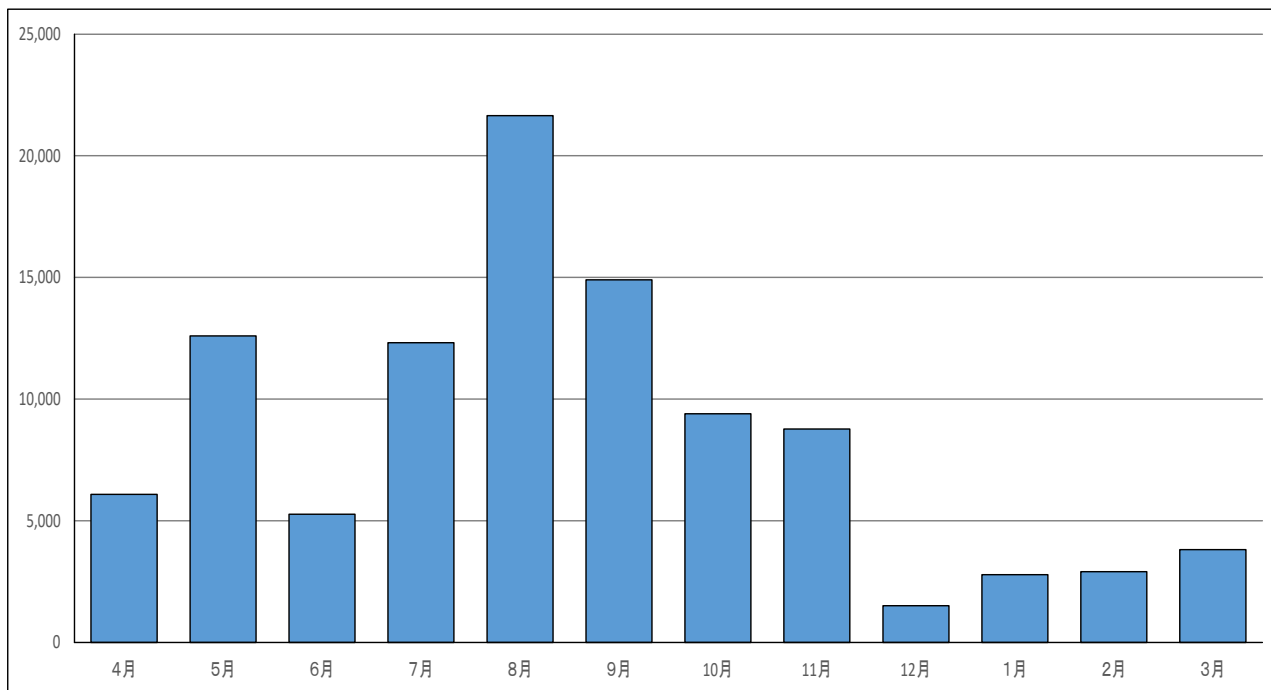
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,423	2,621	895	4,158	7,221	4,630	1,550	2,165	250	350	455	742	26,460



(4) 利用者数

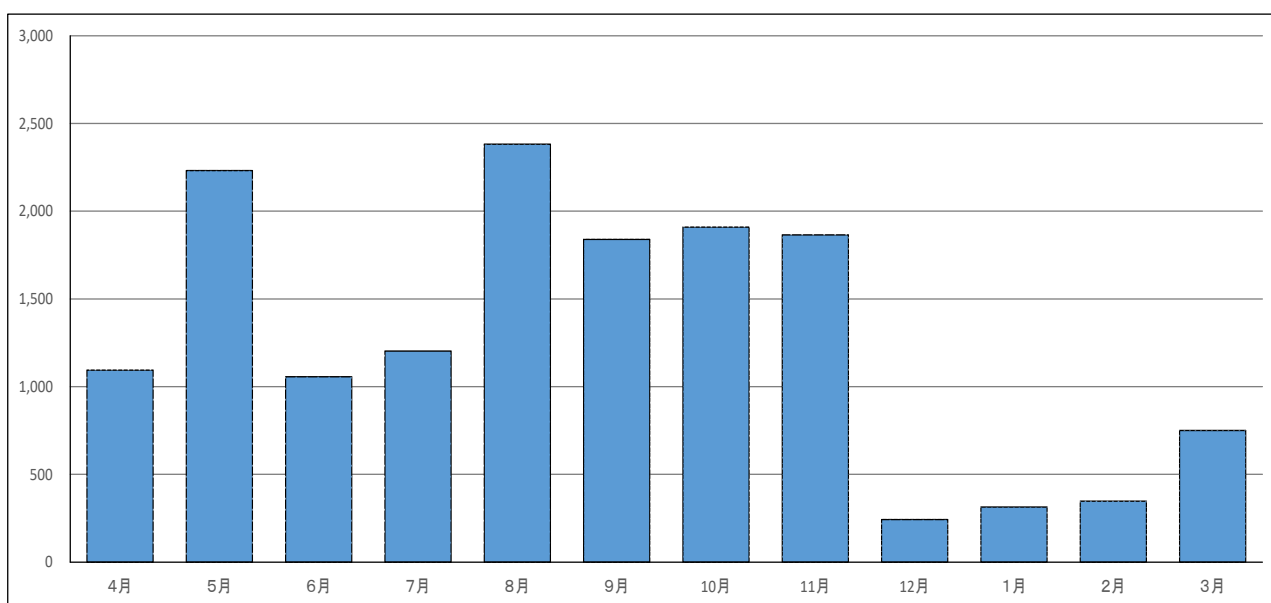
□ 三瓶自然館利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	6,081	12,592	5,268	12,313	21,651	14,906	9,400	8,768	1,505	2,784	2,902	3,817	101,987



□ 埋没林公園利用状況

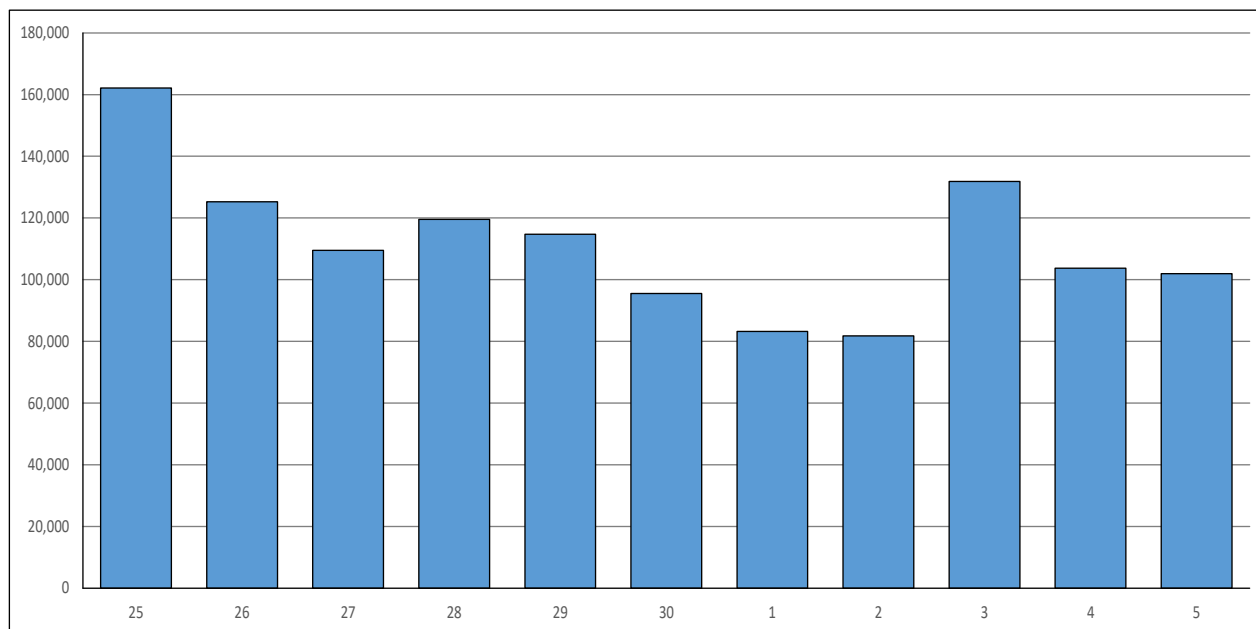
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	1,094	2,232	1,056	1,203	2,382	1,840	1,909	1,865	243	314	347	750	15,235



2. 利用者数の推移

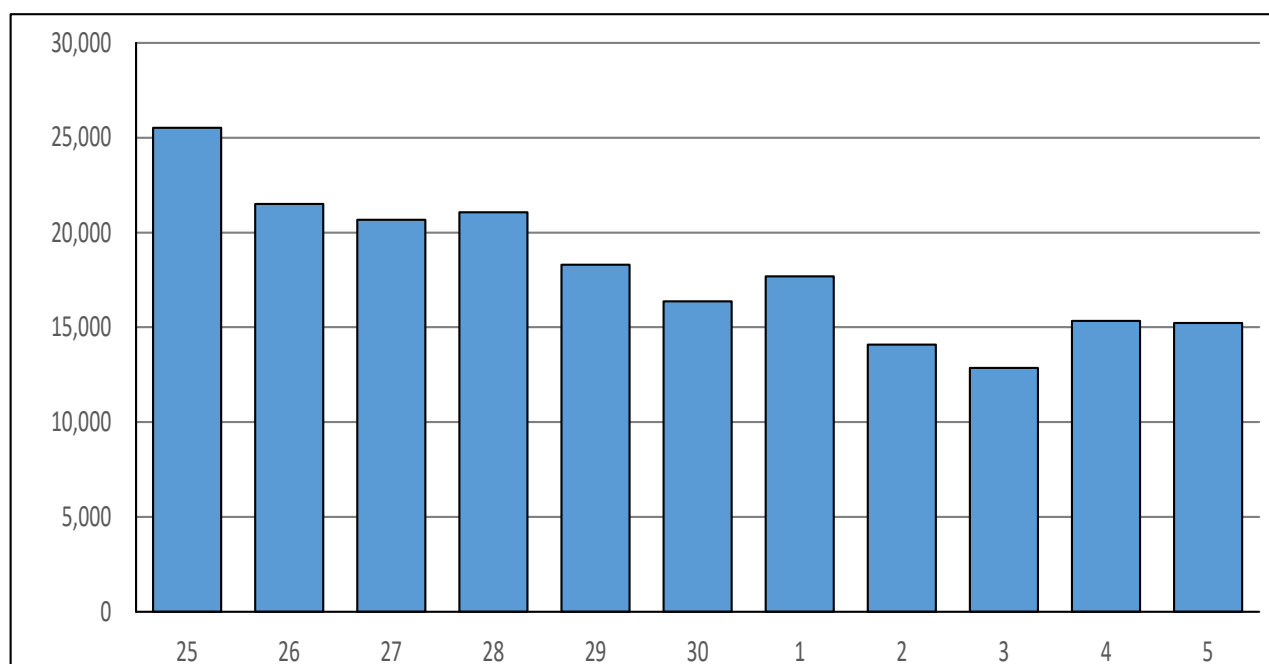
□三瓶自然館

年度	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5
総入館者(人)	162,099	125,225	109,478	119,571	114,717	95,520	83,203	81,739	131,822	103,722	101,987



□三瓶小豆原埋没林公園

年度	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5
総入館者(人)	25,527	21,505	20,681	21,075	18,292	16,366	17,694	14,082	12,851	15,339	15,235



3. 資料

□テーマ解説実施状況(Ⅱ-(1)常設展示(p. 6)関係)

月	日	団 体 名	人数
5	24	北陵こども園	35
7	27	大田わんぱく児童クラブ	33
8	17	広島県立広島国泰寺高校	22
	25	津和野町左燈公民館	13
10	6	江津市立江津東小学校	38
	20	あけぼのこども園	60
	23	大田市立志学小学校	5
	27	江津市立川波小学校	37
11	16	大田市立北三瓶中学校	9
	24	大田市立長久小学校	38
合 計		10件	290

□団体向け天体観察会実施状況(Ⅱ-(6)団体向け天体観察会(p. 17)関係)

月	日	団 体 名	人数
5	11	出雲市立西野小学校	117
	18	美郷町立大和中学校	16
	25	出雲市立神西小学校	41
	31	出雲市立長浜小学校	56
6	21	出雲市立灘分小学校	30
7	12	庄原市立高小学校	17
	23	温泉津小学校5年生親子活動	45
	27	府中市立上下北小学校	21
	28	大田市山村留学センター	27
	30	個人グループ	8
8	2	東城いきいき体験学習	52
	3	広島女学院中学高等学校	26
	6	邑智郡ことばを育てる親の会	50
		広島城北中学校	12
	17	広島国泰寺高校	84
	18	己斐地区子供会	27
	23	庄原市立東小学校	26
		庄原市立総領小学校	18
	24	たちばな保育園	41
9	30	庄原市立永末小学校	30
	6	庄原市立峰田小学校	16
	7	志々公民館	25
		浜田市立三隅中学校	46
	13	島根県立大田高等学校理数科	39
	21	安芸高田市立向原小学校	25
10	24	大森天文部	31
	4	大田市立北三瓶小学校	10
	5	大田市連合小学校一班	60

	13	邑智小学校6年生親子活動	48
	18	飯南町小学校連合	36
	19	大田市第二班四校連合	49
	25	大田市立大田小学校	71
		まなびキャンパスひろしま	35
11	1	浜田市立第三中学校	82
	12	島根天文協会	7
	15	なぎさ公園小学校	79
	16	浜田市立第四中学校	15
1	14	たびまちゲート広島(1)	31
	21	たびまちゲート広島(2)	36
2	4	大森天文部	21
合 計		40件	1,506

□ 予約自然観察会実施状況(Ⅱ-(7) 予約自然観察会(p. 17)関係)

月	日	団 体 名	人数
4	24	大田市立北三瓶小学校	4
5	24	大田市立大田小学校	25
	25	大田市立大田小学校	25
	26	浜田市立雲雀丘小学校	20
	31	大田市立大田小学校	25
6	2	出雲市立高浜小学校	35
		大田市立朝波小学校	41
	3	飯南町立頓原小学校学年活動	27
	16	邑南町立阿須那小学校	19
	22	安田小学校	12
	23	安田小学校	5
7	26	久手なかよしキッズクラブ	34
8	2	武庫川女子大学附属中学校	36
	3	広島女学院中学校高校生物部	24
	17	広島県立広島国泰寺高校	22
	18	広島県立広島国泰寺高校	83
	21	出雲すみれ学童	19
9	1	庄原市立永末小学校	30
	6	大田市立静間小学校	16
	7	島根県立浜田養護学校高等部	8
	8	三次市立栗屋小学校	30
	13	大田市立静間小学校	18
	15	大田市職員退職者会	13
		大田市立鳥井小学校	20
	22	大田市立鳥井小学校	10
		江津市立桜江小学校	35
10	2	大田市立朝波小学校	16
	4	大田市立五十猛小学校	19
	6	江津市立江津東小学校	38
	11	大田市立仁摩小学校	35

	12	川本町立川本小学校	25
	13	大田市立長久小学校	49
		美郷町立邑智小学校	41
		大田市立五十猛小学校	49
	16	大田市立長久小学校	31
	25	大田市立北三瓶小学校	4
	26	大田市立川合小学校	26
11	1	大田市立五十猛小学校	14
	2	出雲養護学校みらい分教室小学部	4
		出雲養護学校みらい分教室中学部	3
		浜田市立三階小学校	34
	6	大田市立大田小学校	35
	8	大田市立仁摩小学校	25
	9	大田市立大田小学校	36
	17	なぎさ公園小学校	78
		大田市立仁摩小学校	23
		三次市立布野小学校	30
	20	大田市立久手小学校	24
2	7	神石インターナショナルスクール	5
	17	志々公民館	38
3	28	須佐小児童クラブ	34
合 計		51件	1,352

□ 講師派遣実施状況（Ⅱ－(8)講師派遣（p. 17）関係）

月	日	団 体 名	場 所	内 容	講師	人数
4	5	雲南市立西小学校教員	雲南市立西小学校	コウノトリに関する学習	星野	12
	17	雲南市立西小学校4年生	雲南市立西小学校	コウノトリに関する学習	星野	25
		キリスト教愛真高等学校	キリスト教愛真高等学校	植物の自然観察	安藤 松原	11
	20	雲南市立西小学校3年生	雲南市立西小学校	コウノトリに関する学習	星野	16
	27	雲南市立西小学校5年生	雲南市立西小学校	コウノトリに関する学習	星野	24
5	11	大田市立北三瓶中学校	三瓶山姫逃池	姫逃池のカキツバタについての講話	井上	12
	12	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	地域人講話	中村	60
	14	津和野中央公民館	津和野町 千倉沼	チョウジソウ観察会での講話	井上	50
	15	仁万まちづくりセンター	仁万まちづくりセンター	仁万の地形の成り立ちについての講話	中村	10
	17	大田市立仁摩小学校	大田市立仁摩小学校	3年「自然のかくし絵」4年「ヤドカリとイソギンチャク」	皆木	46
	26	雲南市立西小学校1・2年生	雲南市立西小学校	コウノトリに関する学習	星野	35
	31	雲南市立西こども園	雲南市立西こども園	コウノトリに関するお話	星野	8
6	1	大田市立高山小学校	大田市立高山小学校	ミヤコアオイなどの学習	井上	35
	14	大田市立久手小学校	大田市立久手小学校	地域探求学習	中村	35
	21	ろうきん友の会大田支部	ろうきん大田支部	石見銀山について	中村	30
		出雲市立四絡小学校	出雲市立四絡小学校	樹木の学習	井上	30
	24	教職員退職互助大田地区会	大田市民センター	三瓶山の講話	中村	20

	28	大田市立志学小学校通学合宿	志学まちづくりセンター	天体観察会(室内)	太田	8
	29	美郷町立呂智中学校	美郷町立呂智中学校	ふるさと学習「美郷町の自然と環境」	星野	40
	30	大田市立第二中学校	大田市立第二中学校	接遇研修	小田佐	75
7	7	大田市立仁摩小学校	大田市立仁摩小学校	潮川の水位変化について	矢田	23
		大田市立久手小学校	大田市立久手小学校	地域探求学習	中村	36
	15-16	島根県	国立三瓶青少年交流の家	ネイチャ・フィーリング研修会	星野	32
	21	一般社団法人島根県造園協会	島根県ふるさと森林公園	樹木の学習	井上	7
	27	飯南町立図書館	来島拠点複合施設	野生動物についての講演	安藤 石田操	50
	29	島根大学生物資源科学部	国立三瓶青少年交流の家	昆虫類の同定指導	皆木	19
8	5	島根大学市民講座	島根大学	石見銀山について	中村	25
		浜田市	三浦正昆虫館	三隅の昆虫調べ	皆木	13
		出雲国ジオガイドの会	伊波野コミュニティセンター	島根半島・宍道湖中海ジオパークの植物	井上	20
	19	美保関地域青少年育成連絡協議会	みどり山・松江市美保関支所	コウモリについて	安藤	20
	20	静間まちづくりセンター	静間まちづくりセンター	静間川の土木工事について	中村	35
	24	久喜銀山ガイドの会	邑南町久喜	久喜銀山について	中村	20
9	3	大田市日本遺産推進協議会	大田市民センター	日本遺産の案内人の養成を目的とした講座	中村	9
	5	島根県立横田高等学校	島根県立横田高等学校	横田で育まれた自然と人との関わり	井上	15
	6	大田市学校教育研究会生活科部	島根県立三瓶自然館	生き物や植物について	井上 皆木	20
	28	大田市日本遺産推進協議会	大田市役所	展示関連施設のスタッフを対象とした講座	中村	8
10	6	浜遊の森の自然を守る会	浜遊自然館	秋の星座観察会での講話	竹内	6
	11	朝山地区社会福祉協議会	朝山まちづくりセンター	星についての講話	竹内	16
	13	島根大学	島根大学	地域博物館へのいざない	中村	220
	16	大田市	大田市役所	日本遺産に関する講話	中村	16
		益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会	七尾城跡	草花に関する指導	井上	10
11	4	島根県立少年自然の家	島根県立少年自然の家	森の豊かさの話と体験活動	星野	24
	8	大田市立北三瓶中学校	大田市立北三瓶中学校	火砕流や防災について	今井	2
		島根県立大田高等学校	国立三瓶青少年交流の家	地域の魅力探求学習	中村	18
	9	湯里まちづくりセンター	三瓶周辺	三瓶山研修の案内	中村	15
	11	島根わくわくサイエンスクラブ	松江城椿谷公園	タネのヒミツを探る自然観察	井上	33
	15	石見銀山ガイドの会	大田まちづくりセンター	石見銀山の植物について	井上	30
	19	大屋町文化祭	大田市大屋町	大屋町の歴史等についての対談	中村	40
	26	鳥井町歴史勉強会	鳥井まちづくりセンター	鳥井町に関わる歴史と地形について	中村	15
		しまね子育てネットワーク	国立三瓶青少年交流の家	野外での散策と自然体験	井上	29

	27	大田市立仁摩小学校	静間川流域	流れる水の働き学習のまとめについて	今井	21
12	9	大田市日本遺産推進協議会	あすてらす	日本遺産についての話	中村	70
	14	あけぼのこども園	あけぼのこども園	石に関するフィールドワーク	今井	27
	16	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	鉱物の実験と天体観察	矢田	55
	18	あけぼのこども園	あけぼのこども園	石に関する講話	今井	27
	19	島根県立横田高等学校	島根県立横田高等学校	学習成果発表会のアドバイザー	井上	55
1	12	雲南市立認定こども園西こども園	雲南市立西こども園	コウノトリに関する講話	星野	9
	16	国立青少年教育振興機構	国立三瓶青少年交流の家	自然観察について	井上	24
	17	出雲市立四絡小学校	出雲市立四絡小学校	樹木の学習	井上	32
	19	あけぼのこども園	あけぼのこども園	石に関する講話	今井	27
	26	大田市立久手小学校	大田市立久手小学校	小学校4年生理科 天体学習	矢田	28
2	2-5	日本自然保護協会	鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター	自然観察指導員講習会	星野	45
	2	大田市立第一中学校	大田市立第一中学校	火山の学習	今井	132
	11	益田市立歴史文化交流館	益田市立歴史文化交流館	石見の鉱山郡と都茂鉱山	中村	40
	17	あけぼのこども園	あけぼのこども園	石に関する発表会	今井	64
	25	出雲市	朱鷺会館	トキまちづくりシンポジウム	星野	120
	29	大田市立第一中学校	大田市立第一中学校	地層の学習	今井	132
3	20	川本町自然大好きネットワーク	川本町谷戸イズモコバイモ自生地	イズモコバイモについて	井上	35
	23	自然と趣味に生きる会	吉賀町	ヒメバイカモ観察会	井上	30
	28	雲南市	雲南市大東地域交流センター	コウノトリの営巣に関する研修	星野	15
合 計					70件	2,396

□ホームページ「自然情報」執筆状況(Ⅱ-(11)WEBサイト・SNS(p.25)関係)

月	日	担当	テーマ	月	日	担当	テーマ
4	2	星野	カシラダカ	10	8	星野	ヒガラ
	9	太田	水星		15	太田	10/29の部分月食
	16	皆木	ハラアカコブカミキリ		22	皆木	エンマコオロギ
	23	今井	最も身近な化石②生痕化石		29	今井	コガネムシの幼虫の穴掘り
	30	安藤	マダニに注意	11	5	安藤	夜道は野生動物にご用心 イノシシ
5	7	矢田	おとめ座の楕円銀河 M87		12	矢田	衝をむかえた木星
	14	松村	タニウツギ		19	松村	ガマズミ
	21	井上	ブタナ		26	井上	オニグルミの実
	28	竹内	M101銀河の超新星		3	竹内	すばるのさだめ
6	4	星野	シジュウカラ幼鳥の群	12	10	星野	冬の潜水するカモ3種
	18	皆木	ゴホントゲザトウムシ		17	太田	冬至
	25	今井	アメシストドームと方解石		24	皆木	ウスズミカレハ
7	2	安藤	糞をつついてみよう！		31	今井	ムラサキヤドリエビ
	9	矢田	金星が最大光度	1	7	安藤	土竜
	16	松村	オオマツヨイグサ		14	矢田	ガーネットスター

	23	井上	コマツナギ		21	松村	フキノトウ
	30	竹内	太陽黒点		28	井上	ヒガンバナ
8	6	星野	この鳥だあれ ヒヨドリ幼鳥	2	4	竹内	冬の“&(アンパサンド)”
	13	太田	夏休みに流れ星を見よう ペルセウス座流星群		11	星野	ふくらスズメ
	20	皆木	ニホンキマワリ		18	太田	源氏星・平家星
	27	今井	ざくろ石		25	皆木	オオトビサシガメ
9	3	安藤	旬の味覚	3	3	今井	エビの尻尾
	10	矢田	中秋の名月		10	安藤	春よ来い コウモリの冬眠
	17	松村	ゲンノショウコ		16	竹内	見え始めたポン・ブルックス彗星
	24	井上	カエデのタネ		17	矢田	かに座の二重星 イオタ星
10	1	竹内	土星とフォーマルハウト		24	松村	オキナグサの芽吹き
					31	井上	アセビの花

□新聞寄稿状況(Ⅱ-(11)新聞への寄稿(p.25)関係)

月	日	掲 載 紙	タ イ ト ル	執 筆 者
4	2	山陰中央新報	月の大きさ	竹 内 幹 蔵
	5	島根日日新聞	砂浜で見つけた外来カタツムリ	今 井 悟
	15	読賣新聞	北の空 撮影してみた	矢 田 猛 士
	16	山陰中央新報	春のダイヤモンド	竹 内 幹 蔵
	19	島根日日新聞	星座絵投影機	太 田 哲 朗
	30	山陰中央新報	金星が見ごろ	竹 内 幹 蔵
5	3	島根日日新聞	クモバエ	安 藤 誠 也
	13	読賣新聞	春に合唱 ハルゼミ	皆 木 宏 明
	14	山陰中央新報	大きな星座	竹 内 幹 蔵
	17	島根日日新聞	キジバトがやって来た	星 野 由 美 子
	28	山陰中央新報	目を引くクレーター	竹 内 幹 蔵
	31	島根日日新聞	三瓶山麓の黄色いお花畑	井 上 雅 仁
6	10	読賣新聞	巣穴化石・オフィオモルファ	今 井 悟
	11	山陰中央新報	かんむり座	竹 内 幹 蔵
	14	島根日日新聞	金星と月の接近	矢 田 猛 士
	25	山陰中央新報	低い満月	竹 内 幹 蔵
	28	島根日日新聞	オトシブミの揺籠	皆 木 宏 明
7	9	山陰中央新報	へびつかい座とヘルクレス座	竹 内 幹 蔵
	12	島根日日新聞	満ち欠けをする金星	太 田 哲 朗
	15	読賣新聞	出張と夜のコウモリ観察	安 藤 誠 也
	23	山陰中央新報	大型望遠鏡	竹 内 幹 蔵
	26	島根日日新聞	オオアカゲラがやってきた!	星 野 由 美 子
8	6	山陰中央新報	ペルセウス座流星群を見よう	竹 内 幹 蔵
	9	島根日日新聞	オオアオイトトンボ	皆 木 宏 明
	20	山陰中央新報	伝統的七夕	竹 内 幹 蔵
	23	島根日日新聞	今年、最も大きく見える満月	矢 田 猛 士
	26	読賣新聞	生物がつくる硬い無機物	今 井 悟
9	3	山陰中央新報	カシオペア座と北斗七星	竹 内 幹 蔵
	6	島根日日新聞	ススキ原の歴史	井 上 雅 仁

	9	読賣新聞	雷雲の上に伸びる稲光	矢 田 猛 士
	17	山陰中央新報	月の形を観察しよう	竹 内 幹 蔵
	20	島根日日新聞	オンブバッタ	皆 木 宏 明
10	1	山陰中央新報	土星とその衛星	竹 内 幹 蔵
	4	島根日日新聞	日食と月食	太 田 哲 朗
	14	読賣新聞	旅鳥「ノビタキ」	星 野 由 美 子
	15	山陰中央新報	プラネタリウム100周年	竹 内 幹 蔵
	18	島根日日新聞	標本を返しに ～企画展のその後～	今 井 悟
	29	山陰中央新報	木星と月	竹 内 幹 蔵
11	1	島根日日新聞	ペルセウス座の二重星団	矢 田 猛 士
	11	読賣新聞	アンドロメダ銀河	太 田 哲 朗
	12	山陰中央新報	くじら座	竹 内 幹 蔵
	15	島根日日新聞	亜熱帯のフルーツバット	安 藤 誠 也
	29	島根日日新聞	マツヘリカメムシ	皆 木 宏 明
	26	山陰中央新報	朝の月	竹 内 幹 蔵
12	9	読賣新聞	シダの仲間 ミズスギ	井 上 雅 仁
	10	山陰中央新報	ふたご座流星群を見よう	竹 内 幹 蔵
	13	島根日日新聞	鳥のくちばし	星 野 由 美 子
	24	山陰中央新報	夜空の奥行き	竹 内 幹 蔵
	26	島根日日新聞	葉になる化石 竜骨	今 井 悟
1	7	山陰中央新報	アルデバラン	竹 内 幹 蔵
	10	島根日日新聞	360度カメラで星空撮影	矢 田 猛 士
	13	読賣新聞	ツーチンシャン・アトラス彗星	太 田 哲 朗
	21	山陰中央新報	星座を渡る月	竹 内 幹 蔵
	24	島根日日新聞	白鼻芯が現れた！	安 藤 誠 也
2	4	山陰中央新報	いろいろな星の色	竹 内 幹 蔵
	7	島根日日新聞	学会に参加してきました	今 井 悟
	18	山陰中央新報	神酒の海	竹 内 幹 蔵
	21	島根日日新聞	竜の名をもつ、日本一の植物名	井 上 雅 仁
3	3	山陰中央新報	星をたくさん見るこつ	竹 内 幹 蔵
	6	島根日日新聞	鳥の歯はいずこへ？	今 井 悟
	16	読賣新聞	タテジマカミキリ	皆 木 宏 明
	17	山陰中央新報	彗星を見よう	竹 内 幹 蔵
	20	島根日日新聞	春分の日は昼と夜の長さは同じに？	太 田 哲 朗
	31	山陰中央新報	「星を見る」の先へ	竹 内 幹 蔵

4. 新型コロナウイルス感染症への対応等

対応状況

5月より新型コロナウイルス(covid-19)感染症が5類感染症に移行されたことを踏まえ、状況に合わせて対応を変更しながら運営を行った

◆令和5年度

①感染症対応での臨時休業等なし

②対応状況一覧

項 目		対応状況
共通	利用者へのお願い	<ul style="list-style-type: none"> ・入館時の検温→希望者が検温できるよう検温器は継続して設置 ・手指消毒 →希望者が使用できるよう継続して設置
	職員の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒、換気 →5類移行後に中止。事務室のみ換気を継続。 ・マスク着用 →職員へのマスク支給は継続。接遇対応者には着用推奨。 ・受付パーティション→R6年3月のメンテナンス明けより撤去
三瓶自然館	展示	・本館1階ボールプール展示→秋のメンテナンス休館明けから再開
	ビジュアルドーム	・通常どおり上映→上映回数、入場数制限なし
	天体観望会	・感染対策による入場制限なし
	自然観望会	・計画通り実施
イベント		・計画通り実施
埋没林公園		<ul style="list-style-type: none"> ・展示案内を5類移行後に再開 ・受付パーティションは継続して設置
キャンプ場		<ul style="list-style-type: none"> ・受付パーティションは継続して設置 ・希望者が使用できるよう手指消毒は継続して設置
松江事務所		<ul style="list-style-type: none"> ・対面相談：通常どおり実施 ・窓口業務：通常どおり実施 ・主催イベント：Zoom等も利用し通常どおり実施

5. 職員の研修等への参加

職員の資質向上、施設の管理運営にあたって必要となる知識の取得等を目的に、外部が主催する研修会に職員を派遣した。（詳細は下図参照）

□ 研修会等への参加

月	日	名 称	場 所	参加者
6	22	公益法人・一般法人会計セミナー「入門編」	広島市	古川
7	7	安全運転管理者講習	大田市民会館	石田 浩
9	6	令和5年度島根県メンタルヘルスケア研修会	出雲市民会館	米浦・太田 ・竹下
9	15	条例規則の読み方・作り方講座	浜田教育センター	山本
9	21	健康経営セミナー	オンライン（協会けんぽ）	米浦
11	1	人材育成支援コース若手を知って育てる実践講座	浜田教育センター	小田佐
11	22	改正障がい者差別解消法に係る事業者説明会	オンライン（内閣府）	米浦
12	29	石見観光振興協議会観光データ読み方勉強会	浜田合同庁舎	佐藤
12	21	島根県自治研修所インバスケッ講座（案件処理実践）	浜田教育センター	佐藤
2	19-21	全国プラネタリウム研修会2023・渋谷	コスモプラネタリウム渋谷	大谷
2	28	令和5年度健康保健委員セミナー	県民会館	米浦
3	12	観光分野のSNS発信とデジタルマーケティング第1回講座	サンラポーむらくも	竹下

6. 評議員会・理事会等

(1) 評議員会

① 第17回評議員会（令和5年度定時評議員会）

- ・ 開 催 日：令和5年6月22日（木）
- ・ 開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・ 出 席 数：評議員6名、監事2名
- ・ 議 題：報告事項 事業概況について
 - 第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告の件
 - 第2号議案 任期満了に伴う理事及び監事選任の件
 - 第3号議案 任期満了に伴う評議員選任の件
- ・ 結 果：各号とも原案どおり承認

(2) 理事会

① 第32回理事会（令和5年度第1回定時理事会）

- ・ 開 催 日：令和5年5月25日（木）
- ・ 開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・ 出 席 数：理事5名、監事2名
- ・ 議 題：報告事項1 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - 報告事項2 個人情報保護規程改正について
 - 第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告の件
 - 第2号議案 第17回評議員会招集の件
 - 第3号議案 任期満了に伴う三瓶自然館運営委員改選の件
- ・ 結 果：各号とも原案どおり承認

②第33回理事会(臨時理事会)

- ・開催日：令和5年6月22日(木)
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・出席数：理事5名、監事2名
- ・議題：第1号議案 役員改選に伴う理事長及び常務理事選定の件
- ・結果：原案どおり承認

③第34回理事会(令和5年度第2回定時理事会)

- ・開催日：令和6年3月21日(木)
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・出席数：理事5名、監事2名
- ・議題：報告事項 理事長及び常務理事の職務執行状況
第1号議案 令和5年度予算補正の件
第2号議案 職員給与規程改正の件
第3号議案 令和6年度事業計画及び予算の件
- ・結果：各号とも原案どおり承認

(3)三瓶自然館運営委員会

本委員会は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設を運営するにあたり、島根県の自然系博物館としてのあり方や、広く県民に親しまれ利用される方策について協議するための、外部委員による会である。

①第13回運営委員会

- ・開催日：令和5年11月15日(水)
- ・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
- ・出席数：運営委員 5名
- ・概要：事業の実施状況や入館者数の推移など、報告事項を踏まえた意見交換が行われた。

7. 沿 革

昭和63年度	「三瓶フィールドミュージアム構想」が、先導事業開発構想推進会議で「リフレッシュリゾートしまね構想事業」として決定。同じく、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」として決定。
平成元年度	「三瓶フィールドミュージアム整備事業」開始。 三瓶自然館(以下「自然館」)中心とする三瓶フィールドミュージアムの基本・実施設計の作成。
平成2年度	自然館及び附属施設、着工。
平成3年度	財団法人三瓶フィールドミュージアム財団設立(7月1日、以下「財団」)。 自然館完成、全国育樹祭にともない皇太子殿下御来館。 自然館オープン(10月19日)。
平成4年度	財団、新たに「三瓶山北の原キャンプ場(以下「キャンプ場」)」の管理運営を受託。
平成5年度	三瓶フィールドミュージアム整備終了。 三瓶フィールドミュージアムが「三瓶山自然体験ゾーン」として島根県の長期計画(1994～2010年)の戦略プロジェクトに位置づけられる。
平成7年度	島根県、「三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会」を設置。
平成8年度	三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会、自然館の機能強化を求める報告書を提出。 キャンプ場、過去最高の年間5万4千人の利用者を記録。
平成9年度	自然館名誉館長として俳優の柳生博氏を起用、委嘱(平成15年度まで)。 常陸宮殿下、妃殿下御来館。
平成10年度	三瓶町多根小豆原で、約3,500年前に埋没したスギ林の存在を確認。調査方法及び保存方法の検討を開始。
平成11年度	島根県、「三瓶埋没林調査保存検討委員会」を設置。あわせて埋没スギの自然館での展示を検討。
平成12年度	三瓶山自然体験ゾーン拡充整備事業、整備着工。 キャンプ場新管理棟(セントラルロッジ)、完成。 三瓶埋没林調査保存検討委員会、埋没林の保存を求める報告書を提出。
平成13年度	島根県知事、小豆原埋没林の保存方針を発表。 自然館拡充工事開始。工事進捗にともない11月末をもって自然館閉館。
平成14年度	自然館拡充工事完了。「三瓶自然館サヒメル」として再オープン(4月18日)。 自然館、通算100万人の来館者を達成。 秋篠宮殿下、妃殿下御来館。 小豆原埋没林現地の公園化整備開始。 自然館、過去最高の年間22万人の来館者を記録。
平成15年度	キャンプ場へ利用料金制導入。 新たに「三瓶小豆原埋没林公園」の管理運営を受託。 「三瓶小豆原埋没林公園(以下「埋没林公園」)」オープン(5月2日)。 自然館、日本博物館協会に加盟。
平成16年度	「三瓶小豆原埋没林」国の天然記念物指定(2月27日)。 新たに「ふれあいの里奥出雲公園(以下「ふれあいの里」)」の管理運営を受託。 埋没林公園来園者10万人達成。
平成17年度	指定管理者制度が導入され、財団が自然館及び附属施設の指定管理者となる(平成17年度～平成21年度)。
平成18年度	7月豪雨によりふれあいの里が被災し、臨時休園となる。 自然館開館15周年(10月19日)。
平成19年度	高円宮妃殿下、自然館及びふれあいの里御来訪(4月30日)。
平成20年度	旧島根ふれあい環境財団21の事業及び財産を継承(4月1日)。 松江事務所開設。環境保全活動への助成、地球温暖化を含む環境問題の啓発等の事業を開始(4月1日)。 埋没林公園入園者30万人達成(4月12日)。 法人名称を「財団法人しまね自然と環境財団」に改称(7月1日)。 高円宮妃殿下御来館(1月22日)。
平成21年度	自然館、通算200万人の来館者を達成(7月12日)。 ふれあいの里、営業終了(12月。3月をもって正式閉鎖)。 自然館、プラネタリウム設備更新のためビジュアルドームの運営を休止(12月～3月)。3月末から新型プラネタリウムの運営開始。 キャンプ場、大田市へ移譲譲渡(3月)。
平成22年度	島根県から2期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける。また、大田市施設となったキャンプ場の指定管理者として、大田市から指名を受ける(いずれも平成22年度～平成26年度)。

平成23年度	財団、公益財団法人へ移行(4月1日)。これに伴い法人名称を「公益財団法人しまね自然と環境財団」に改称。 自然館、開館20周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。 財団、自然館運営の検討機関として「三瓶自然館運営委員会」を設置(8月1日)。 平成24年度 神々の国しまねプロジェクトへの協力として、三瓶自然館の小中高校生入館料を無料化(平成26年9月まで)。 ”三瓶山”国立公園指定50周年記念事業実行委員会(会長:大田市長)が設置され、財団が事務局を務め、一年を通じて関連イベントを開催。
平成25年度	埋没林公園、開園10周年。記念式典(4月27日)ほか、関連イベントを一年を通じて開催。 特別企画展「さんべ恐竜王国(7月13日～9月29日)」を開催。現在の企画展期間(2ヶ月半)としては過去最高となる99,203人の来館者を達成。 財団研究員が隠岐で巨大ワニの化石を発見。
平成26年度	大田市からキャンプ場指定管理者として指名を受ける(平成27年度～平成31年度)。 島根県から3期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける(平成27年度～平成34年度(令和4年度))。
平成27年度	自然館、大型ドーム映画設備更新のため、ビジュアルドームの運営を休止(2月～3月)。3月末から新映画設備の運営開始。
平成28年度	自然館、大型ドーム映画リニューアル式典(4月21日)。 自然館、開館25周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。 自然館、入館者累計300万人を達成(11月5日)。
平成29年度	第71回全国植樹祭(令和2年)が三瓶山北の原で開催されることが決定(11月15日、島根県・(公社)国土緑化推進機構)。
平成30年度	4月9日未明、大田市を震源とする島根県西部地震(M6.1、震度5強)が発生し、自然館、キャンプ場施設で多数の被害があった。自然館では開設以来初めて、災害による臨時休館(4月9日)をし、復旧にあたった。 大田市からキャンプ場の次期指定管理者として更新指名を受ける(令和2年度～令和6年度)。
令和元年度	自然館、ビジターセンター機能強化工事(7月～3月)。 自然館、展示改修工事のため休館(11月～3月)。 埋没林公園、ガイダンス棟建設工事(10月～3月)。
令和2年度	北の原多目的広場で当年5月に開催が予定されていた第71回全国植樹祭が、新型コロナウイルスの全国的な流行により、1年延期が決定(4月1日)。 県内での新型コロナウイルス感染症患者発生確認に伴い、県・市からの要請を受け、自然館・埋没林公園、キャンプ場とも5月末まで休業。6月1日運営再開。
令和3年度	自然館、開館30周年。記念式典(7月17日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。 巡回展「ポケモン化石博物館(10月9日～1月30日)」を国立科学博物館等と協働で開催。 県の新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置適用に伴う休業要請を受け、自然館・埋没林公園、キャンプ場とも1月27日～2月20日休業。2月21日運営再開。 自然館、ビジュアルドーム鑑賞環境向上業務のため、同施設の運営を休止(11月25日～3月11日)。3月12日から運営開始。 埋没林公園、解説展示機能強化業務のため、2月14日～3月11日休業。3月12日から運営開始。
令和4年度	自然館及び附属施設の第三期指定管理期間最終年として積極的な事業を実施。 第四期指定管理者の指定を目指し、プロジェクトチームを中心に事業計画書・予算書を作成し、10月のプレゼンテーションを経て、12月に次期指定管理者として正式な指定を受けた。 ビジュアルドームのプラネタリウム投映機器及び映像・音響システム更新のため、同施設の運営を休止(11月24日～3月10日)。3月11日から運営開始。
令和5年度	新型コロナウイルス感染症の5類移行(5月8日)に伴いイベント、ビジュアルドーム等の制限を解除。

公益財団法人しまね自然と環境財団



Shimane Nature and Environment Foundation